

令和7年度 第4回市民意識調査 報告書

調査期間：令和7年11月28日（金）～12月14日（日）

テーマ

- 1 映像の力を使ったまちづくりについて
- 2 在宅医療・ACPについて
- 3 応急手当について
- 4 札幌の建設産業について
- 5 ひきこもりへの認識について
- 6 札幌市の仕事の取り組み方に対する評価について

札幌市

目 次

1 調査実施の概要

(1) 目 的-----	2
(2) 項 目-----	2
(3) 設 計-----	2
(4) 回収結果-----	2
(5) 回答者の特性-----	3
(6) 回答者の特性(WEB 回答のみ)-----	4
(7) 集計・分析上の注意事項-----	4

2 調査結果の詳細

(1)映像の力を使ったまちづくりについて

フィルムコミッションの認知度-----	6
札幌市の取組支援の認知度-----	7
ボランティアエキストラ制度の認知度-----	8
制度を知った媒体・きっかけ-----	9
市内での映画・テレビ番組撮影への印象(1)～(3)-----	10
商品選択における映画やテレビ番組の影響度-----	13
商品選択における認知媒体-----	14

(2)在宅医療・ACPについて

人生最期の過ごし方について-----	15
在宅医療への懸念-----	16
在宅医療の利用状況-----	17
利用中の在宅医療への満足度-----	18
ACP・人生会議の認知度-----	19
ACP・人生会議を知ったきっかけ-----	20
人生最期に希望する医療の相談状況-----	21
人生最期に希望する医療の相談タイミング-----	22

(3)応急手当について

応急手当の可否-----	23
応急手当ができない理由-----	24
応急手当講習の受講経験-----	25
応急手当講習未受講の理由-----	26
今後受けたい救命講習の種類-----	27

(4)札幌の建設産業について	
建設産業の主な仕事の認知度-----	28
建設産業の主な職種の認知度-----	29
建設産業に対するイメージ-----	30
建設産業に対するイメージを持ったきっかけ-----	31
建設会社が目指す主な会社像-----	32
就職先選択の重要条件-----	33
(5)ひきこもりへの認識について	
ひきこもりに対する年齢層のイメージ-----	34
ひきこもりに対する性別のイメージ-----	35
ひきこもり状態にあると思う期間-----	36
ひきこもり状態になるきっかけ-----	37
ひきこもりに対する印象(ア～オ)-----	38
札幌市ひきこもり地域支援センターの認知度-----	43
集団型支援拠点「よりどころ」の認知度-----	44
相談したい人や場所の条件-----	45
(6)札幌市の仕事の取り組み方に対する評価について	
市役所・区役所の取組評価-----	46
行政手続きの改善点-----	47
資料:令和7年度第4回市民意識調査票-----	48

調査実施の概要

1 調査実施の概要

1) 目的

この調査は、昭和 49 年度から毎年実施しており、市政や市民生活に関して、市民の意識、関心、要望の傾向などを測定し、市政の参考とするものである。令和 7 年度第 4 回調査では、「映像の力を使ったまちづくりについて」「在宅医療・ACP について」などをテーマとして設問を構成している。

(2) 項目

映像の力を使ったまちづくりについて
在宅医療・ACP について
応急手当について
札幌の建設産業について
ひきこもりへの認識について
札幌市の仕事の取り組み方に対する評価について

(3) 設計

調査地域	札幌市内
調査対象	満 18 歳以上の男女個人
標本数	5,000 人
調査方法	調査票を郵送し、返信用封筒で回収又は WEB 回答で回収
調査期間	令和 7 年(2025 年) 1 1 月 2 8 日(金)～1 2 月 1 4 日(日)
抽出方法	住民基本台帳から「等間隔無作為抽出」 (対象者の抽出は、本市の電算システムにて行う。)

(4) 回収結果

発送数	5,000
回収数 (率)	2,485 (49.7%) うち WEB 回答 870 (35.0%)

(5) 回答者の特性

区分	実数	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)	その他	比率(%)	無回答	比率(%)	合計	比率(%)
対象者全体	2,485	100.0%	994	40.0%	1,468	59.1%	13	0.5%	10	0.4%	2,485	100%
【性別】												
男性	994	40.0%	994	100%	—	—	—	—	—	—	994	100%
女性	1,468	59.1%	—	—	1,468	100%	—	—	—	—	1,468	100%
その他	13	0.5%	—	—	—	—	13	100%	—	—	13	100%
無回答	10	0.4%	—	—	—	—	—	—	10	100%	10	100%
【年代】												
29歳以下	202	8.1%	94	46.5%	106	52.5%	2	1.0%	—	0.0%	202	100%
30～39歳	237	9.5%	101	42.6%	133	56.1%	3	1.3%	—	0.0%	237	100%
40～49歳	313	12.6%	116	37.1%	195	62.3%	2	0.6%	—	0.0%	313	100%
50～59歳	463	18.6%	162	35.0%	296	63.9%	5	1.1%	—	0.0%	463	100%
60～69歳	490	19.7%	210	42.9%	279	56.9%	1	0.2%	—	0.0%	490	100%
70歳以上	768	30.9%	311	40.5%	456	59.4%	—	0.0%	1	0.1%	768	100%
無回答	12	0.5%	—	0.0%	3	25.0%	—	0.0%	9	75.0%	12	100%
【居住区】												
中央区	298	12.0%	116	38.9%	181	60.7%	1	0.3%	—	0.0%	298	100%
北区	351	14.1%	150	42.7%	200	57.0%	1	0.3%	—	0.0%	351	100%
東区	294	11.8%	109	37.1%	183	62.2%	2	0.7%	—	0.0%	294	100%
白石区	259	10.4%	106	40.9%	151	58.3%	2	0.8%	—	0.0%	259	100%
厚別区	154	6.2%	56	36.4%	97	63.0%	1	0.6%	—	0.0%	154	100%
豊平区	295	11.9%	122	41.4%	170	57.6%	2	0.7%	1	0.3%	295	100%
清田区	142	5.7%	63	44.4%	77	54.2%	1	0.7%	1	0.7%	142	100%
南区	191	7.7%	82	42.9%	107	56.0%	2	1.0%	—	0.0%	191	100%
西区	299	12.0%	116	38.8%	183	61.2%	—	0.0%	—	0.0%	299	100%
手稲区	190	7.6%	73	38.4%	116	61.1%	1	0.5%	—	0.0%	190	100%
無回答	12	0.5%	1	8.3%	3	25.0%	—	0.0%	8	66.7%	12	100%
【職業】												
会社員	706	28.4%	403	57.1%	301	42.6%	2	0.3%	—	0.0%	706	100%
公務員	97	3.9%	69	71.1%	28	28.9%	—	0.0%	—	0.0%	97	100%
自営業	137	5.5%	78	56.9%	59	43.1%	—	0.0%	—	0.0%	137	100%
パート・アルバイト	403	16.2%	77	19.1%	321	79.7%	5	1.2%	—	0.0%	403	100%
主婦・主夫	406	16.3%	4	1.0%	401	98.8%	1	0.2%	—	0.0%	406	100%
学生	54	2.2%	24	44.4%	29	53.7%	1	1.9%	—	0.0%	54	100%
無職	545	21.9%	283	51.9%	259	47.5%	1	0.2%	2	0.4%	545	100%
その他	118	4.7%	51	43.2%	64	54.2%	3	2.5%	—	0.0%	118	100%
無回答	19	0.8%	5	26.3%	6	31.6%	—	0.0%	8	42.1%	19	100%
【同居家族】												
配偶者	1,459	58.7%	634	43.5%	818	56.1%	6	0.4%	1	0.1%	1,459	100%
乳幼児（0～2歳程度）	56	2.3%	17	30.4%	39	69.6%	—	0.0%	—	0.0%	56	100%
就学前児童（3～5歳程度）	108	4.3%	40	37.0%	68	63.0%	—	0.0%	—	0.0%	108	100%
小学生（6～12歳程度）	163	6.6%	54	33.1%	109	66.9%	—	0.0%	—	0.0%	163	100%
中学生（13～15歳程度）	103	4.1%	33	32.0%	70	68.0%	—	0.0%	—	0.0%	103	100%
高校生（16～18歳程度）	127	5.1%	38	29.9%	87	68.5%	2	1.6%	—	0.0%	127	100%
大学（院）・専門学校生	92	3.7%	29	31.5%	63	68.5%	—	0.0%	—	0.0%	92	100%
65歳以上の高齢者	357	14.4%	144	40.3%	208	58.3%	4	1.1%	1	0.3%	357	100%
上記「1」～「8」以外の方	468	18.8%	175	37.4%	290	62.0%	3	0.6%	—	0.0%	468	100%
いない	523	21.0%	199	38.0%	321	61.4%	3	0.6%	—	0.0%	523	100%
無回答	22	0.9%	2	9.1%	12	54.5%	—	0.0%	8	36.4%	22	100%

(6) 回答者の特性 (WEB 回答のみ)

区分	実数	比率 (%)	男性	比率 (%)	女性	比率 (%)	その他	比率 (%)	無回答	比率 (%)	合計	比率 (%)
対象者全体	870	100.0%	414	47.6%	447	51.4%	9	1.0%	0	0.0%	870	100%
【性別】												
男性	414	47.6%	414	100%	—	—	—	—	—	—	414	100%
女性	447	51.4%	—	—	447	100%	—	—	—	—	447	100%
その他	9	1.0%	—	—	—	—	9	100%	—	—	9	100%
無回答	0	0.0%	—	—	—	—	—	—	—	0.0%	0	0.0%
【年代】												
29歳以下	140	16.1%	68	48.6%	70	50.0%	2	1.4%	—	0.0%	140	100%
30～39歳	148	17.0%	71	48.0%	75	50.7%	2	1.4%	—	0.0%	148	100%
40～49歳	192	22.1%	77	40.1%	113	58.9%	2	1.0%	—	0.0%	192	100%
50～59歳	192	22.1%	85	44.3%	104	54.2%	3	1.6%	—	0.0%	192	100%
60～69歳	147	16.9%	77	52.4%	70	47.6%	—	0.0%	—	0.0%	147	100%
70歳以上	51	5.9%	36	70.6%	15	29.4%	—	0.0%	—	0.0%	51	100%
無回答	0	0.0%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%	—	0.0%	0	0.0%

(7) 集計・分析上の注意事項

報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で標記している。また、図表中の構成比 (%) は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100.0% になっていない場合がある。

なお、個々の選択肢比率を合算する場合（「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計など）は、個々の回答者数の合計をNで除して百分率を求め、小数第2位を四捨五入した。このため、本文やグラフの比率を単純合計したものにはならない場合がある。

調査結果の詳細

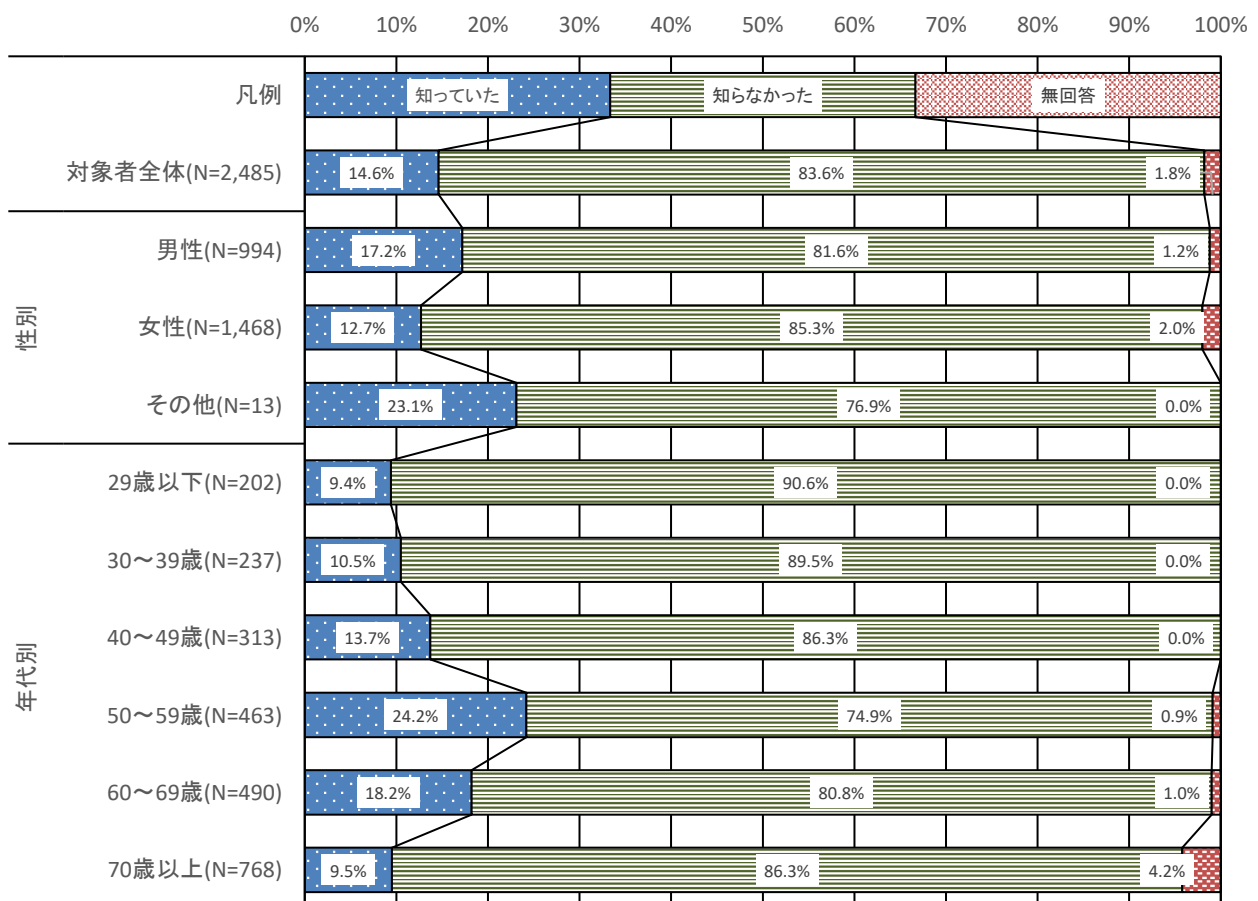
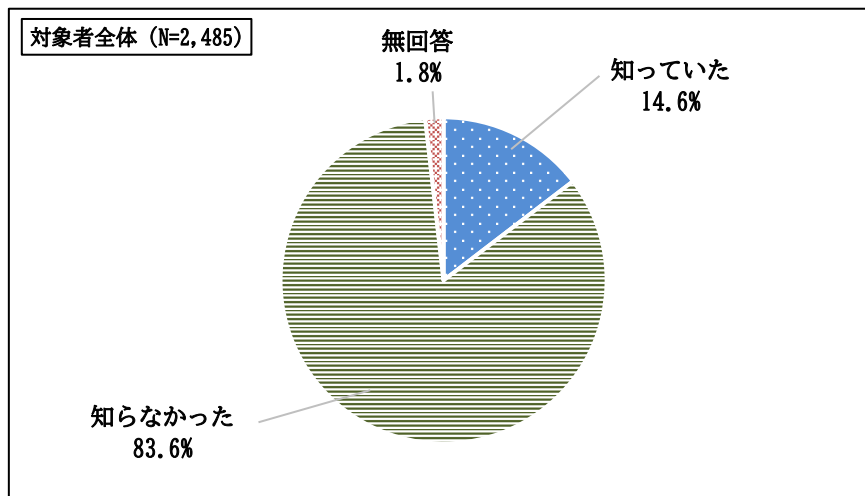
2 調査結果の詳細

(1) 映像の力を使ったまちづくりについて

◇フィルムコミッションの認知度

問1 あなたは、フィルムコミッションの言葉の意味を知っていましたか。

フィルムコミッションの認知度について「知っていた」と回答した人が14.6%



【全 体】フィルムコミッションの認知度は、「知っていた」が14.6%、「知らなかった」が83.6%となっている。

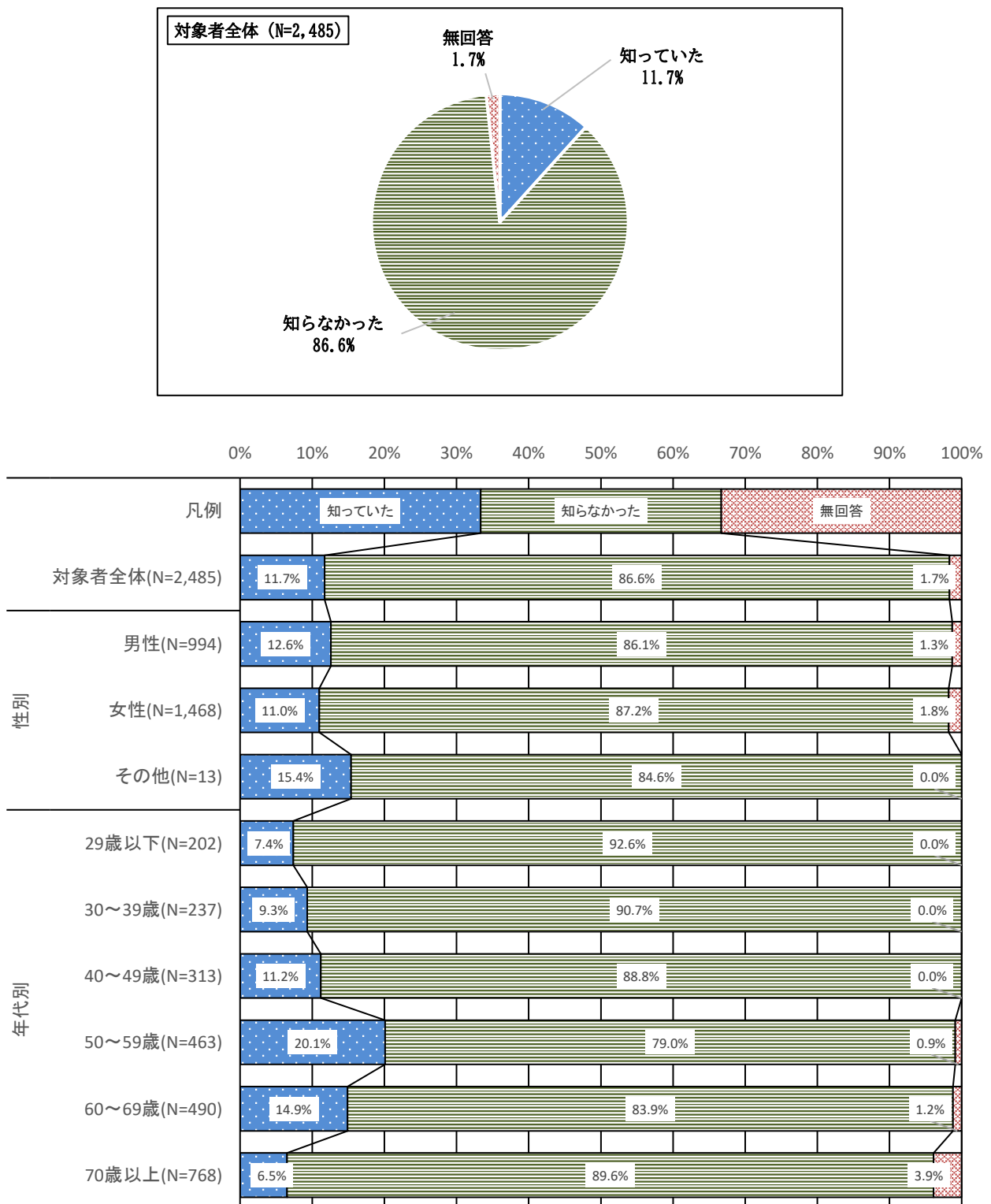
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「知っていた」が50歳代(24.2%)で最も高く、次いで60歳代(18.2%)、40歳代(13.7%)となっている。

◇札幌市の取組支援の認知度

問2 あなたは、札幌市がフィルムコミッションの取り組みを支援していることを知っていましたか。

札幌市のフィルムコミッション取組支援の認知度について「知っていた」と回答した人が11.7%



【全 体】札幌市のフィルムコミッション取組支援の認知度は、「知っていた」が11.7%、「知らなかった」が86.6%となっている。

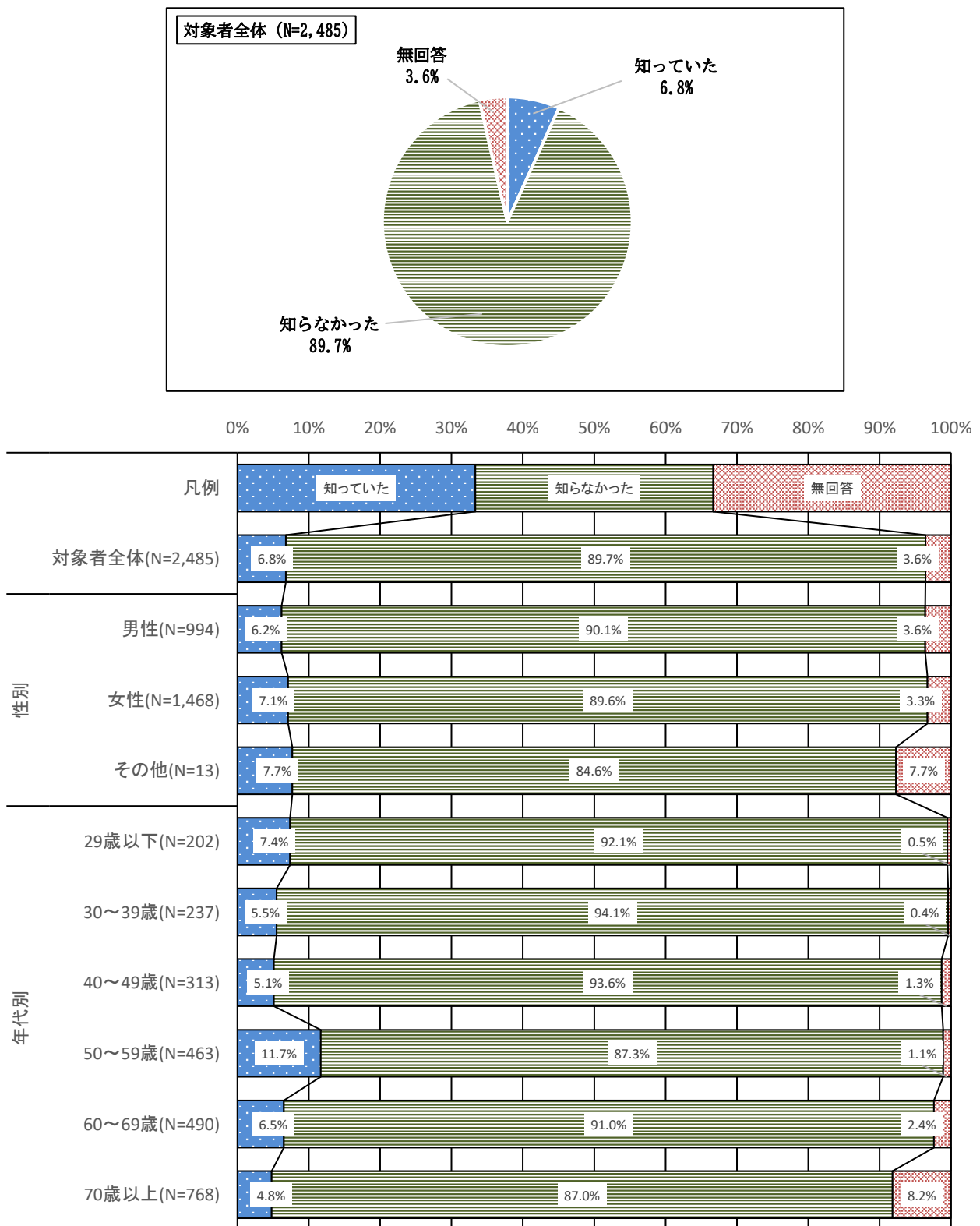
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「知っていた」は50歳代(20.1%)で最も高く、最も低い70歳以上(6.5%)と比べると13.6ポイントの差となっている。

◇ボランティアエキストラ制度の認知度

問3 あなたは、札幌フィルムコミッションのボランティアエキストラ制度を知っていましたか。

札幌フィルムコミッションのボランティアエキストラ制度を「知っていた」が6.8%



【全 体】ボランティアエキストラ制度の認知度は、「知っていた」が6.8%、「知らなかった」が89.7%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

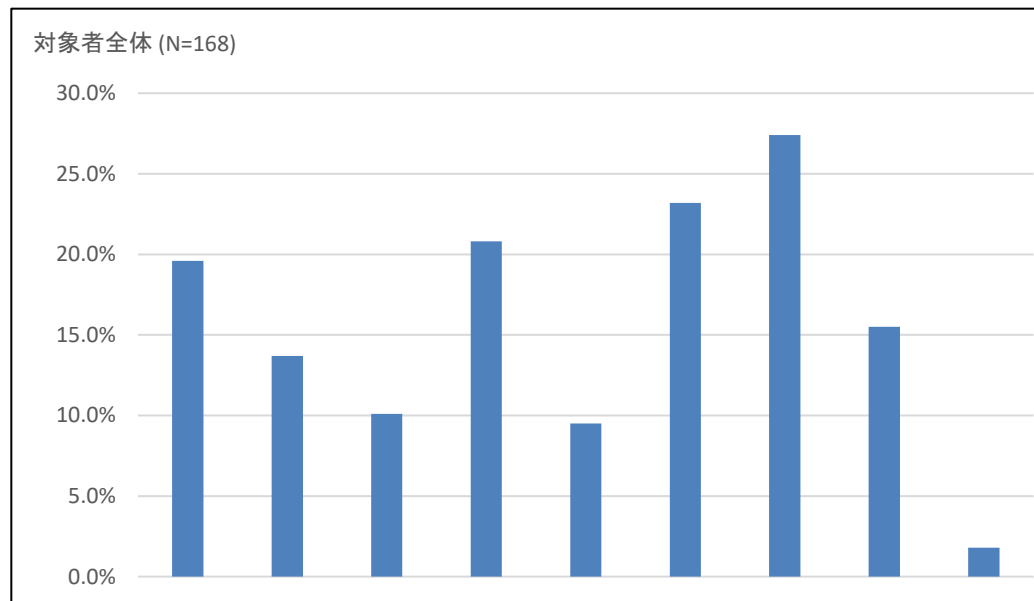
【年代別】「知っていた」は50歳代（11.7%）で最も高く、最も低い70歳以上（4.8%）と比べると6.9ポイントの差となっている。

◇制度を知った媒体・きっかけ

「問3で「1 知っていた」と答えた方にお聞きします。」

問3-1 あなたが札幌フィルムコミッションのボランティアエキストラ制度を知った場所や方法について、次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ボランティアエキストラ制度を知ったきっかけとして「その他」と回答した人が27.4%



		対象者数	札幌市公式ホームページ	札幌フィルムコミッションホームページ	札幌公式SNS(※)	映画やドラマなどのエンドクレジット	上映会などのイベント会場	街頭に掲示されているポスター	その他	覚えていない	無回答
		(%)									
対象者全体		168	19.6	13.7	10.1	20.8	9.5	23.2	27.4	15.5	1.8
性別	男性	62	17.7	24.2	9.7	29.0	9.7	21.0	30.6	9.7	-
	女性	104	21.2	7.7	10.6	16.3	9.6	25.0	26.0	17.3	2.9
	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
年代別	29歳以下	15	13.3	6.7	13.3	6.7	6.7	46.7	33.3	6.7	-
	30～39歳	13	23.1	7.7	7.7	38.5	7.7	38.5	-	15.4	-
	40～49歳	16	25.0	6.3	6.3	37.5	-	25.0	25.0	6.3	-
	50～59歳	54	16.7	14.8	13.0	18.5	13.0	20.4	25.9	24.1	1.9
	60～69歳	32	28.1	25.0	12.5	18.8	12.5	18.8	25.0	9.4	-
	70歳以上	37	16.2	10.8	5.4	18.9	8.1	16.2	40.5	13.5	5.4

■ 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】制度を知った媒体・きっかけは、「その他」が27.4%、「街頭に掲示されているポスター」が23.2%、「映画やドラマなどのエンドクレジット」が20.8%となっている。

【性 別】「札幌フィルムコミッションホームページ」、「映画やドラマなどのエンドクレジット」で男性が女性より12.7ポイント以上高くなっている。

【年代別】「街頭に掲示されているポスター」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

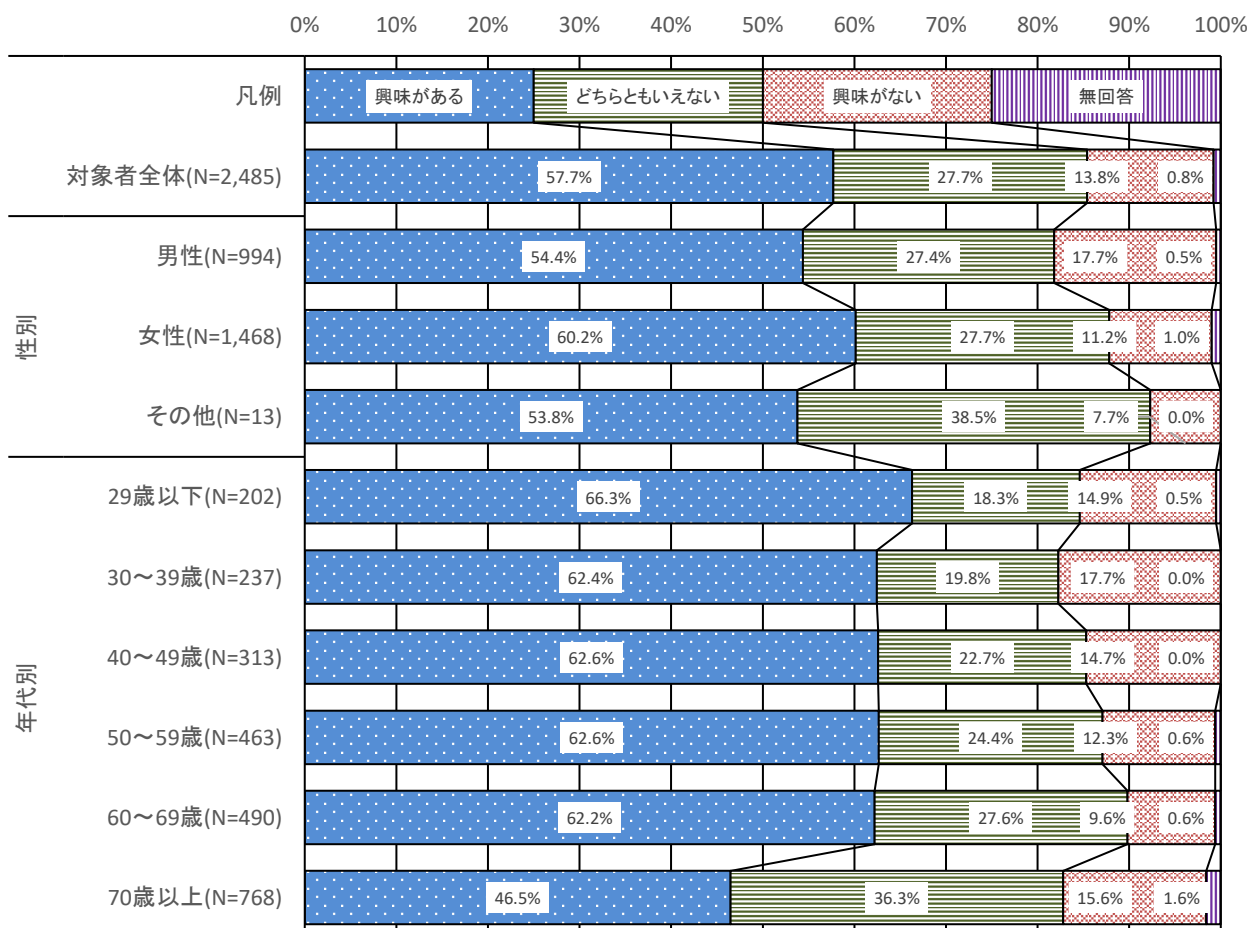
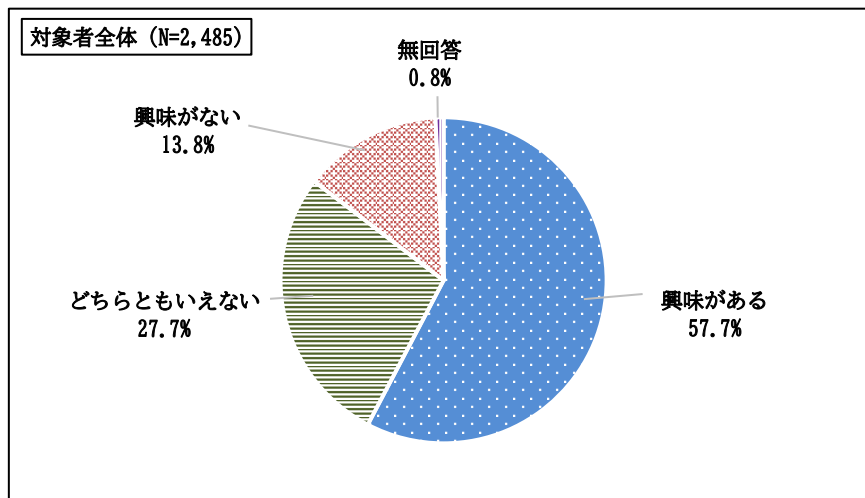
◇市内での映画・テレビ番組撮影への印象

「皆さまにお聞きます。」

問4 あなたは、市内で行われる映画やテレビ番組などの撮影を見かけたら、どのように思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものに一つだけ○をつけてください。

(1) 撮影に興味はありますか。

撮影への興味について「興味がある」と回答した人が57.7%



【全 体】撮影への興味については、「興味がある」が57.7%、「どちらともいえない」が27.7%、「興味がない」が13.8%となっている。

【性 別】「興味がある」は女性で60.2%と、男性の54.4%より5.8ポイント高くなっている。

【年代別】「どちらともいえない」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

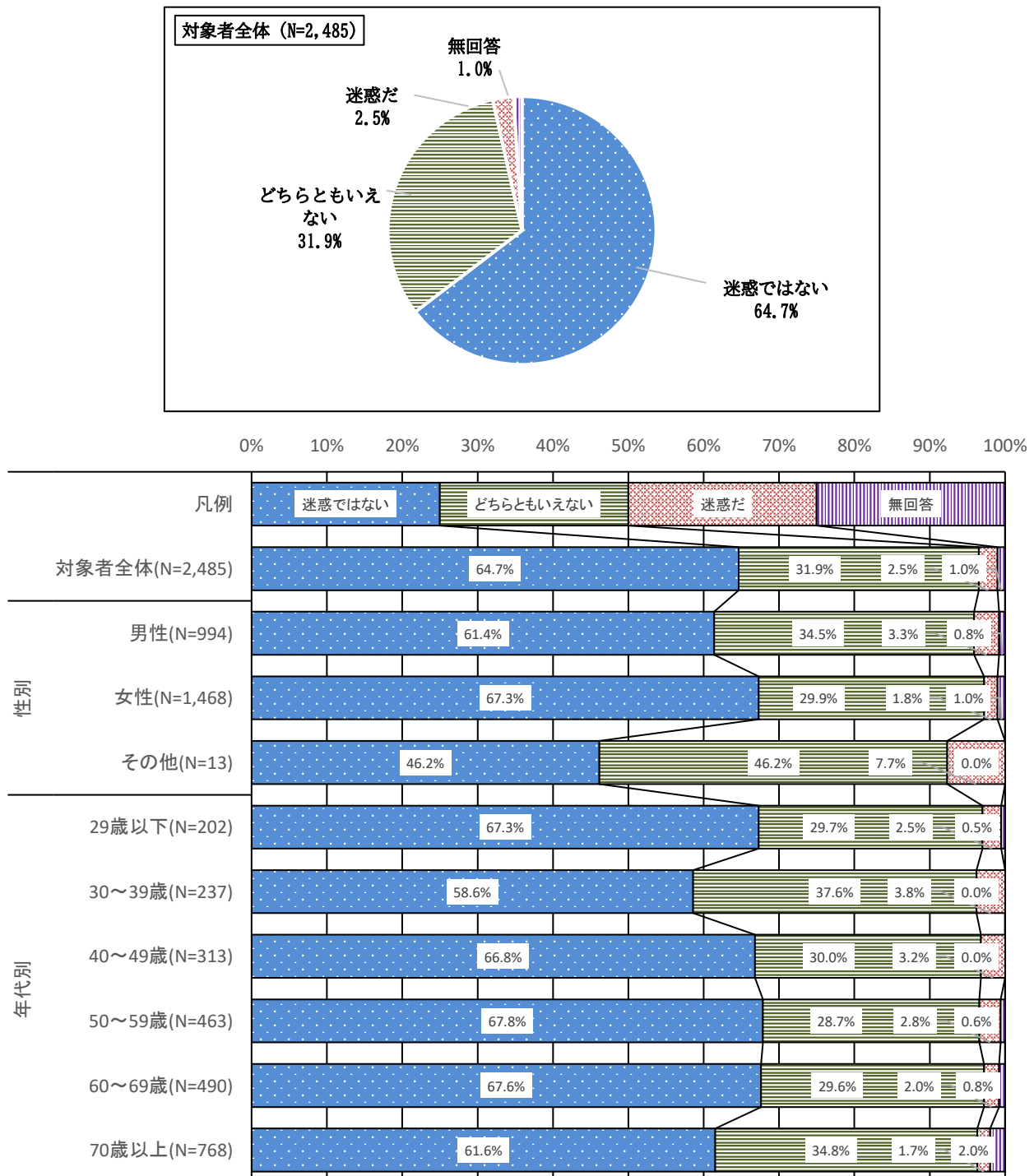
◇市内での映画・テレビ番組撮影への印象

「皆さまにお聞きます。」

問4 あなたは、市内で行われる映画やテレビ番組などの撮影を見かけたら、どのように思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものに一つだけ○をつけてください。

(2) 撮影を迷惑だと感じますか。

撮影を迷惑と感じるかについて「迷惑ではない」と回答した人が64.7%



【全 体】撮影を迷惑と感じるかについては、「迷惑ではない」が64.7%、「どちらともいえない」が31.9%、「迷惑だ」が2.5%となっている。

【性 別】「迷惑ではない」は、女性で67.3%と、男性の61.4%より5.9ポイント高くなっている。

【年代別】「迷惑ではない」が50歳代(67.8%)で最も高く、最も低い30歳代(58.6%)と比べると9.2ポイントの差となっている。

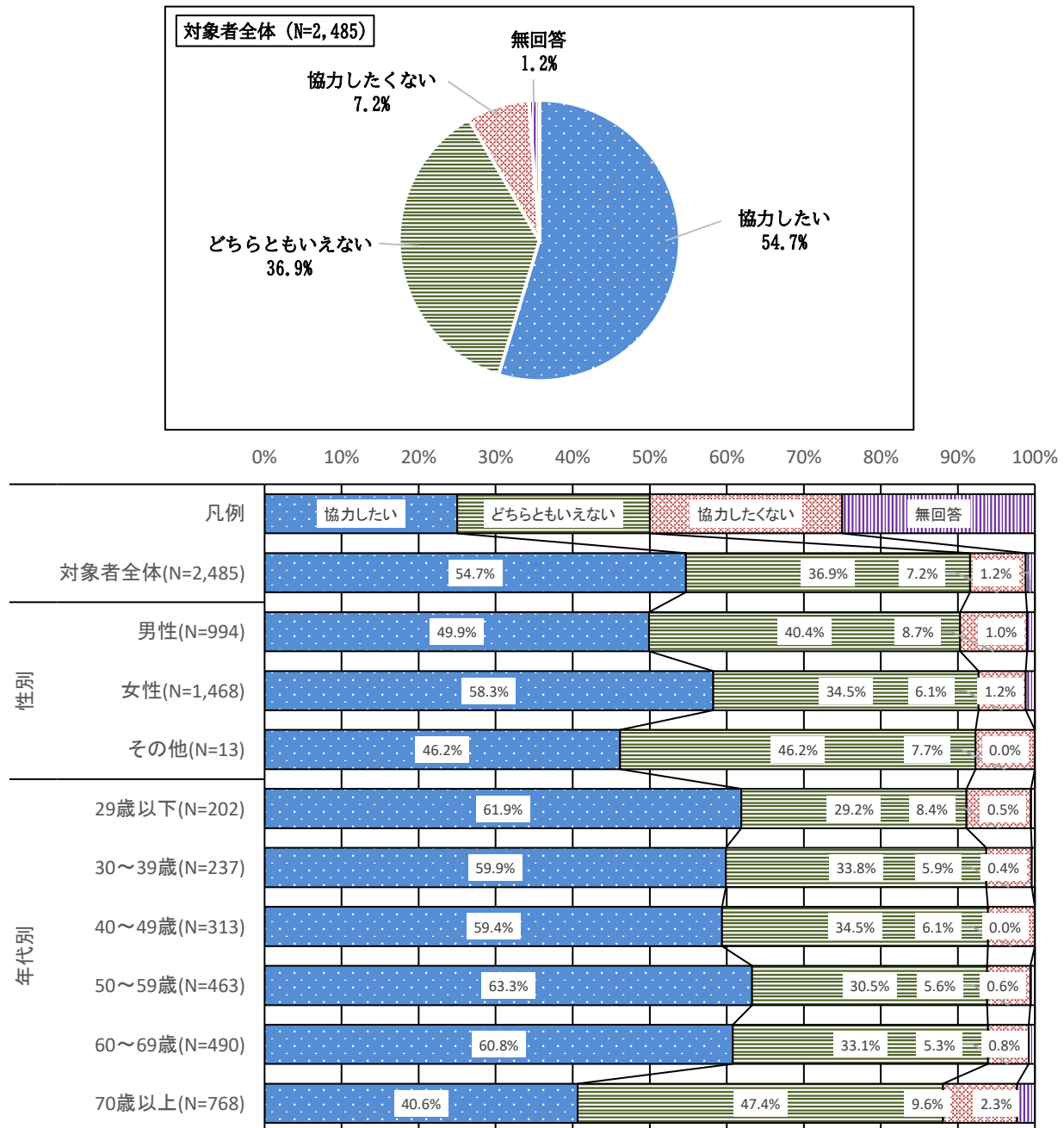
◇市内での映画・テレビ番組撮影への印象

「皆さまにお聞きします。」

問4 あなたは、市内で行われる映画やテレビ番組などの撮影を見かけたら、どのように思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものに一つだけ○をつけてください。

(3) 撮影がスムーズに進むよう積極的に協力したいと思いますか(通行規制への協力、撮影の妨げとなる音を出さない、ボランティアエキストラとして参加するなど)。

撮影に積極的に協力したいかについて「協力したい」と回答した人が54.7%



【全 体】撮影に積極的に協力したいかについては、「協力したい」が54.7%、「どちらともいえない」が36.9%、「協力したくない」が7.2%となっている。

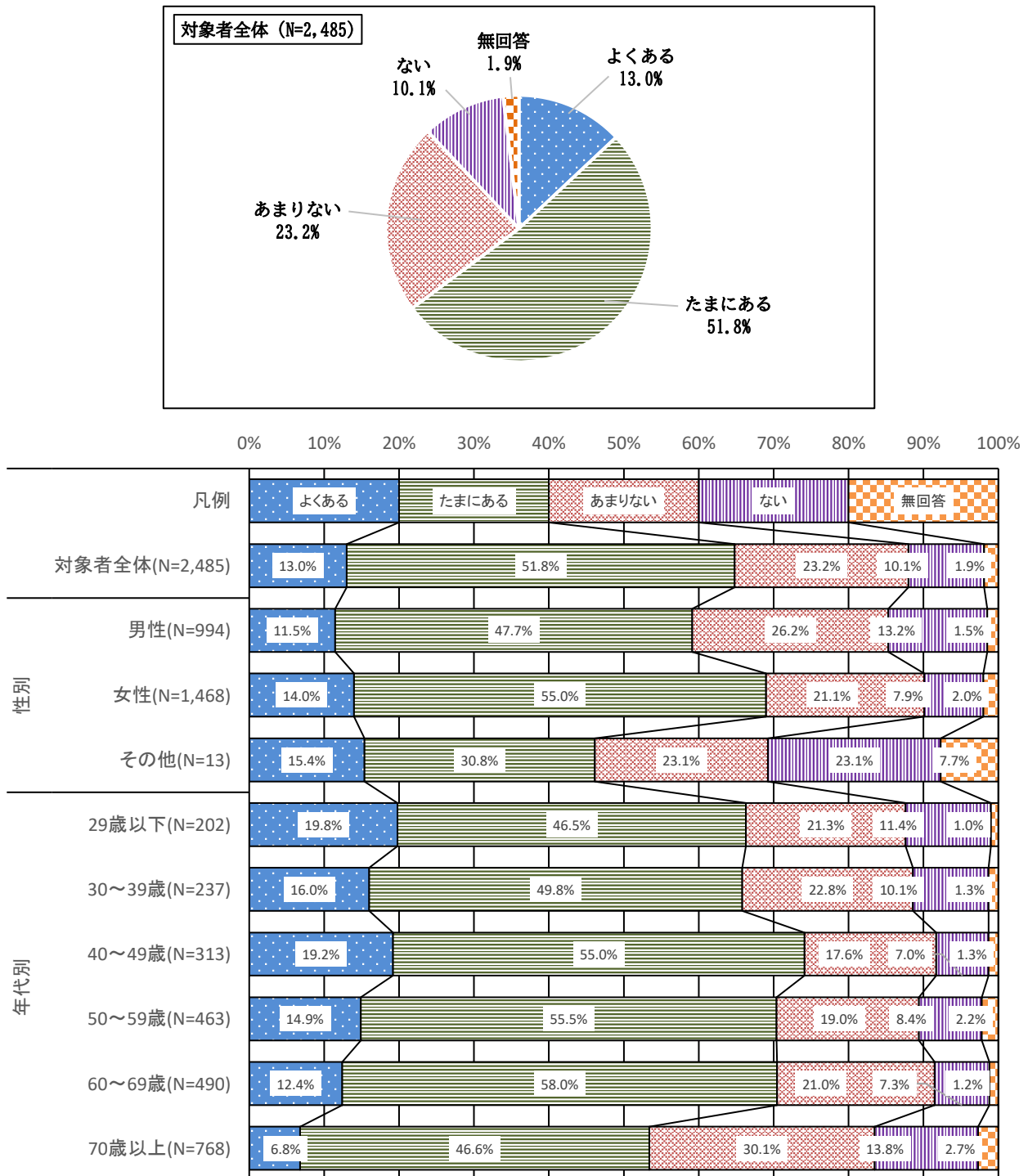
【性 別】「協力したい」が女性で58.3%と、男性49.9%より8.4ポイント高い。また、「どちらともいえない」は男性が40.4%と、女性の34.5%より5.9ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「協力したい」が、70歳以上では「どちらともいえない」が最も高くなっている。

◇商品選択における映画やテレビ番組の影響度

問5 あなたは、商品やサービスを、映画やテレビ番組などで見たことを理由に選ぶことがありますか。
あてはまるものに一つだけ○をつけてください。

商品選択における映画やテレビ番組の影響度について「たまにある」と回答した人が51.8%



【全 体】商品選択における映画やテレビ番組の影響度は、「よくある」が 13.0%、「たまにある」が 51.8%、合わせると 64.8%となっている。一方で、「あまりない」が 23.2%、「ない」が 10.1% 合わせると 33.3%となっている。

【性 別】「たまにある」は女性で 55.0%と、男性の 47.7%より 7.3 ポイント高くなっている。「あまりない」、「ない」は、男性が女性より 5.1 ポイント以上高くなっている。

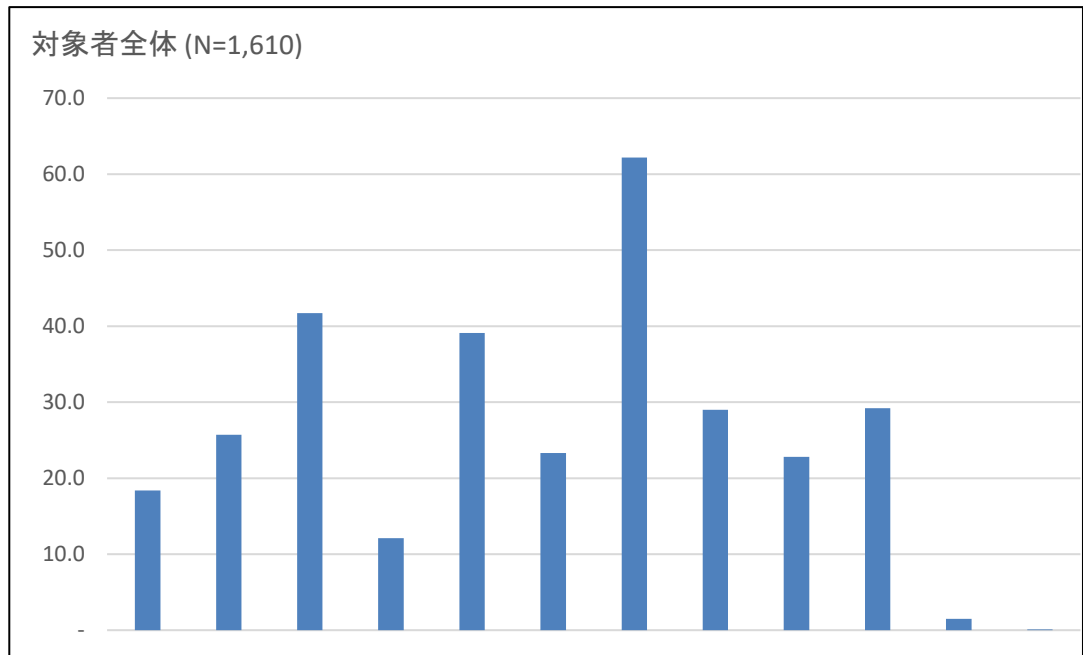
【年代別】「よくある」が 29 歳以下 (19.8%) で最も高く、次いで 40 歳代 (19.2%)、30 歳代 (16.0%) となっている。

◇商品選択における認知媒体

≪問5で「1 よくある」または「2 たまにある」と答えた方にお聞きます。≫

問5-1 あなたが選んだ商品やサービスはどのような媒体で見かけましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

商品選択における認知媒体について「テレビコマーシャル」と回答した人が62.2%



		対象者数	映画	テレビドラマ	テレビバラエティ	テレビドキュメンタリー	テレビ報道	テレビショッピング	テレビコマーシャル	インターネット上の広告	動画投稿サイト（広告を除く）	SNS（広告を除く）	その他	無回答
		(%)												
対象者全体		1,610	18.4	25.7	41.7	12.1	39.1	23.3	62.2	29.0	22.8	29.2	1.5	0.1
性別	男性	588	23.3	26.2	38.4	15.0	39.6	21.1	58.2	31.5	23.3	24.3	1.9	0.2
	女性	1,012	15.6	25.3	43.7	10.5	38.6	24.7	64.9	27.7	22.5	31.9	1.2	-
	その他	6	33.3	33.3	33.3	16.7	66.7	-	33.3	16.7	16.7	50.0	16.7	-
年代別	29歳以下	134	38.1	38.8	41.0	6.0	25.4	4.5	33.6	33.6	41.8	60.4	0.7	-
	30～39歳	156	28.8	33.3	55.1	10.9	25.6	3.8	42.9	34.0	41.0	64.7	1.9	-
	40～49歳	232	17.7	28.4	50.0	7.8	40.1	14.7	53.9	39.7	35.3	46.6	0.4	-
	50～59歳	326	20.9	28.2	53.4	13.8	40.8	20.6	57.1	34.0	26.7	36.2	1.2	-
	60～69歳	345	18.8	23.8	44.9	12.8	39.4	27.5	72.2	29.9	17.1	13.3	2.0	-
	70歳以上	410	6.6	16.6	20.5	15.4	46.8	40.5	79.5	15.1	4.4	3.7	2.0	0.2

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】商品選択における認知媒体は、「テレビコマーシャル」が62.2%、「テレビバラエティ」が41.7%、「テレビ報道」が39.1%となっている。

【性 別】「映画」は男性が23.3%と、女性の15.6%より7.7ポイント高くなっている。また、「SNS」「テレビコマーシャル」「テレビバラエティ」は、女性が男性より5.3ポイント以上高くなっている。

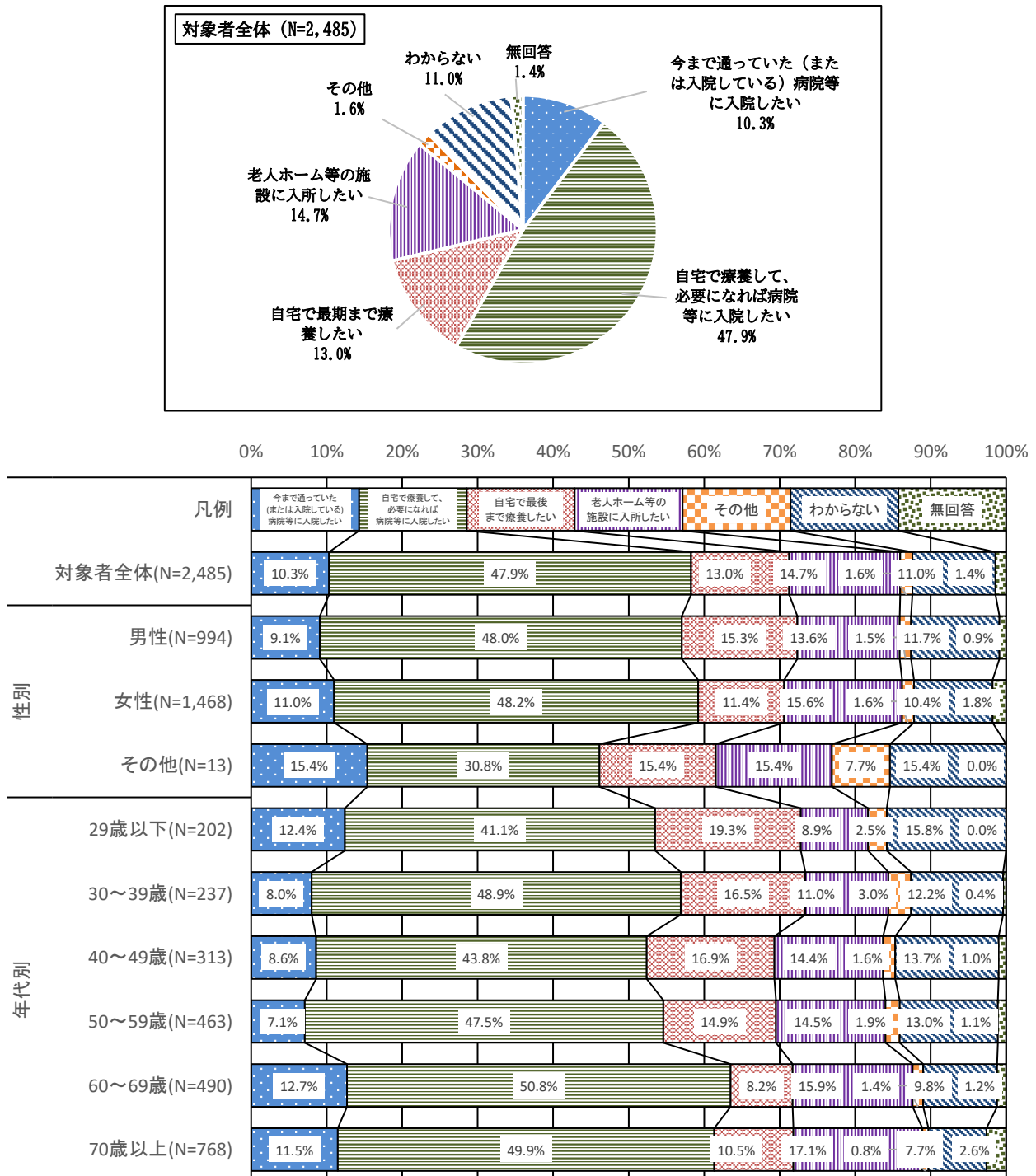
【年代別】「テレビコマーシャル」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。また、「テレビドラマ」「動画投稿サイト」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

(2) 在宅医療・ACPについて

◇人生最期の過ごし方について

問6 あなたは、高齢や病気などが理由で通院することが困難となった場合に、人生の最期の時をどのように過ごしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

人生最後の過ごし方について、「自宅で療養して必要になれば病院等入院したい」が47.9%



【全 体】人生最期の過ごし方については、「自宅で療養して、必要になれば病院等入院したい」が47.9%、「老人ホーム等の施設に入所したい」が14.7%、「自宅で最期まで療養したい」が13.0%となっている。

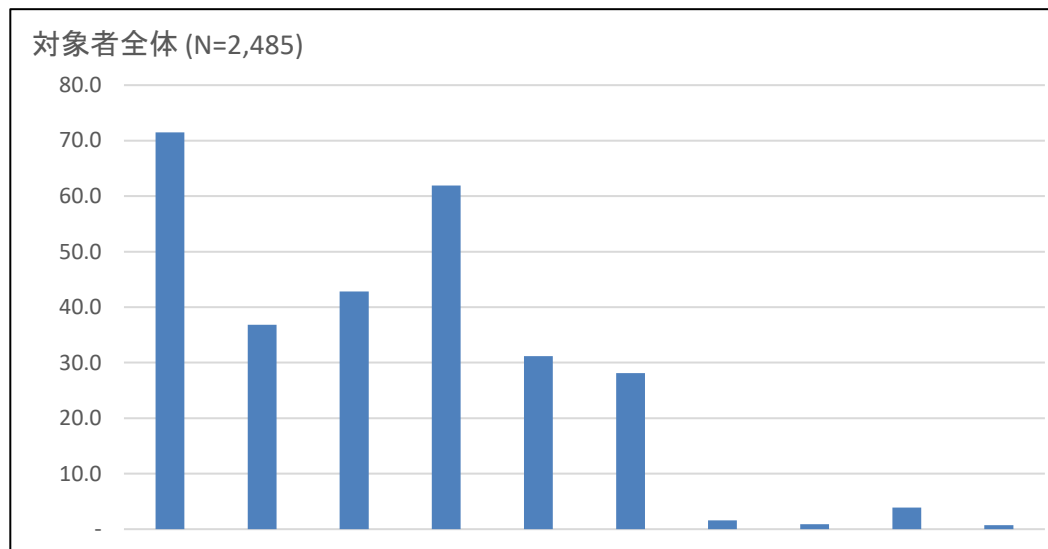
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「自宅で療養して、必要になれば病院等入院したい」が60歳代(50.8%)で最も高く、最も低い29歳以下(41.1%)と比べると9.7ポイントの差となっている。

◇在宅医療への懸念

問7 あなたは、高齢や病気などが理由で通院することが困難となった際に、仮に在宅医療を利用するとした場合、どのようなことに不安がありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

在宅医療への懸念について「家族等への負担」が71.5%



		対象者数	家族等への負担	受けられる医療の内容	突然の体調変化等への対応	経済的な負担	自宅での療養できない住環境	介護してくれる家族等がいない	その他	特になし	わからない	無回答
		(%)										
対象者全体		2,485	71.5	36.8	42.8	61.9	31.2	28.1	1.6	0.9	3.9	0.7
性別	男性	994	71.5	34.5	37.8	62.7	28.8	23.2	1.1	1.1	4.5	0.4
	女性	1,468	71.7	38.1	46.3	61.2	32.8	31.2	1.8	0.7	3.4	0.9
	その他	13	61.5	69.2	61.5	92.3	46.2	61.5	7.7	-	7.7	-
年代別	29歳以下	202	80.7	36.6	42.1	65.8	29.2	16.8	1.0	1.0	6.9	-
	30～39歳	237	77.6	30.4	35.9	73.4	31.6	27.4	1.3	0.4	3.8	-
	40～49歳	313	74.4	36.4	33.5	73.8	36.4	26.8	1.0	1.0	4.2	0.3
	50～59歳	463	73.4	36.3	41.3	70.8	31.7	31.1	2.2	0.2	1.9	0.6
	60～69歳	490	69.4	38.4	48.4	62.0	29.4	30.8	0.8	0.6	2.7	0.6
	70歳以上	768	66.7	38.3	46.9	47.1	30.5	28.5	2.1	1.6	4.9	1.3

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】在宅医療への懸念は、「家族等への負担」が71.5%、「経済的な負担」が61.9%、「突然の体調変化等への対応」が42.8%となっている。

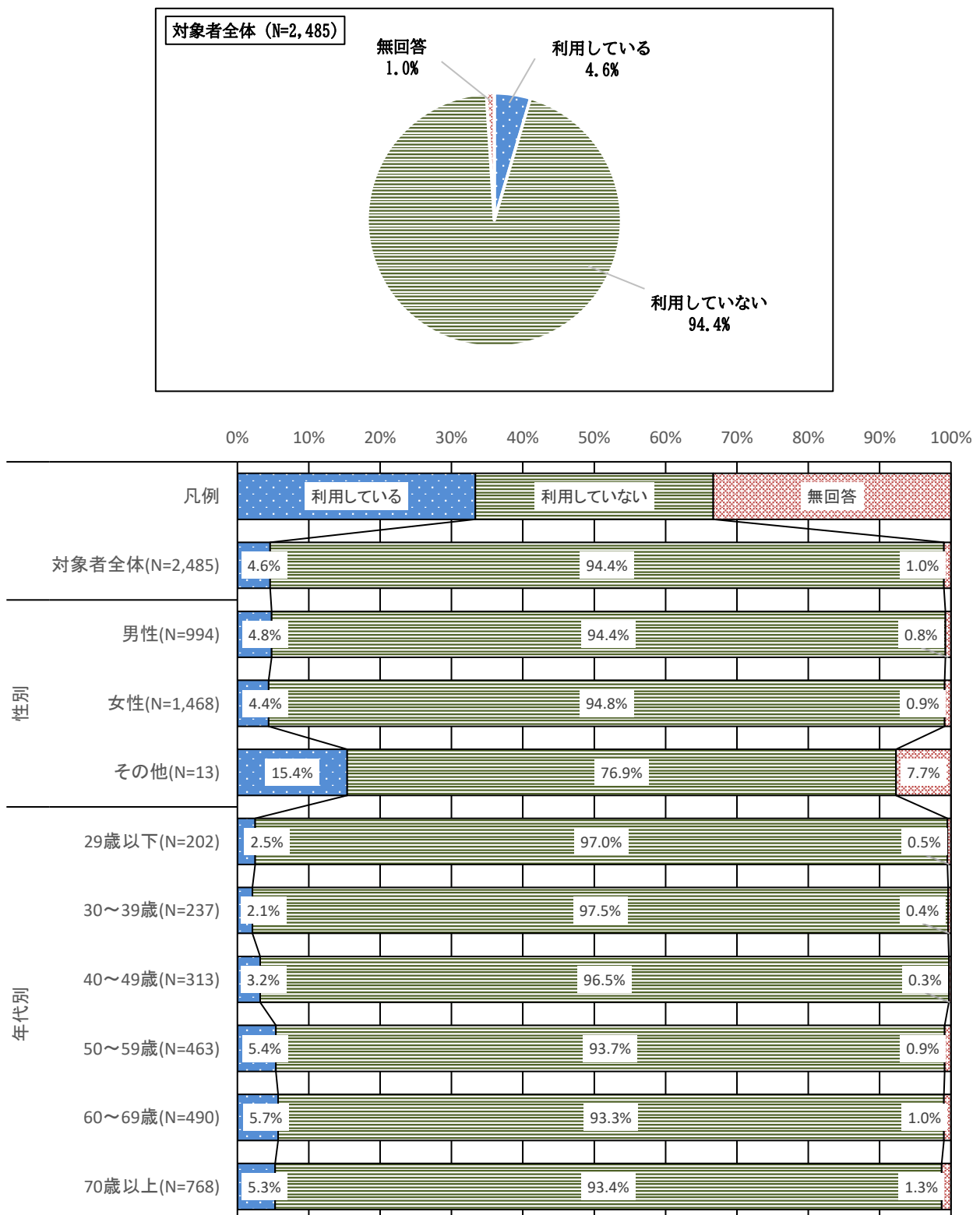
【性 別】「突然の体調変化等への対応」は女性が46.3%と、男性の37.8%より8.5ポイント高くなっている。また、「介護してくれる家族等がいない」は女性が31.2%と、男性の23.2%より8.0ポイント高くなっている。

【年代別】「家族等への負担」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇在宅医療の利用状況

問8 あなたやあなたのご家族は、現在在宅医療を利用していますか。

在宅医療の利用状況について「利用している」が4.6%



【全 体】在宅医療の利用状況は、「利用していない」が94.4%、「利用している」が4.6%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

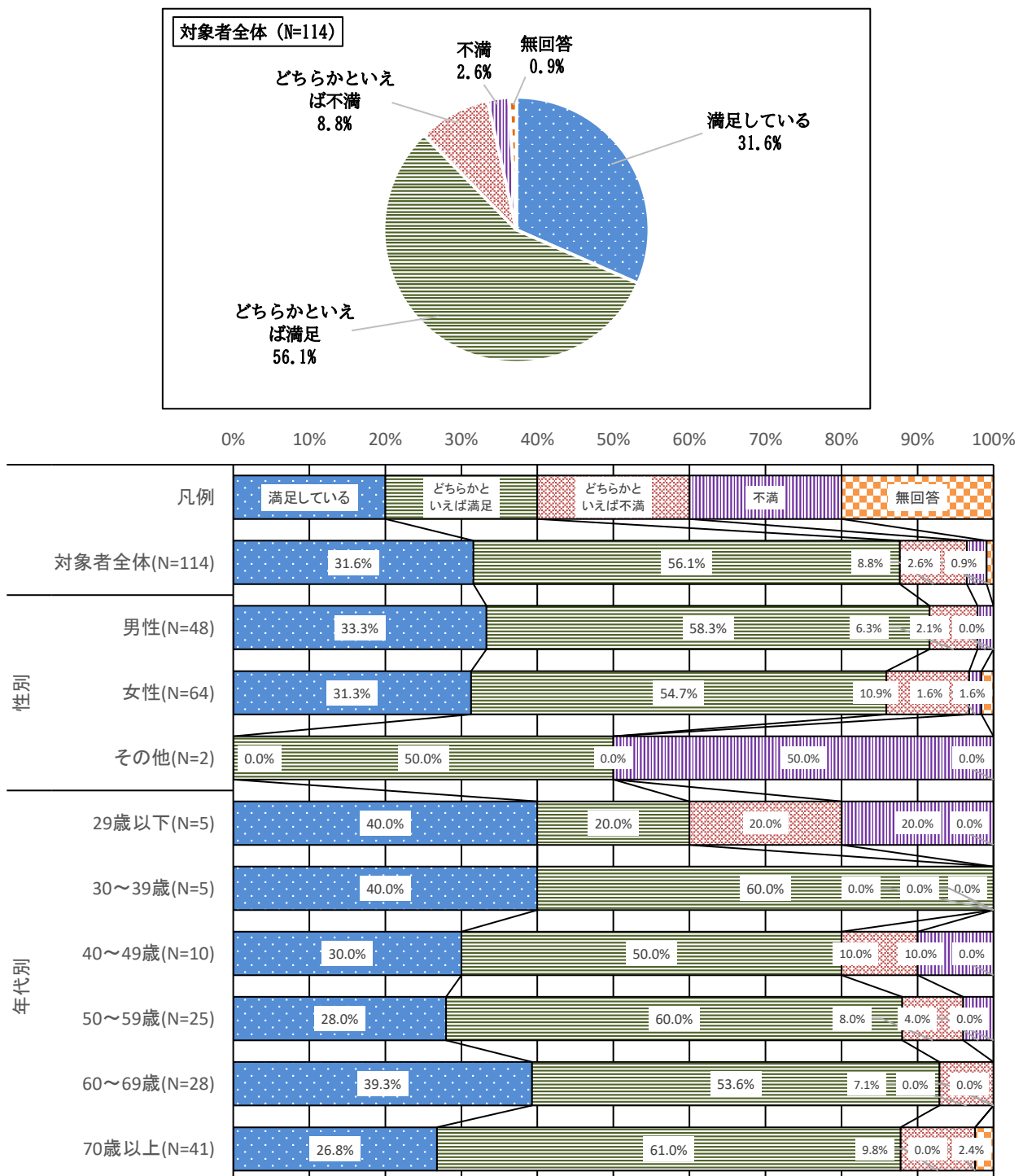
【年代別】「利用している」が60歳代(5.7%)で最も高く、最も低い30歳代(2.1%)と比べると3.6ポイントの差となっている。

◇利用中の在宅医療への満足度

《問8》で「1 利用している」と答えた方にお聞きします。》

問8-1 あなたやあなたのご家族は、現在利用している在宅医療に満足していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

利用中の在宅医療への満足度について「どちらかといえば満足」が56.1%



【全 体】利用中の在宅医療への満足度は、「どちらかといえば満足」が 56.1%、「満足している」が 31.6%、合わせると 87.7%となっている。一方で、「どちらかといえば不満」が 8.8%、「不満」が 2.6%、合わせると 11.4%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

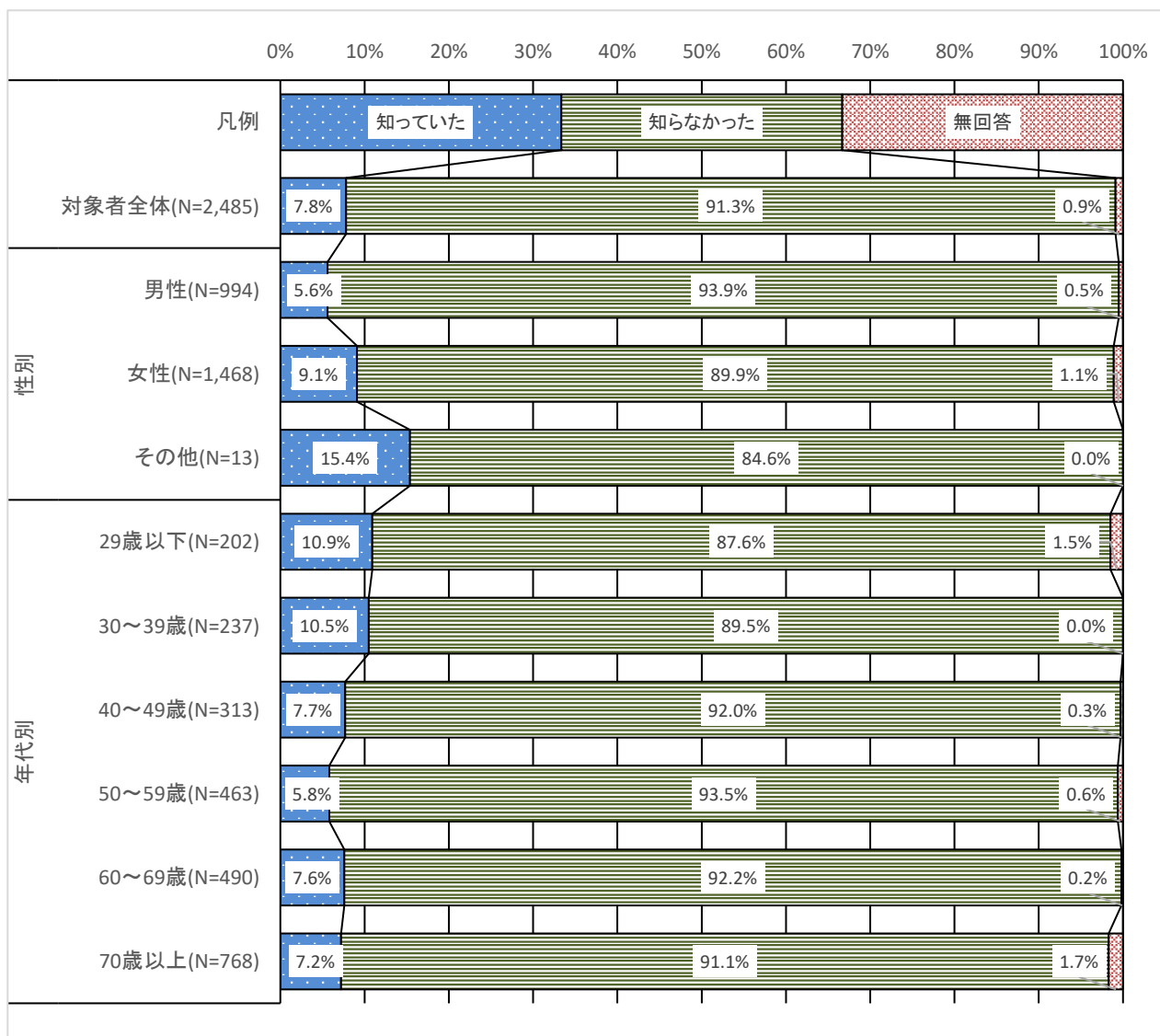
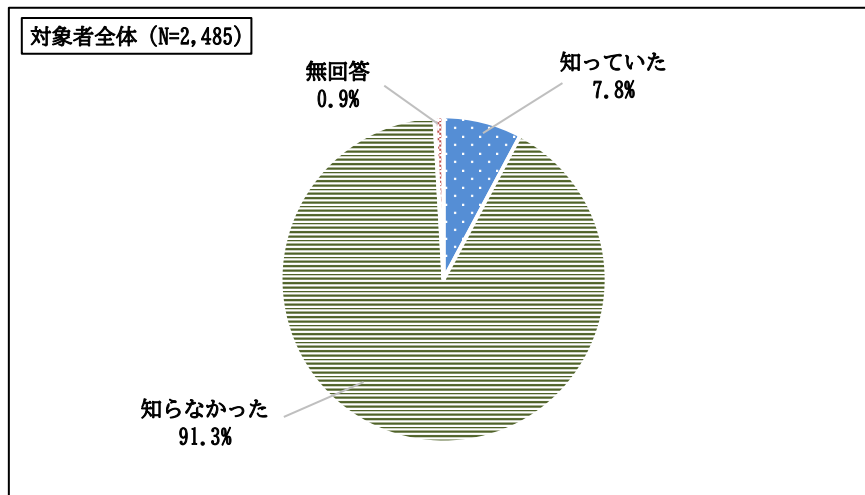
【年代別】「どちらかといえば満足」が 70 歳以上 (61.0%) で最も高く、次いで 50 歳代 (60.0%)、30 歳代 (60.0%) となっている。

◇ACP・人生会議の認知度

「皆さまにお聞きします。」

問9 あなたは、「ACP」や「人生会議」という言葉を知っていましたか。

ACP・人生会議の認知度について「知っていた」が7.8%



【全 体】 ACP・人生会議の認知度は、「知らなかった」が91.3%、「知っていた」が7.8%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

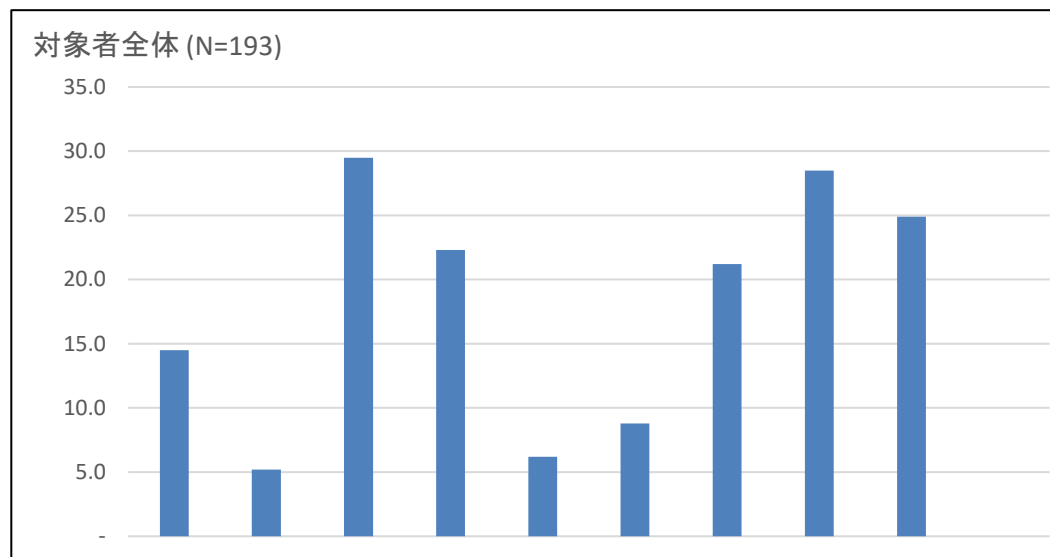
【年代別】 「知っていた」が29歳以下(10.9%)で最も高く、最も低い50歳代(5.8%)と比べると5.1ポイントの差となっている。

◇ACP・人生会議を知ったきっかけ

「問9」で「1 知っていた」と答えた方にお聞きします。」

問9-1 あなたは、「ACP」や「人生会議」をどのような方法で知りましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ACP・人生会議を知ったきっかけは「テレビ・ラジオ」が29.5%



		対象者数	札幌市が発行している冊子やパンフレット	札幌市の公式ホームページ	テレビ・ラジオ	新聞	札幌市以外が発行している冊子やパンフレット	札幌市公式以外のインターネット	研修会・講演会等	医療機関で教えてもらった	その他	無回答
		(%)										
対象者全体		193	14.5	5.2	29.5	22.3	6.2	8.8	21.2	28.5	24.9	-
性別	男性	56	17.9	12.5	33.9	25.0	8.9	12.5	19.6	23.2	17.9	-
	女性	133	12.8	2.3	27.1	21.1	5.3	7.5	21.8	31.6	28.6	-
	その他	2	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-	-
年代別	29歳以下	22	4.5	9.1	4.5	4.5	4.5	9.1	22.7	27.3	40.9	-
	30～39歳	25	-	-	12.0	4.0	4.0	8.0	24.0	36.0	44.0	-
	40～49歳	24	-	-	4.2	-	4.2	20.8	20.8	33.3	41.7	-
	50～59歳	27	14.8	-	25.9	11.1	7.4	3.7	29.6	37.0	14.8	-
	60～69歳	37	8.1	5.4	45.9	32.4	5.4	16.2	24.3	35.1	10.8	-
	70歳以上	55	34.5	10.9	47.3	47.3	9.1	1.8	14.5	16.4	18.2	-

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】 ACP・人生会議を知ったきっかけは、「テレビ・ラジオ」が29.5%、「医療機関で教えてもらった」が28.5%、「その他」が24.9%となっている。

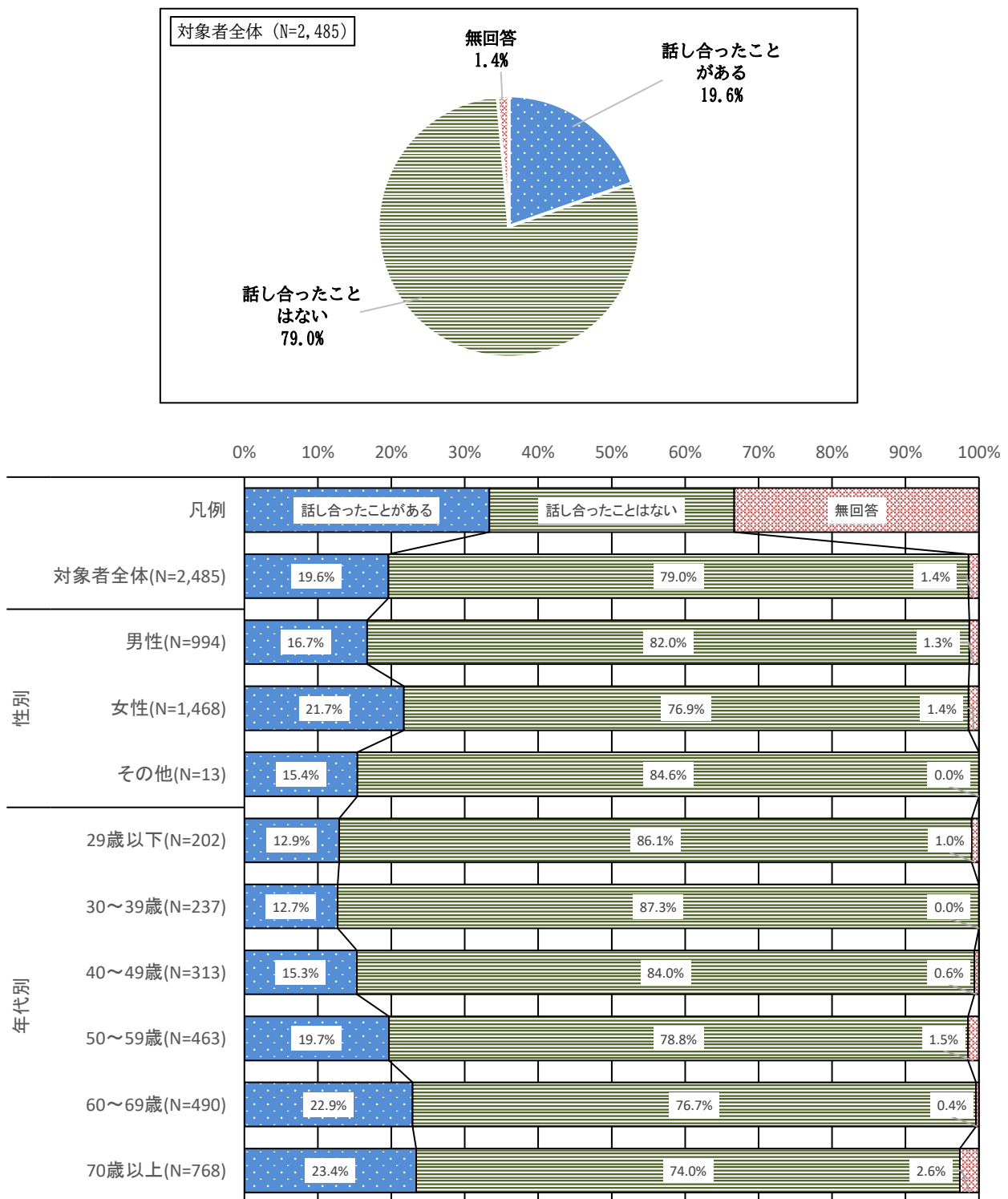
【性 別】「札幌市が発行している冊子やパンフレット」「札幌市公式ホームページ」「テレビ・ラジオ」「札幌市公式以外のインターネット」は、男性が女性より5.0ポイント以上高くなっている。一方で、「医療機関で教えてもらった」「その他」は、女性が男性より8.4ポイント以上高くなっている。

【年代別】29歳以下、30歳代、40歳代では「その他」が最も高く、50歳代では「医療機関で教えてもらった」、60歳代では「テレビ・ラジオ」、70歳以上では「テレビ・ラジオ」「新聞」が同率で最も高くなっている。

◇人生最期に希望する医療の相談状況

問 10 あなたは、人生の最期の時に望む医療やケアについて、家族や医療関係者と話し合ったことはありますか。

人生最期に希望する医療の相談状況について「話し合ったことがある」が19.6%



【全 体】人生最期に希望する医療の相談状況については、「話し合ったことはない」が79.0%、「話し合ったことがある」が19.6%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

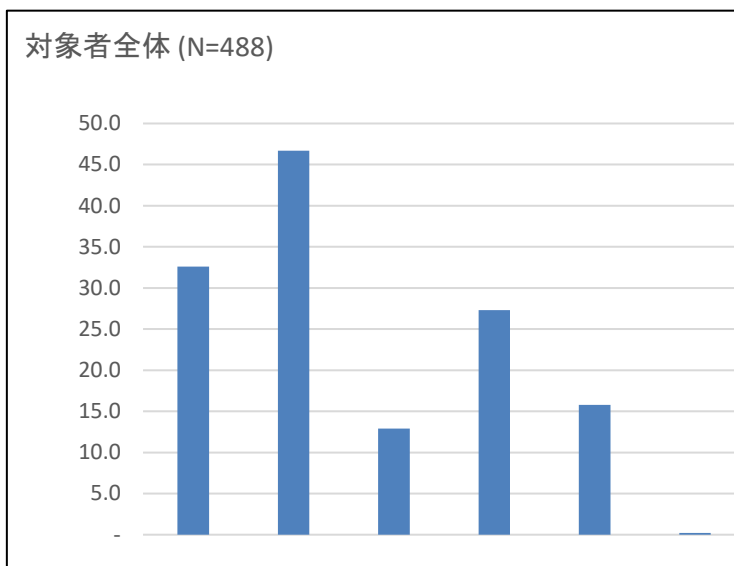
【年代別】「話し合ったことがある」は70歳以上(23.4%)で最も高く、最も低い30歳代(12.7%)と比べると10.7ポイントの差となっている。

◇人生最期に希望する医療の相談タイミング

《問10》で「1 話し合ったことがある」と答えた方にお聞きします。》

問10-1 あなたは、人生の最期の時の医療やケアについて、どのような時に家族や医療関係者と話し合っていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

人生最期に希望する医療の相談タイミングは「体調や病状に変化があったとき」が46.7%



		対象者数	病气やけがで入院したとき	体調や病状に変化があったとき	人間関係に変化があったとき	定期的に話し合っている	その他	無回答
		(%)						
対象者全体		488	32.6	46.7	12.9	27.3	15.8	0.2
性別	男性	166	39.2	49.4	11.4	26.5	15.7	0.6
	女性	319	29.5	44.8	13.8	27.9	16.0	-
	その他	2	-	100.0	-	-	-	-
年代別	29歳以下	26	34.6	30.8	19.2	30.8	7.7	-
	30～39歳	30	13.3	50.0	10.0	33.3	16.7	-
	40～49歳	48	37.5	47.9	18.8	25.0	14.6	-
	50～59歳	91	27.5	34.1	18.7	33.0	19.8	-
	60～69歳	112	31.3	53.6	9.8	27.7	17.0	-
	70歳以上	180	37.8	50.0	10.0	23.3	14.4	0.6

■ 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
■ 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】人生最期に希望する医療の相談タイミングは、「体調や病状に変化があったとき」が46.7%、「病气やけがで入院したとき」が32.6%、「定期的に話し合っている」が27.3%となっている。

【性 別】「病气やけがで入院したとき」は男性が39.2%と、女性の29.5%より9.7ポイント高くなっている。

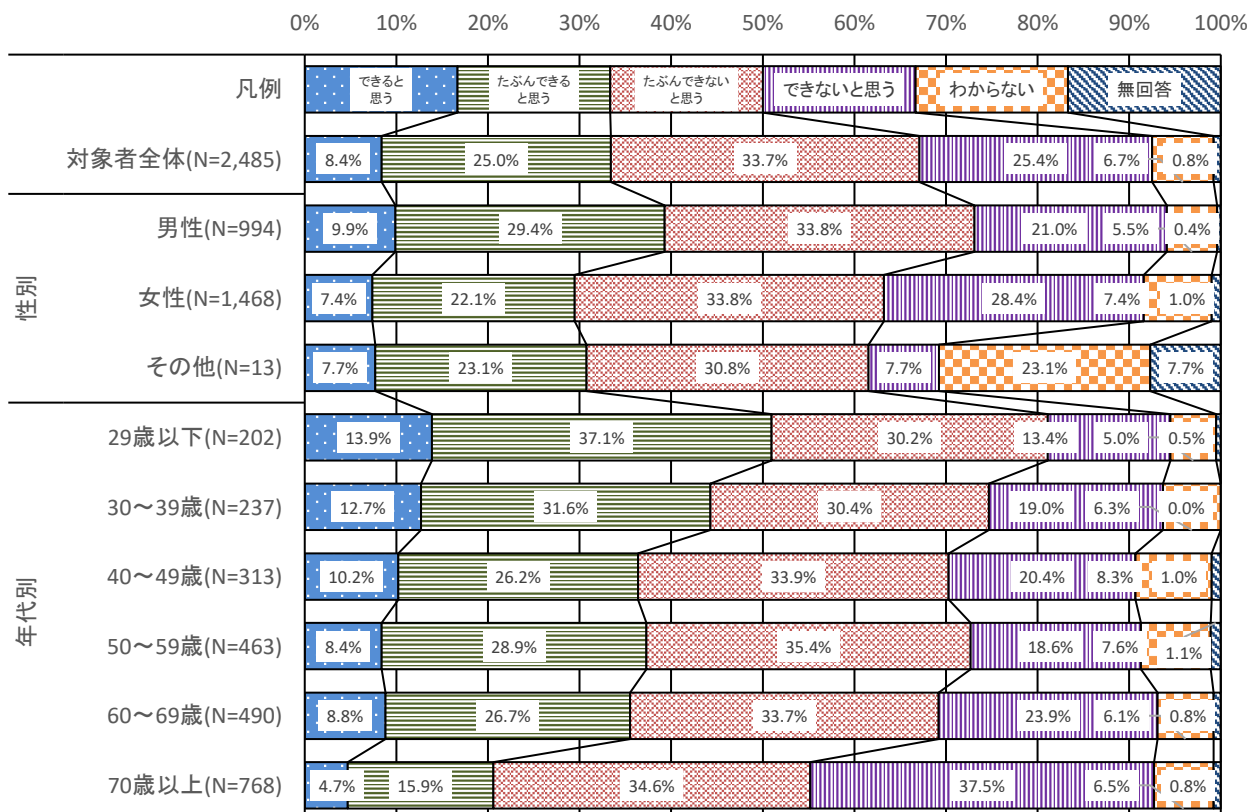
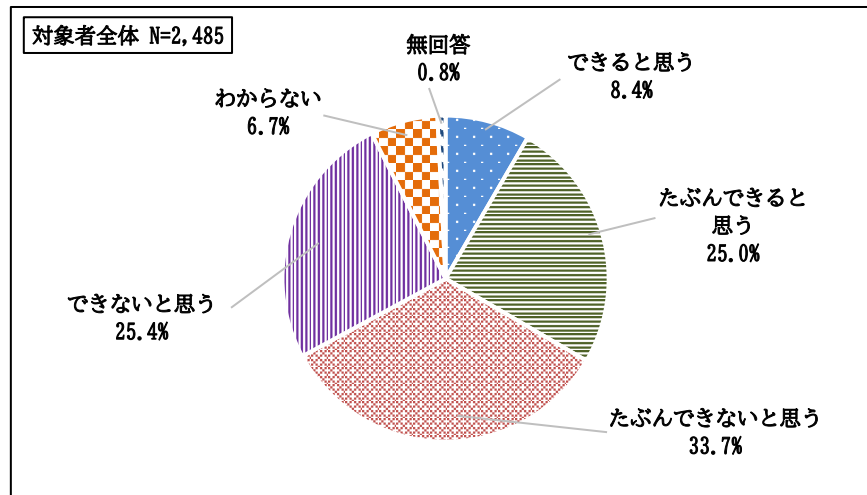
【年代別】29歳以下では「病气やけがで入院したとき」が最も高く、それ以外の年代では「体調や病状に変化があったとき」が最も高くなっている。

(3) 応急手当について

◇応急手当の可否

問 1 1 あなたは、目の前で人が倒れたら、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や、AED を使った応急手当ができますか。あてはまるものに 1 つだけ○をつけてください。

応急手当の可否について「たぶんできないと思う」が 33.7%



【全 体】 応急手当の可否については、「たぶんできないと思う」が 33.7%、「できないと思う」が 25.4%、合わせると 59.1%となっている。一方で、「たぶんできると思う」が 25.0%、「できると思う」が 8.4%、合わせると 33.4%となっている。

【性 別】 「たぶんできると思う」は男性が 29.4%と、女性の 22.1%より 7.3 ポイント高くなっている。また、「できないと思う」は女性が 28.4%と、男性の 21.0%より 7.4 ポイント高くなっている。

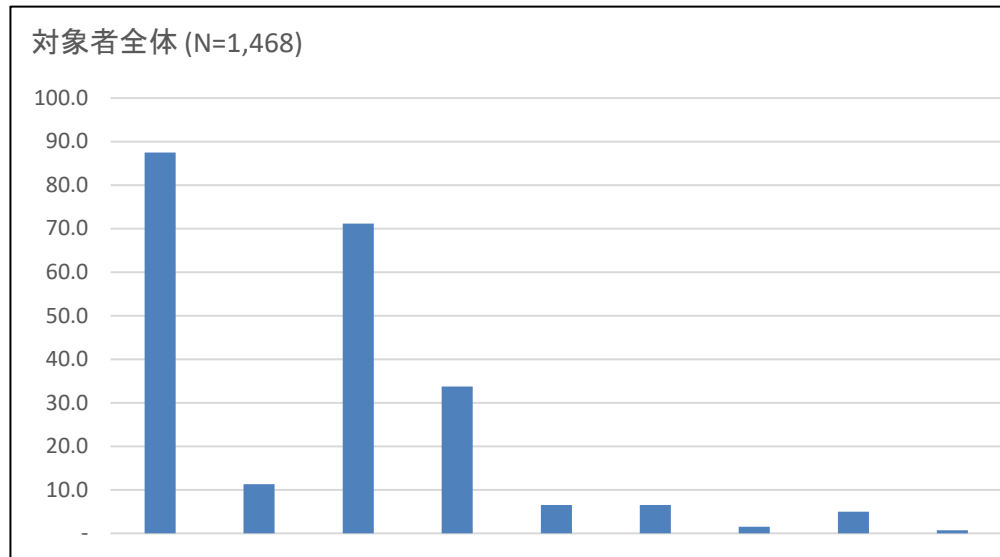
【年代別】 「できないと思う」が 70 歳以上 (37.5%) で最も高く、最も低い 29 歳以下 (13.4%) と比べると 24.1 ポイントの差となっている。

◇応急手当ができない理由

《問11》で「3 たぶんできないと思う」または「4 できないと思う」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問11-1 あなたが、応急手当ができないと思う理由はなんですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

応急手当ができない理由は「知識や技術が足りないから」が87.5%



		(%)	対象者数	知識や技術が足りないから	他人に手を触れたくない・こわい	やり方を間違えて症状が悪化させないか心配	責任を問われそうで不安	接触による感染が心配	ストレスで自分の体調を崩さないか不安	面倒だから	その他	無回答
対象者全体			1,468	87.5	11.3	71.2	33.7	6.5	6.5	1.5	5.0	0.7
性別	男性		545	85.1	11.9	65.7	35.8	5.0	4.0	2.4	6.6	0.9
	女性		913	88.9	11.0	74.5	32.1	7.3	7.8	0.9	4.1	0.5
	その他		5	100.0	－	80.0	80.0	20.0	40.0	－	－	－
年代別	29歳以下		88	69.3	17.0	69.3	56.8	5.7	3.4	1.1	3.4	－
	30～39歳		117	80.3	18.8	70.9	54.7	10.3	6.0	6.0	3.4	0.9
	40～49歳		170	82.4	17.1	72.9	44.7	8.8	3.5	0.6	2.9	0.6
	50～59歳		250	89.6	11.6	71.6	37.6	5.6	6.8	1.6	4.0	0.4
	60～69歳		282	89.7	11.3	74.5	36.9	8.9	6.0	1.4	3.2	0.7
	70歳以上		554	91.7	6.9	69.3	18.6	4.3	8.1	0.9	7.4	0.9

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】 応急手当ができない理由は、「知識や技術が足りないから」が87.5%、「悪化させる間違えて症状が悪化しないか心配」が71.2%、「責任を問われそうで不安」が33.7%となっている。

【性 別】 「悪化させる間違えて症状が悪化しないか心配」は女性が74.5%と、男性の65.7%より8.8ポイント高くなっている。

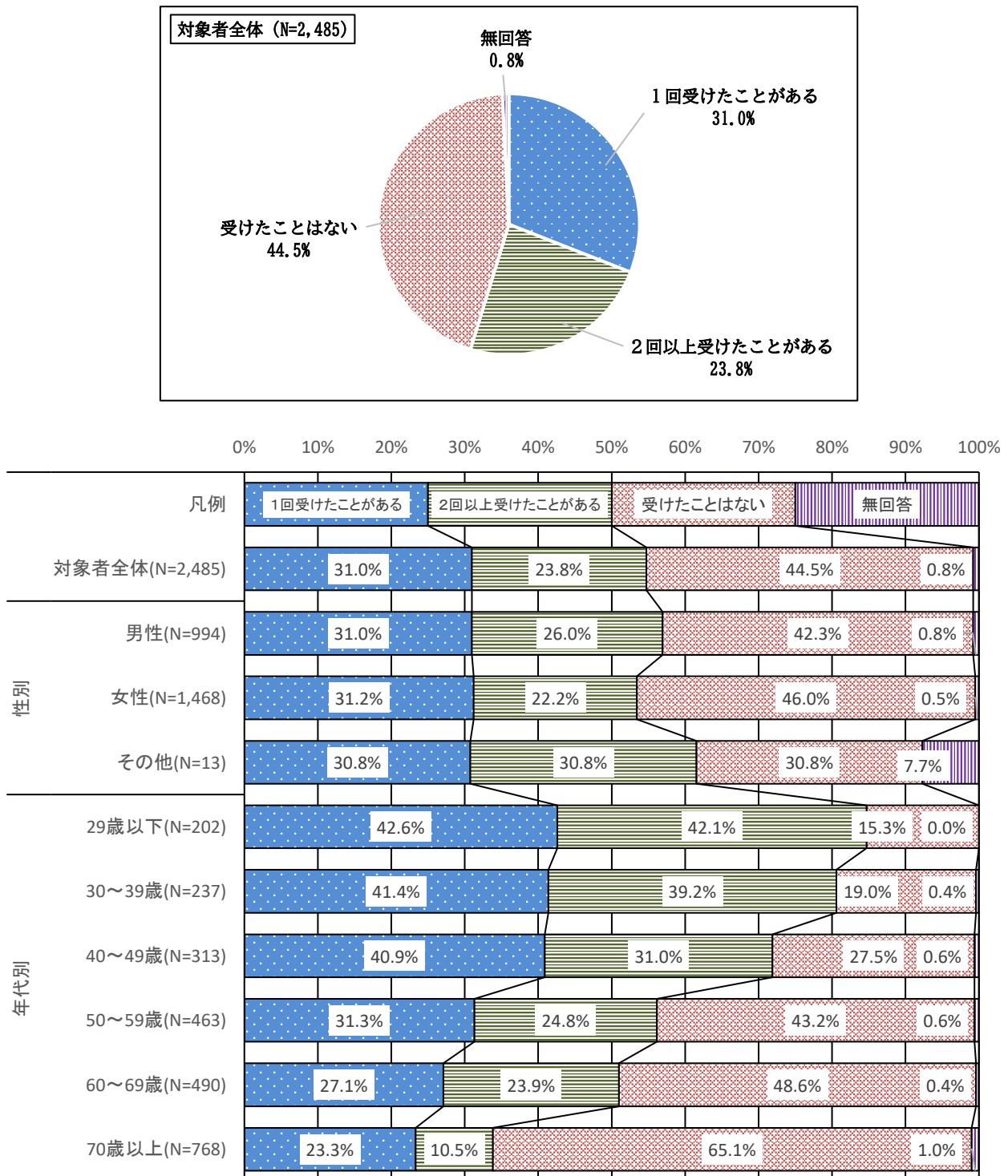
【年代別】 「知識や技術が足りないから」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。また、「責任を問われそうで不安」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇応急手当講習の受講経験

「皆さまにお聞きします。」

問 1 2 あなたは、普通救命講習などの応急手当講習を受けたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

応急手当講習の受講経験は「1 回受けたことがある」が 31.0%



【全 体】 応急手当講習の受講経験は、「受けたことはない」が 44.5%、「1 回受けたことがある」が 31.0%、「2 回以上受けたことがある」が 23.8%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

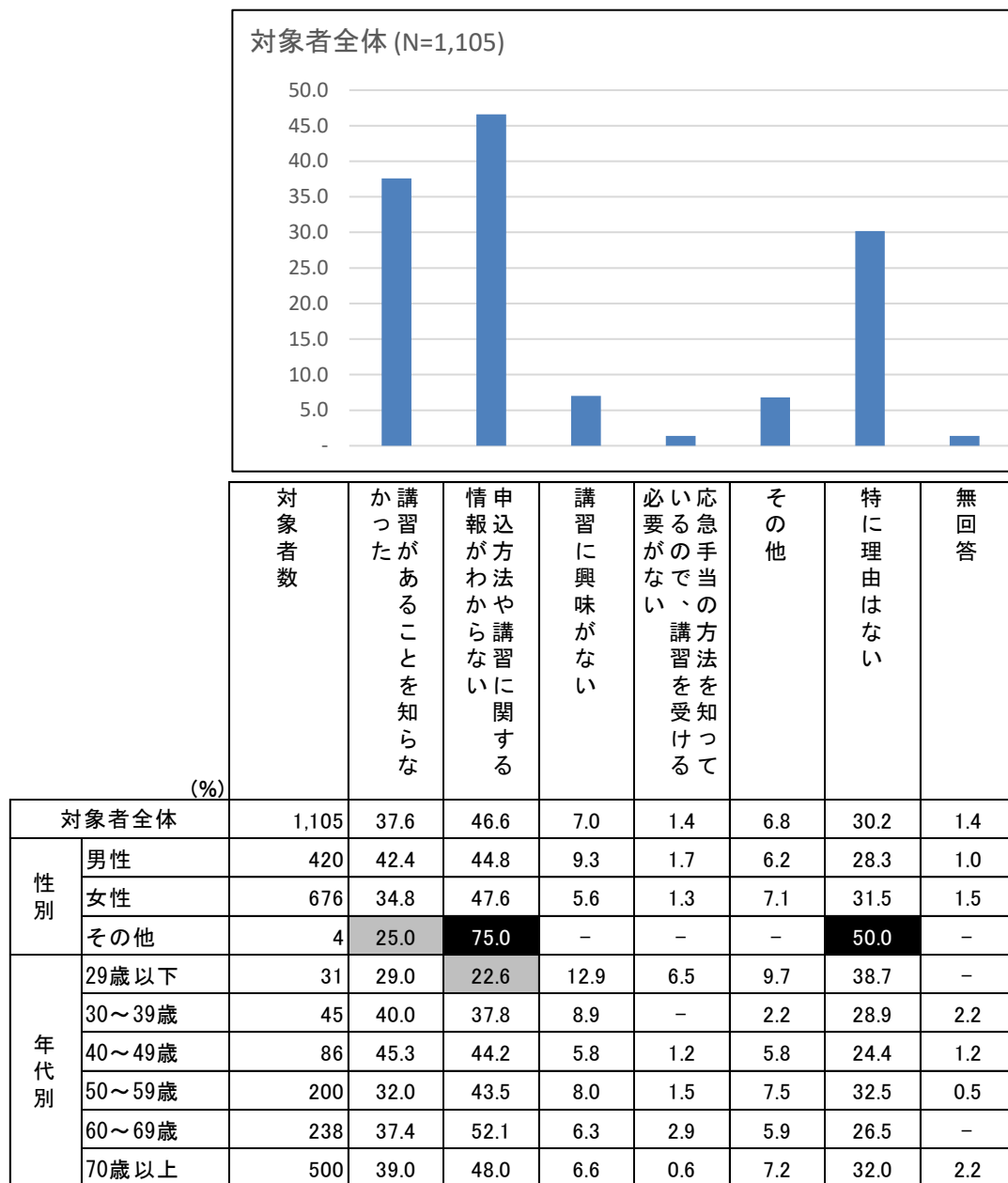
【年代別】 「受けたことはない」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇応急手当講習未受講の理由

≪問12で「3 受けたことはない」に○をつけた方にお聞きします。≫

問12-1 あなたが、応急手当講習を受けたことがない理由はなんですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

応急手当講習未受講の理由は「申込方法や講習に関する情報がわからない」が46.6%



■ 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
■ 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】 応急手当講習未受講の理由は、「申込方法や講習に関する情報がわからない」が46.6%、「講習があることを知らなかった」が37.6%、「特に理由はない」が30.2%となっている。

【性 別】 「講習があることを知らなかった」は男性が42.4%と、女性の34.8%より7.6ポイント高くなっている。

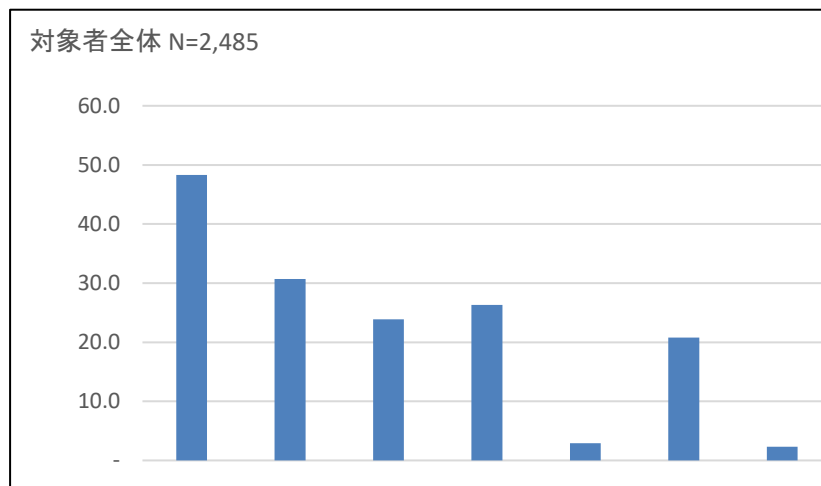
【年代別】 29歳以下では「特に理由はない」、30歳代、40歳代では「講習があることを知らなかった」、50歳代、60歳代、70歳以上では「申込方法や講習に関する情報がわからない」が最も高くなっている。

◇今後受けたい救命講習の種類

「皆さまにお聞きます。」

問13 あなたは、これから応急手当講習を受けるとしたら、どの講習を受けてみたいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

今後受けたい救命講習の種類は「救命入門コース」が48.3%



		対象者数	救命入門コース（短時間講習）	救急手当を学ぶ（3時間）	普通救命講習Ⅲ（小児・乳幼児の講習）	応急手当Ⅱ（パソ画）	その他	特に受けた 講習はない	無回答
（%）									
対象者全体		2,485	48.3	30.7	23.9	26.3	2.9	20.8	2.3
性別	男性	994	48.2	30.4	21.2	26.9	2.4	21.2	2.0
	女性	1,468	48.5	30.8	25.6	26.0	3.2	20.4	2.5
	その他	13	53.8	53.8	38.5	38.5	－	15.4	－
年代別	29歳以下	202	50.0	33.2	37.6	35.6	1.5	16.3	－
	30～39歳	237	42.6	31.2	48.1	31.6	0.8	16.0	0.4
	40～49歳	313	48.9	31.3	32.6	35.8	1.6	15.7	0.6
	50～59歳	463	54.9	38.2	25.7	32.6	1.5	16.8	0.6
	60～69歳	490	51.4	29.6	20.6	29.2	2.0	18.4	1.2
	70歳以上	768	43.8	25.9	10.4	13.0	5.7	29.3	5.7

■ 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】 今後受けたい救命講習の種類は、「救命入門コース」が48.3%、「応急手当講習Ⅰ」が30.7%、「応急手当WEB講習」が26.3%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

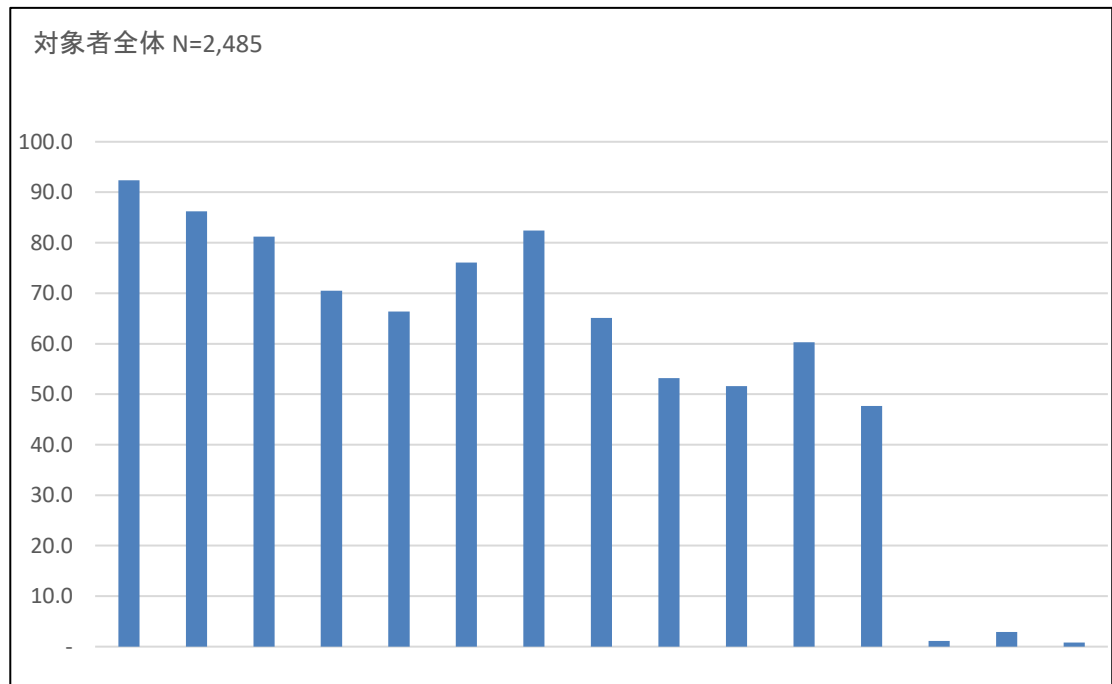
【年代別】 29歳以下、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「救命入門コース」が最も高く、30歳代では「普通救命講習Ⅲ」が最も高くなっている。

(4) 札幌の建設産業について

◇建設産業の主な仕事の認知度

問 1 4 下記の項目は、建設産業が行っている主な仕事の種類です。あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

建設産業の主な仕事の認知度は「道路工事」が 92.4%



		対象者数	道路工事	上下水道工事	建築工事	公園工事	設備工事	建物の解体	道路の除排雪	土地の測量	地盤の調査	土木関連の設計	建物の設計	計電気設備や機械設備の設計	その他	知っているものはない	無回答
		(%)															
対象者全体		2,485	92.4	86.2	81.2	70.5	66.4	76.1	82.4	65.1	53.2	51.6	60.3	47.7	1.1	2.9	0.8
性別	男性	994	93.8	88.4	84.5	75.7	72.7	78.2	85.3	67.2	57.5	58.0	63.6	55.5	1.9	2.7	0.7
	女性	1,468	91.7	85.1	79.2	67.4	62.3	74.6	80.7	64.0	50.6	47.3	58.2	42.6	0.6	3.0	0.7
	その他	13	84.6	76.9	76.9	53.8	69.2	84.6	76.9	53.8	38.5	53.8	53.8	46.2	-	7.7	-
年代別	29歳以下	202	90.6	81.2	76.7	57.9	61.9	67.8	75.2	47.5	44.6	43.6	52.0	44.1	-	3.5	0.5
	30～39歳	237	91.6	85.7	84.4	69.6	73.0	77.6	76.8	65.4	59.5	54.9	64.6	54.0	0.4	5.9	-
	40～49歳	313	92.0	84.3	80.8	68.4	69.0	76.0	78.0	67.7	57.8	58.5	68.4	52.1	-	4.5	0.3
	50～59歳	463	91.4	86.6	82.5	76.7	69.1	76.9	84.9	69.8	59.4	59.8	65.4	51.6	0.6	3.9	0.6
	60～69歳	490	95.1	89.4	83.1	77.1	69.4	80.4	84.7	69.2	56.3	56.1	62.7	51.8	1.8	1.8	-
	70歳以上	768	92.6	86.8	79.9	67.6	61.5	74.6	85.4	63.5	46.4	42.3	53.4	40.2	2.0	1.2	1.7

■ 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】建設産業の主な仕事の認知度は、「道路工事」が 92.4%、「上下水道工事」が 86.2%、「道路の除排雪」が 82.4%となっている。

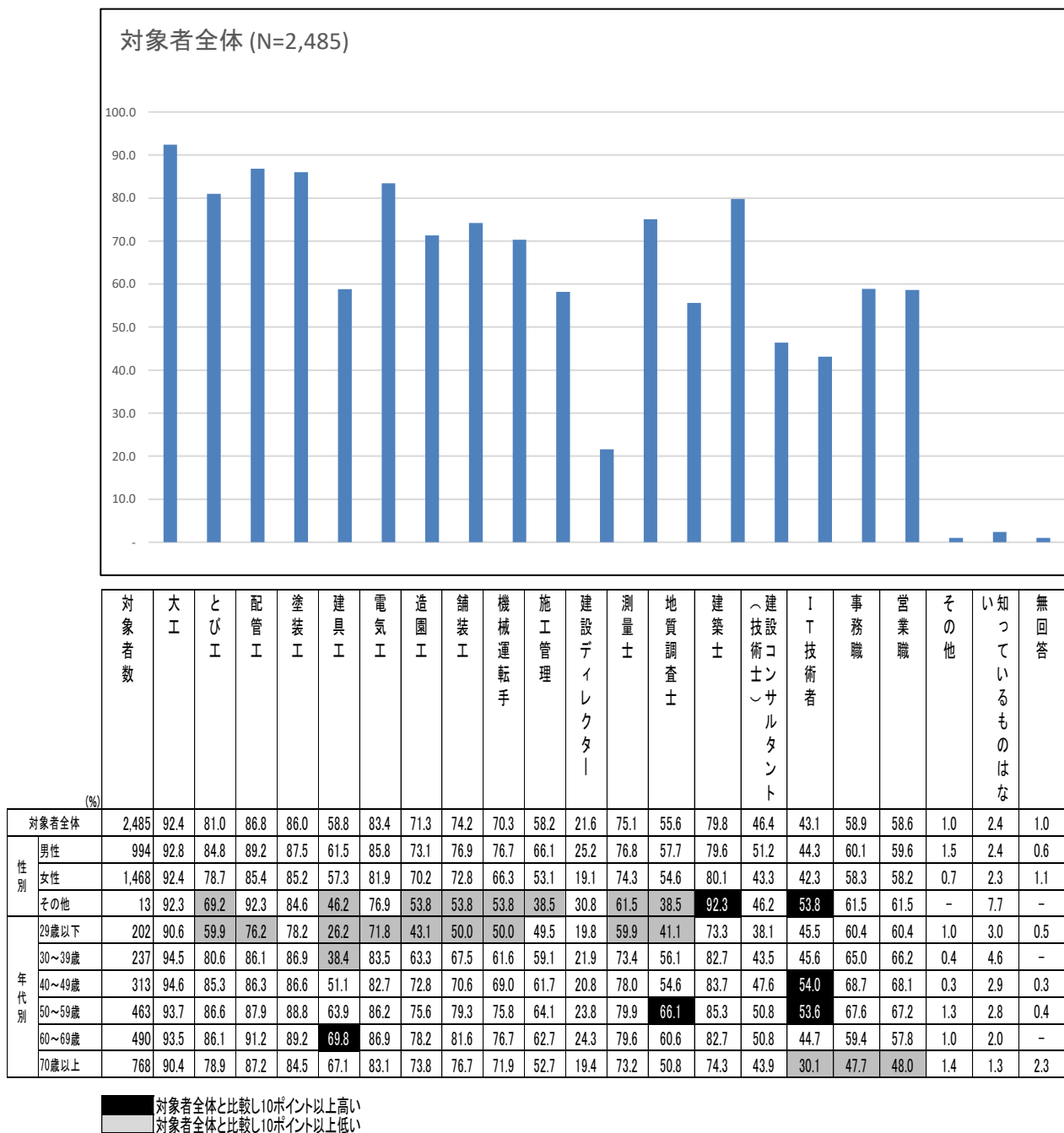
【性 別】「建築工事」「公園工事」「設備工事」「地盤の調査」「土木関連の設計」「建物の設計」「建築設備や機械設備の設計」は、男性が女性より 5 ポイント以上高くなっている。

【年代別】「土地の測量」が 50 歳代 (69.8%) で最も高く、最も低い 29 歳以下 (47.5%) と比べると 22.3 ポイントの差となっている。

◇建設産業の主な職種の認知度

問 1 5 下記の項目は、建設産業の主な職種です。あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

建設産業の主な職種の認知度は「大工」が92.4%



【全 体】建設産業の主な職種の認知度は、「大工」が92.4%、「配管工」が86.8%、「塗装工」が86.0%となっている。

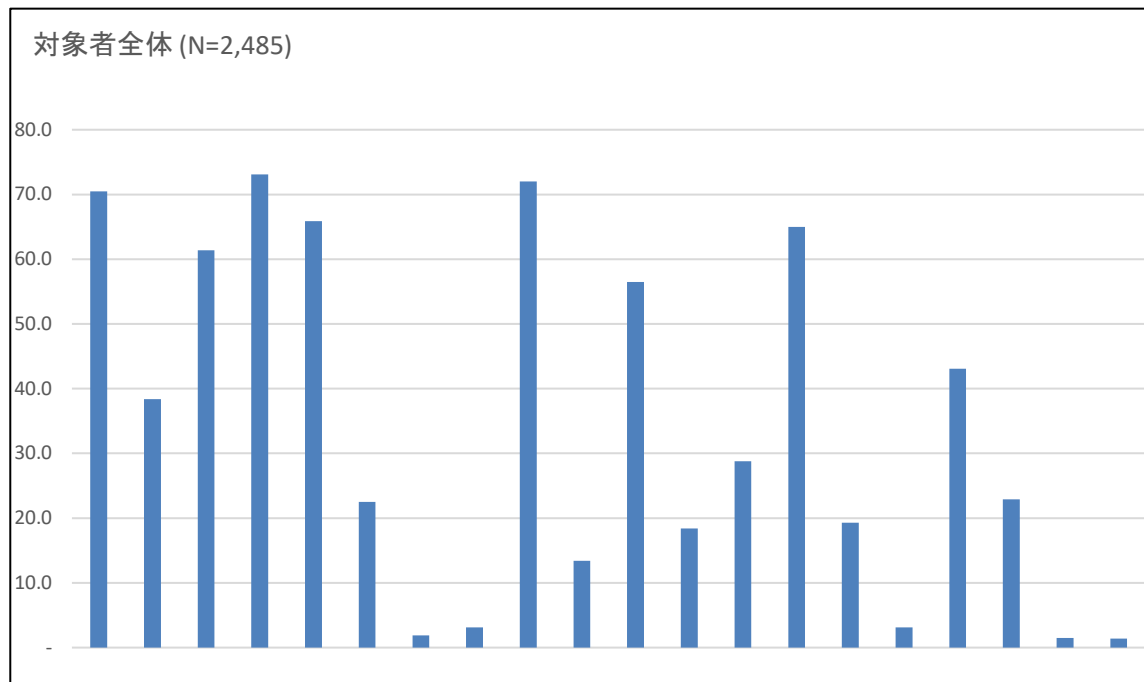
【性 別】「とび工」「機械運転手」「施工管理」「建設ディレクター」「建設コンサルタント」で男性が女性より6.1ポイント以上高くなっている。

【年代別】「建具工」は60歳代（69.8%）で最も高く、最も低い29歳以下（26.2%）と比べると43.6ポイントの差となっている。

◇建設産業に対するイメージ

問 1 6 あなたは建設産業に対してどのようなイメージをもっていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

建設産業に対するイメージは「社会に必要な仕事」が73.1%



		(%)	対象者数	まちをつくる仕事	災害時に活躍している	除雪作業を行っている	社会に必要な仕事	専門的な職業	やりがいがある職業	あこがれる職業	働いてみたい職業	体力が必要な仕事	給料が低い仕事	危険な仕事	休みがない仕事	労働時間が長い仕事	屋外で作業する仕事	厳しい（こわい）人が多い	やさしい人が多い	男性が多く体育会系の職場	女性が増えてきている	あてはまるものはない	無回答
対象者全体			2,485	70.5	38.4	61.4	73.1	65.9	22.5	1.9	3.1	72.0	13.4	56.5	18.4	28.8	65.0	19.3	3.1	43.1	22.9	1.5	1.4
性別	男性	994	73.2	41.1	65.6	75.9	64.1	24.4	2.5	4.7	72.8	16.6	57.3	22.7	32.5	63.1	23.2	2.3	40.5	24.6	1.7	0.8	
	女性	1,468	69.0	36.9	59.0	71.7	67.5	21.3	1.4	1.9	71.5	11.3	56.0	15.5	26.5	66.6	16.6	3.6	45.0	21.9	1.2	1.6	
	その他	13	69.2	38.5	53.8	69.2	61.5	23.1	-	7.7	84.6	15.4	69.2	23.1	23.1	61.5	30.8	-	61.5	30.8	7.7	-	
年代別	29歳以下	202	72.8	22.3	44.1	61.9	55.9	15.3	1.0	1.0	67.8	19.3	51.0	18.8	34.7	52.5	30.7	5.0	54.0	8.4	3.5	0.5	
	30～39歳	237	74.7	23.2	48.9	69.2	62.4	19.8	3.4	5.9	79.3	17.3	60.3	27.4	36.7	65.0	40.1	3.0	68.4	14.8	3.0	-	
	40～49歳	313	69.6	22.0	52.4	65.2	67.1	15.7	0.6	2.9	76.4	16.6	61.3	23.6	28.8	66.5	31.6	1.3	56.5	15.0	1.9	0.3	
	50～59歳	463	71.3	34.1	61.6	72.6	68.9	17.3	1.7	2.8	71.5	12.7	56.6	18.4	27.2	68.0	22.2	1.3	48.4	19.0	1.5	0.4	
	60～69歳	490	73.9	41.4	65.9	77.6	71.8	21.2	0.8	2.4	71.2	11.4	59.8	17.3	26.7	65.9	15.7	2.9	37.8	27.3	0.2	1.0	
	70歳以上	768	67.1	55.2	71.2	78.8	64.3	32.2	2.9	3.4	70.3	11.2	53.1	14.3	27.6	65.6	5.6	4.6	27.7	32.3	1.2	2.7	

■ 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】建設産業に対するイメージは、「社会に必要な仕事」が73.1%、「体力が必要な仕事」が72.0%、「まちをつくる仕事」が70.5%となっている。

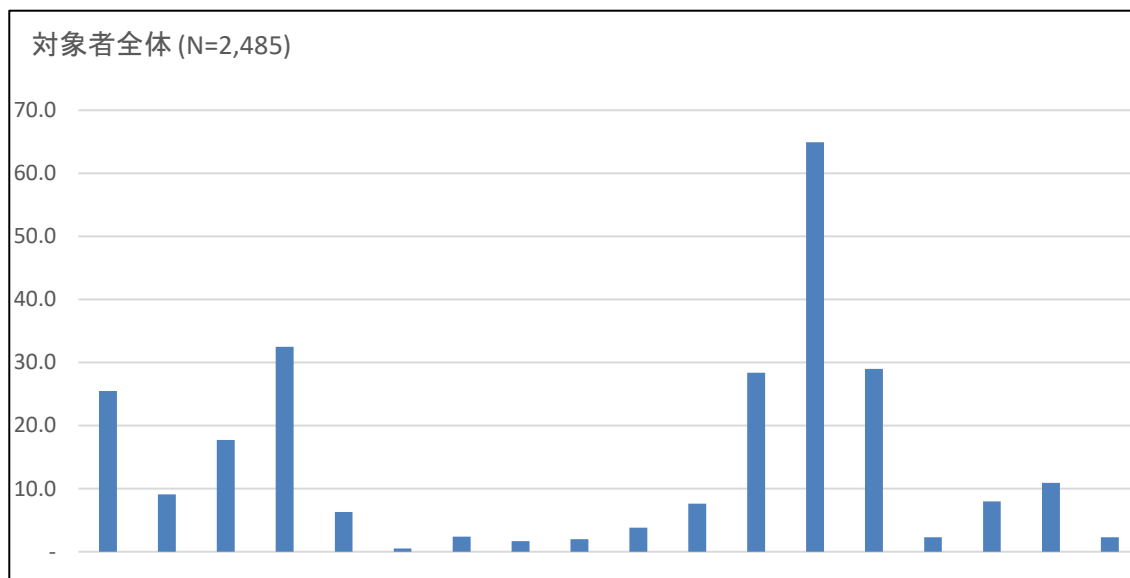
【性 別】「除雪作業を行っている」「給料が低い仕事」「休みがない仕事」「労働時間が長い仕事」「厳しい人が多い」で、男性が女性より5.3ポイント以上高くなっている。

【年代別】「除雪作業を行っている」「女性が増えてきている」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。一方で、「給料が低い仕事」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇建設産業に対するイメージを持ったきっかけ

問17 あなたが、建設産業に対して問16のイメージを持ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

建設産業に対するイメージを持ったきっかけは「工事の現場や囲いを見た時」が64.9%



		対象者数	新聞の記事	チラシ広告	テレビ（CM）	テレビ（ニュース）	YouTube	Facebook	X（旧Twitter）	Instagram	現場見学会に参加	街で行っているイベント	地下鉄やバスの広告	家族や知り合いからの話を聞く	工事の現場や囲いを見た時	仕事の依頼や修理の時（家など）	学校の授業で学ぶ	その他	特にきっかけはない	無回答
（％）																				
対象者全体		2,485	25.5	9.1	17.7	32.5	6.3	0.5	2.4	1.7	2.0	3.8	7.6	28.4	64.9	29.0	2.3	8.0	10.9	2.3
性別	男性	994	27.4	8.4	17.4	33.1	9.6	0.6	3.4	1.9	3.1	4.9	7.9	25.8	60.1	26.7	3.1	11.1	12.6	1.9
	女性	1,468	24.6	9.7	18.1	32.3	4.1	0.5	1.6	1.5	1.2	3.0	7.6	30.4	68.7	30.8	1.7	5.9	9.7	2.4
	その他	13	－	－	－	23.1	7.7	－	23.1	7.7	－	－	－	23.1	53.8	15.4	－	15.4	23.1	－
年代別	29歳以下	202	9.9	5.9	17.3	20.8	18.8	1.5	8.9	5.4	2.5	1.5	4.5	27.7	58.4	5.0	6.9	5.9	12.9	1.0
	30～39歳	237	8.0	2.1	7.6	19.8	9.3	0.8	7.2	3.0	1.7	3.4	3.8	32.5	61.6	14.3	3.4	8.0	15.6	－
	40～49歳	313	11.2	4.5	8.3	19.5	6.7	－	2.2	1.6	0.3	1.6	2.2	31.9	68.7	22.4	1.0	8.3	14.4	0.6
	50～59歳	463	17.1	5.2	13.0	27.4	5.8	0.6	1.7	2.4	1.5	1.9	5.2	31.7	64.4	28.3	2.2	11.4	10.8	0.9
	60～69歳	490	28.4	6.7	19.6	36.5	5.3	0.4	1.6	1.2	1.8	4.5	5.5	25.5	64.3	33.7	2.0	9.2	10.8	2.2
	70歳以上	768	44.4	17.8	26.4	45.6	2.9	0.4	0.3	0.3	3.0	6.0	14.7	26.0	67.4	40.2	1.4	5.6	7.8	4.4

■ 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】建設産業に対するイメージを持ったきっかけは、「工事の現場や囲いを見た時」が 64.9%、「テレビ (ニュース)」が 32.5%、「仕事を依頼する時 (家の新築や修繕、引っ越し等)」が 29.0%となっている。

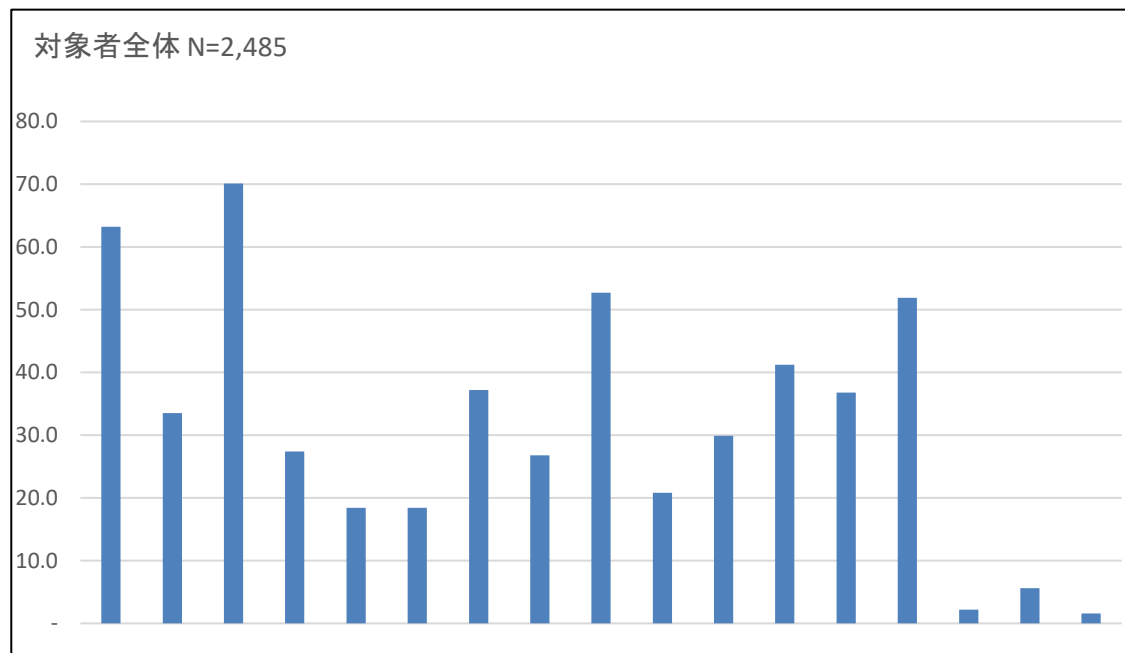
【性 別】「YouTube」は男性が 9.6%と、女性の 4.1%より 5.5 ポイント高くなっている。また、「工事の現場や囲いを見た時」は女性が 68.7%と、男性の 60.1%より 8.6 ポイント高くなっている。

【年代別】「YouTube」「X」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。一方で、「仕事を依頼する時」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇建設会社が目指す主な会社像

問 1 8 下記の項目は、建設会社が目指す主な会社像です。あなたが良いと思うものにいくつでも○をつけてください。

建設会社が目指す主な会社像は「地域に密着した会社」が70.1%



		対象者数	長く続いている会社	大きな仕事をしている会社	地域に密着した会社	積極的にボランティアを行う会社	発信力のある会社	スポーツなどを応援している会社	先進技術を活用している会社	SDGsに取り組む企業	災害時に活躍する会社	脱炭素（カーボンニュートラル）に取り組む会社	女性が活躍する会社	若者が活躍する会社	親かな従業員がいる会社	従業員が楽しそうに仕事をしている会社	その他	わからない	無回答
	(%)																		
	対象者全体	2,485	63.2	33.5	70.1	27.4	18.4	18.4	37.2	26.8	52.7	20.8	29.9	41.2	36.8	51.9	2.2	5.6	1.6
性別	男性	994	61.7	36.8	69.7	28.0	17.2	17.0	39.9	25.8	50.6	18.9	29.3	40.2	35.9	47.7	2.9	5.3	0.8
	女性	1,468	64.6	31.4	70.9	27.0	19.1	19.6	35.6	27.6	54.4	22.1	30.1	42.1	37.3	54.8	1.8	5.8	1.8
	その他	13	53.8	38.5	38.5	38.5	30.8	-	30.8	38.5	46.2	30.8	61.5	46.2	53.8	69.2	-	15.4	-
年代別	29歳以下	202	53.5	32.7	56.4	23.3	20.3	14.4	28.7	28.2	45.5	16.3	25.2	35.6	44.1	47.5	1.5	7.9	0.5
	30～39歳	237	58.2	29.1	61.6	27.4	15.2	12.7	29.5	28.3	47.7	15.6	28.7	40.9	52.3	57.0	2.1	8.9	-
	40～49歳	313	59.7	30.0	64.2	23.3	16.0	14.1	30.7	23.0	46.6	16.3	27.5	35.8	40.3	57.5	3.5	7.7	0.3
	50～59歳	463	57.9	31.3	67.8	29.2	14.7	16.6	36.3	30.5	52.9	19.7	28.7	37.6	39.3	54.0	3.5	6.7	0.4
	60～69歳	490	64.1	37.6	77.1	28.4	17.3	19.8	41.6	34.1	60.2	26.1	35.7	49.2	32.0	52.0	2.2	2.9	0.8
	70歳以上	768	72.0	35.7	76.2	28.8	22.9	23.4	42.7	21.1	54.2	22.9	29.7	42.6	30.5	48.4	1.2	4.4	3.4

 対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】建設会社が目指す主な会社像は、「地域に密着した会社」が70.1%、「長く続いている会社」が63.2%、「災害時に活躍する会社」が52.7%となっている。

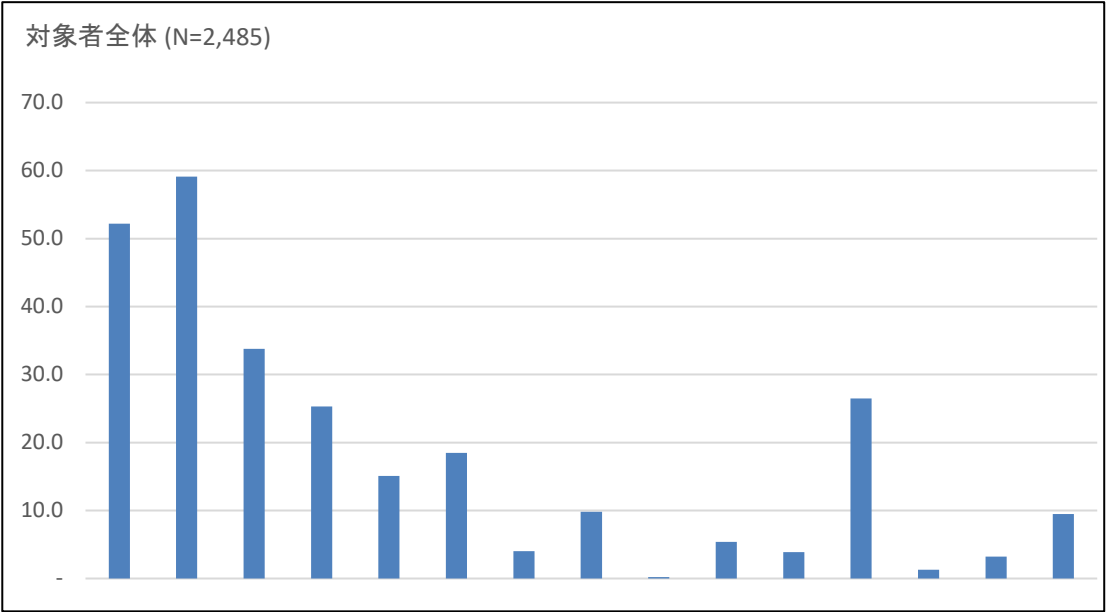
【性 別】「大きな仕事をしている会社」は男性が36.8%と、女性の31.4%より5.4ポイント高くなっている。また、「従業員が楽しそうに仕事をしている会社」は女性が54.8%と、男性の47.7%より7.1ポイント高くなっている。

【年代別】各年代とも「地域に密着した会社」が最も高く、60歳代（77.1%）で最も高い。最も低い29歳以下（56.4%）と比べると20.7ポイントの差となっている。

◇就職先選択の重要条件

問 1 9 あなたが、働く会社を選ぶ場合に特に重要な条件は何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

就職先選択の重要条件は「給料」が 59.1%



		対象者数	業務内容	給料 (収入)	休日・休暇	勤務時間 (労働時間)	福利厚生の内容	勤務地	転勤の有無	経営状況	従業員数	入社後の育成環境	企業理念	職場の雰囲気	その他	特にない・わからない	無回答
		(%)															
対象者全体		2,485	52.2	59.1	33.8	25.3	15.1	18.5	4.0	9.8	0.2	5.4	3.9	26.5	1.3	3.2	9.5
性別	男性	994	53.9	63.8	35.0	21.2	15.5	17.2	5.3	13.2	0.4	5.5	5.3	21.1	1.3	3.2	8.1
	女性	1,468	51.4	56.3	33.3	27.9	15.1	19.3	3.1	7.7	0.1	5.4	3.1	30.2	1.2	3.1	10.2
	その他	13	38.5	53.8	23.1	46.2	-	30.8	-	-	-	-	-	38.5	15.4	7.7	-
年代別	29歳以下	202	38.6	67.8	56.4	20.8	18.8	15.8	7.4	2.5	-	5.4	1.5	30.7	0.5	2.5	5.0
	30～39歳	237	46.8	69.2	57.8	32.9	10.1	18.6	3.8	3.0	0.4	3.4	1.3	23.6	2.1	2.1	5.1
	40～49歳	313	53.7	69.0	47.9	26.5	12.5	26.8	4.5	5.1	0.3	2.9	1.0	23.3	1.0	1.6	5.1
	50～59歳	463	51.6	65.4	38.2	25.7	8.0	21.8	3.0	6.7	-	5.4	2.2	29.6	1.7	1.5	10.2
	60～69歳	490	64.3	62.9	30.8	28.2	14.1	19.4	4.1	9.4	-	3.5	3.9	28.0	1.0	1.6	6.7
	70歳以上	768	50.1	44.3	14.5	21.6	21.7	13.4	3.4	18.1	0.5	8.5	7.8	25.0	1.3	6.3	14.6

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】「就職先選択の重要条件」は、「給料」が 59.1%、「業務内容」が 52.2%、「休日・休暇」が 33.8%となっている。

【性 別】「給料 (収入)」「経営状況」は男性が女性より 5.5 ポイント以上高くなっている。また、「勤務時間 (労働時間)」「職場の雰囲気」は女性が男性より 6.7 ポイント以上高くなっている。

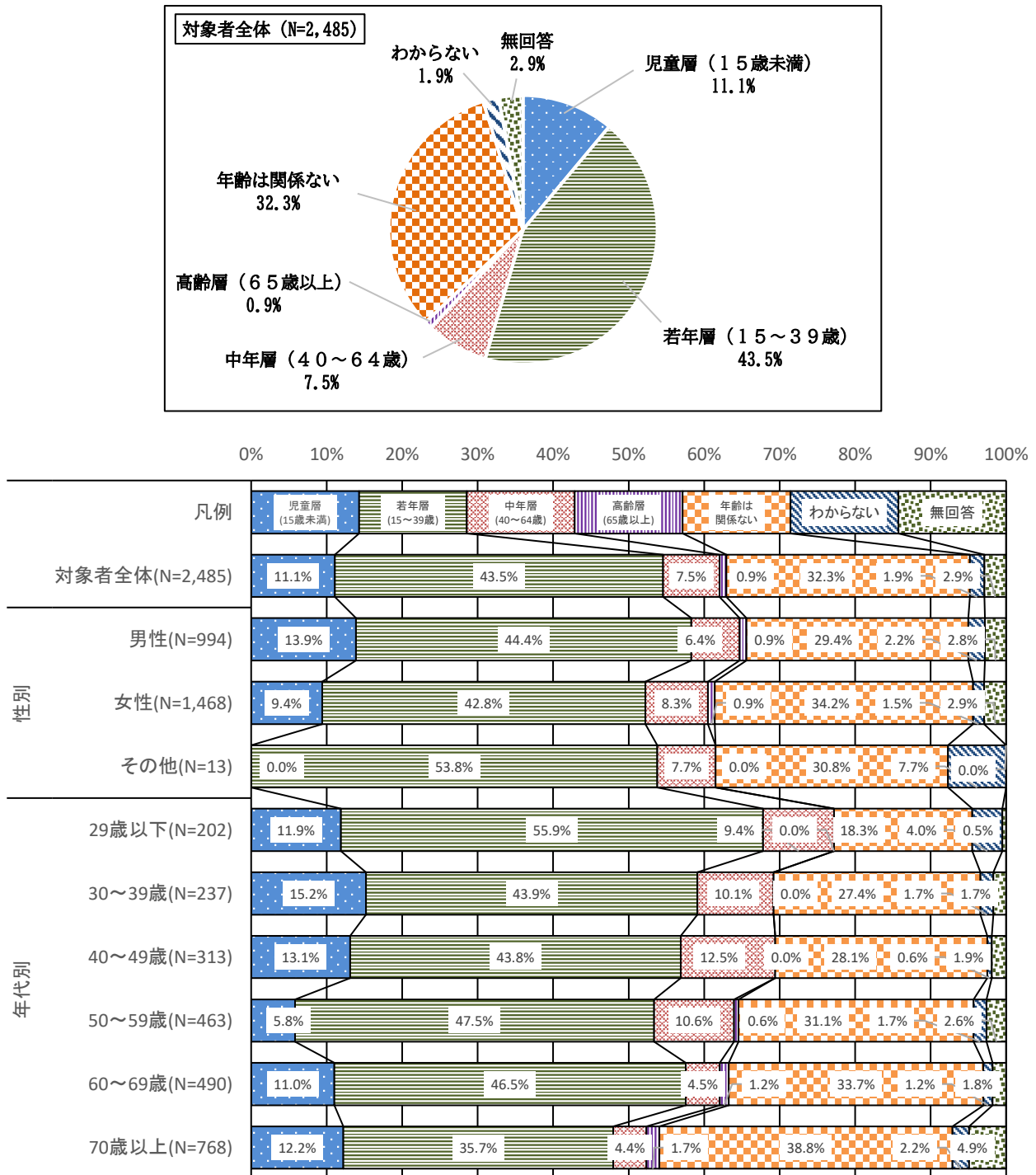
【年代別】29 歳以下、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「給料」が、60 歳代、70 歳以上では「業務内容」が最も高くなっている。

(5) ひきこもりへの認識について

◇ひきこもりに対する年齢層のイメージ

問20 あなたは「ひきこもり」という言葉から、特にどのような年齢層を思い浮かべますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ひきこもりに対する年齢層のイメージは「若年層(15～39歳)」が43.5%



【全 体】 ひきこもりに対する年齢層のイメージは、「若年層 (15～39歳)」が43.5%、「年齢は関係ない」が32.3%、「児童層 (15歳未満)」が11.1%となっている。

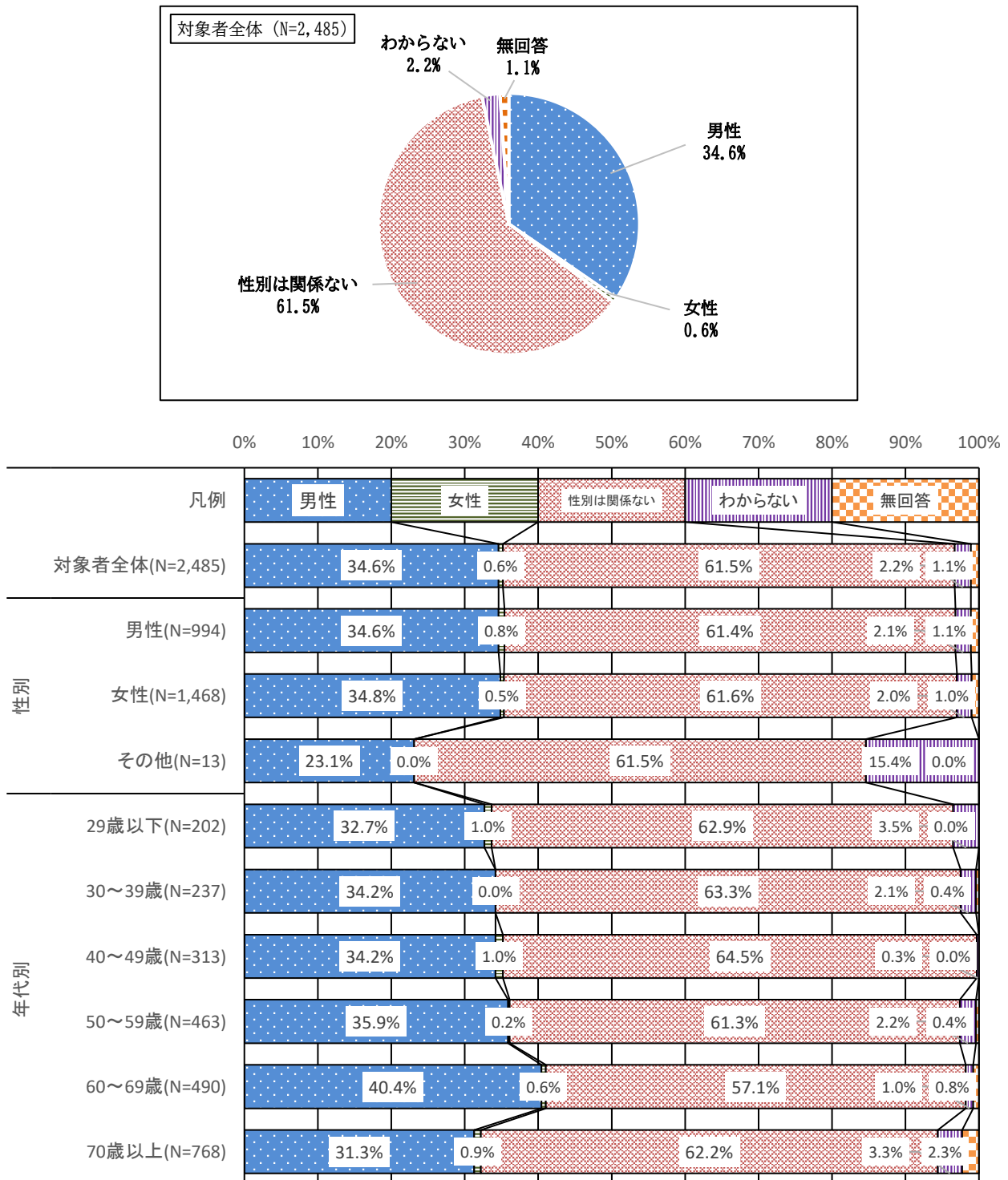
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「若年層 (15～39歳)」が最も高く、70歳以上では「年齢は関係ない」が最も高くなっている。

◇ひきこもりに対する性別のイメージ

問21 あなたは「ひきこもり」という言葉から、どの性別を思い浮かべますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ひきこもりに対する性別のイメージは「性別は関係ない」が61.5%



【全 体】 ひきこもりに対する性別のイメージは、「性別は関係ない」が61.5%、「男性」が34.6%となっている。

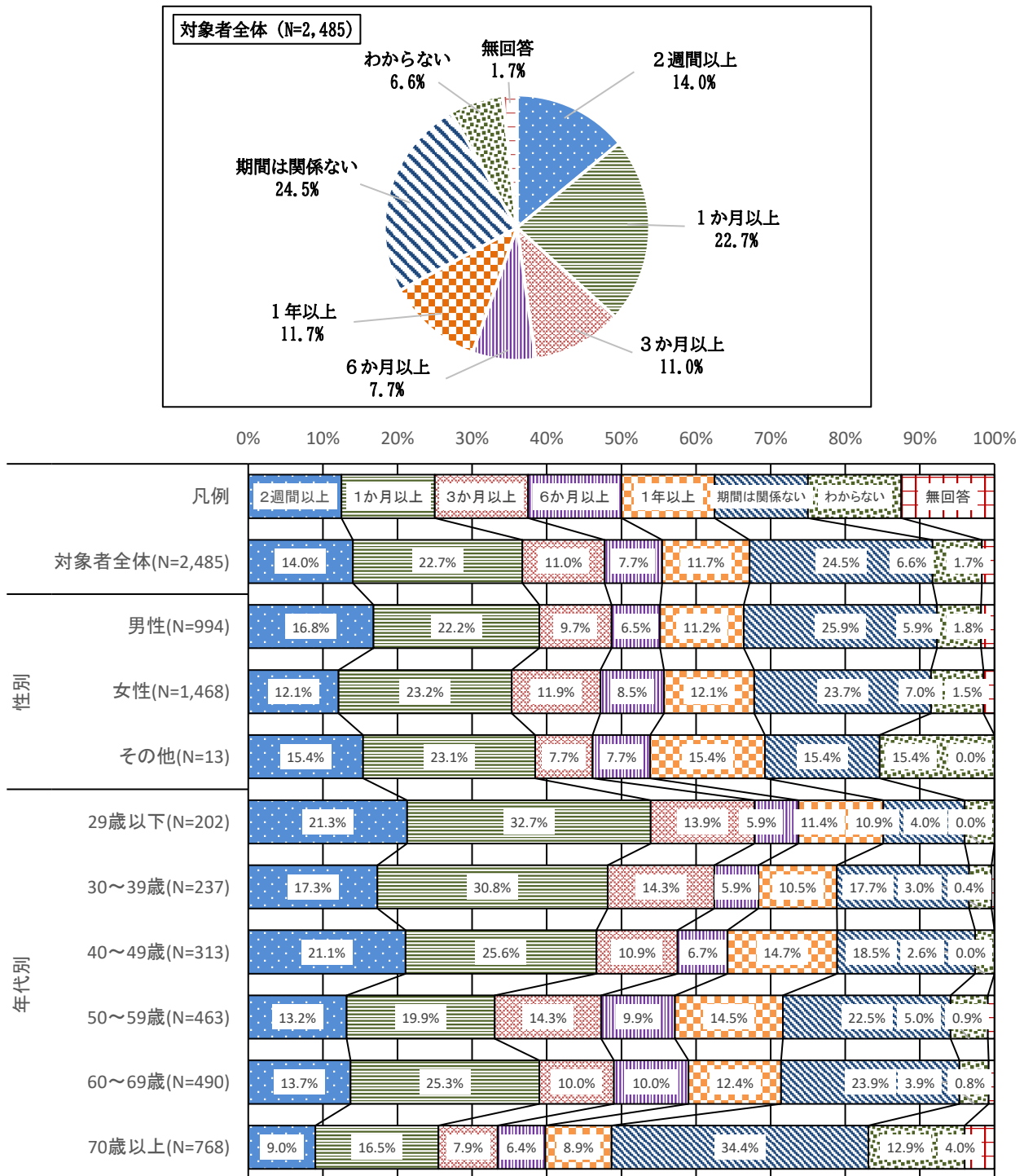
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 いずれの年代でも「性別は関係ない」が最も高くなっている。なお、「男性」は60歳代(40.4%)で最も高く、最も低い70歳以上(31.3%)と比べると9.1ポイントの差となっている。

◇ひきこもり状態にあると思う期間

問22 あなたは、家や自室にどのくらいの期間ひきこもっていた場合、「ひきこもり」の状態にあると思いますか。あてまるものに1つだけ○をつけてください。

ひきこもり状態にあると思う期間は「期間は関係ない」が24.5%



【全 体】 ひきこもり状態にあると思う期間は、「期間は関係ない」が24.5%、「1か月以上」が22.7%、「2週間以上」が14.0%となっている。

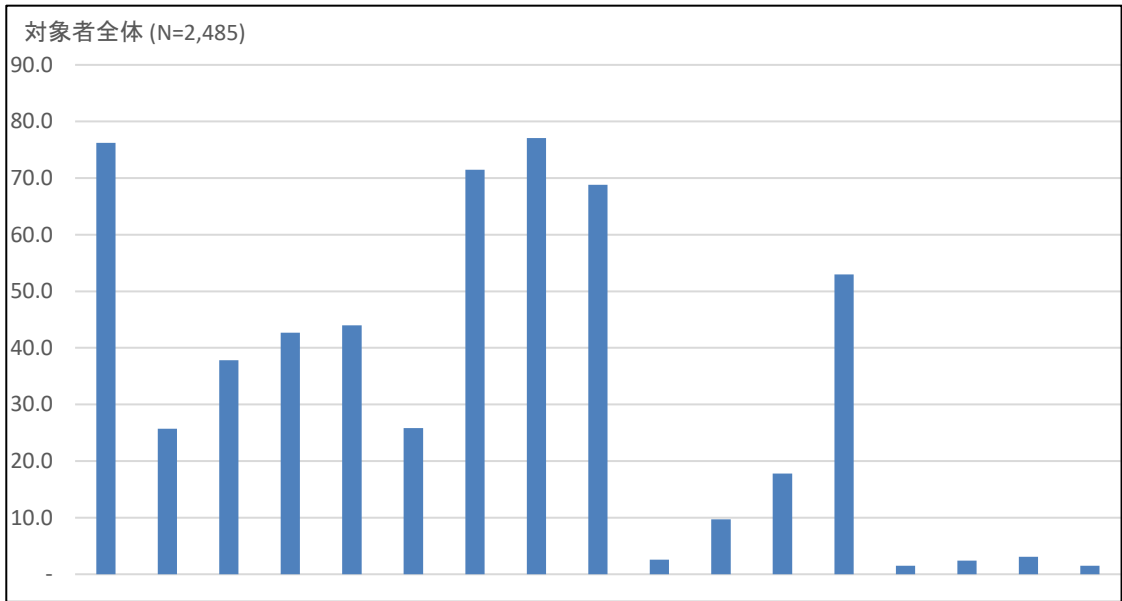
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「期間は関係ない」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇ひきこもり状態になるきっかけ

問23 あなたは「ひきこもり」の状態になるきっかけとして、何が多いと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ひきこもり状態になるきっかけは「人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)」が77.1%



		対象者数	不登校・高校へ小学校・中学	受験に失敗した(高校・大学等)	就職できなかった	失業または離職した	家族や家庭環境の問題	身体的な病気・ケガ	精神的な病気	人間関係がうまくいかなかった(家族・友人・先生・職場の人など)	受け取ったハラスメント	妊娠した	家族の看護・介護	事故や犯罪被害等の問題	性格的に社会へ馴染めなかった	その他	特に理由はない	わからない	無回答
		(%)																	
性別	対象者全体	2485	76.2	25.7	37.8	42.7	44.0	25.8	71.5	77.1	68.8	2.6	9.7	17.8	53.0	1.5	2.4	3.1	1.5
	男性	994	76.7	25.7	38.2	42.1	44.6	24.5	70.1	74.5	68.3	1.9	6.7	16.8	50.0	1.1	2.6	3.3	1.4
	女性	1468	76.2	25.7	37.5	43.1	43.8	26.5	72.6	79.0	69.1	3.0	11.7	18.5	55.2	1.8	2.3	2.9	1.3
年代別	その他	13	76.9	38.5	61.5	69.2	38.5	46.2	84.6	84.6	7.7	23.1	23.1	69.2	7.7	-	7.7	-	-
	29歳以下	202	87.1	35.6	49.5	46.5	49.5	25.2	73.8	74.8	75.2	6.9	11.9	31.7	56.4	1.0	1.0	2.5	-
	30～39歳	237	81.4	32.1	54.0	56.5	56.1	30.0	81.0	76.8	70.5	5.1	12.2	27.0	58.6	1.3	0.8	3.0	0.8
	40～49歳	313	82.7	31.6	44.7	53.4	50.2	30.0	78.9	82.1	75.4	3.2	11.8	24.3	56.9	-	1.9	1.0	-
	50～59歳	463	74.9	25.9	43.6	46.4	43.6	29.8	73.7	80.6	70.4	2.6	11.7	21.2	58.1	3.0	1.9	3.9	0.9
	60～69歳	490	75.7	24.1	35.5	39.6	42.2	26.1	72.7	81.2	72.0	1.8	7.6	13.5	51.6	2.0	2.0	2.0	1.0
	70歳以上	768	71.0	19.9	25.3	33.2	38.0	20.4	63.7	71.7	61.1	0.9	7.9	9.5	47.1	1.0	3.9	4.3	3.0

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
対象者全体と比較し10ポイント以上低い

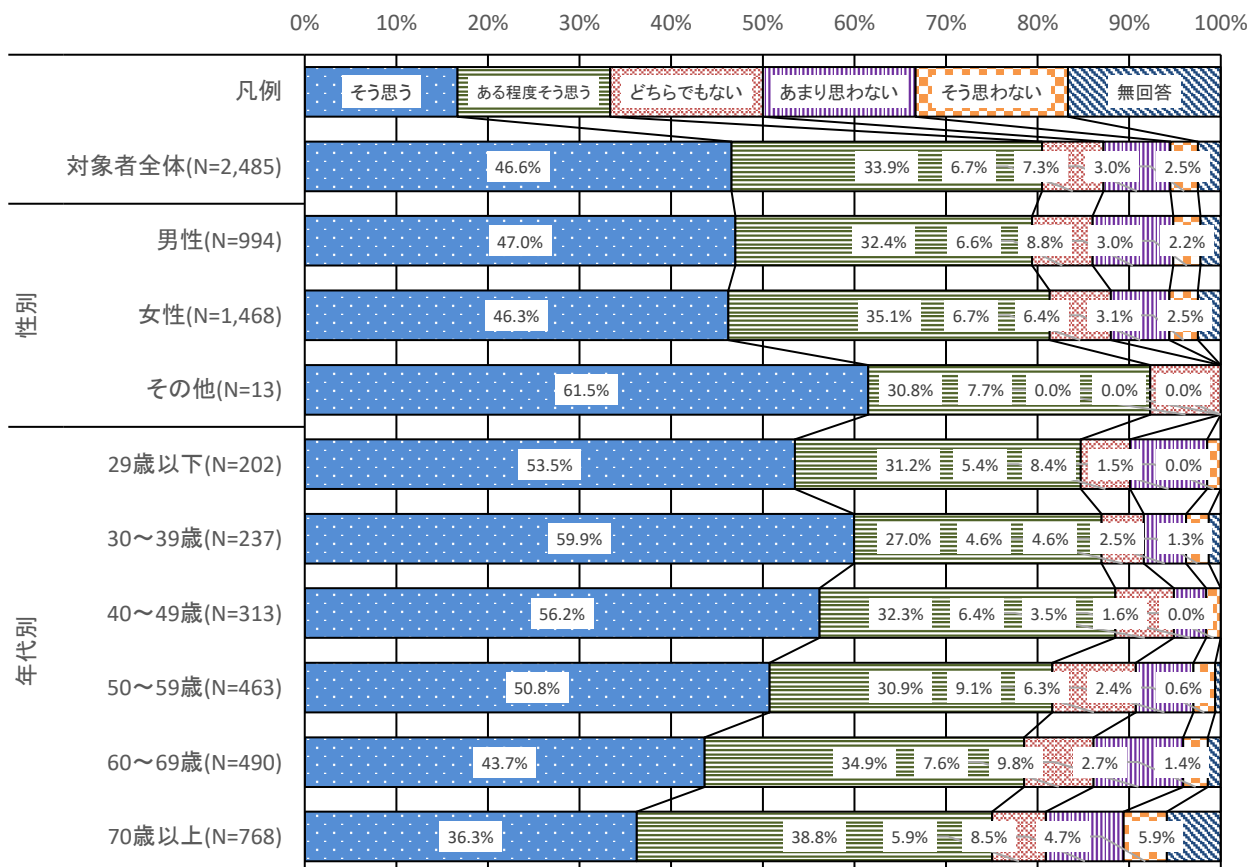
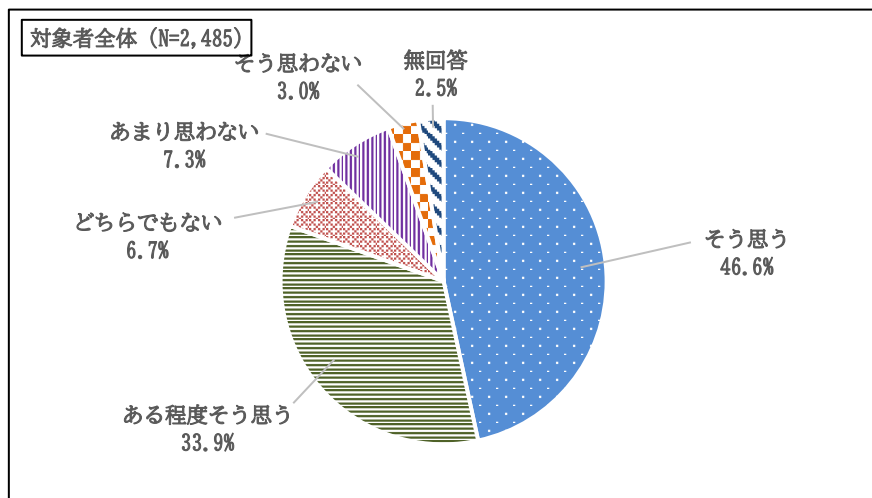
- 【全 体】 ひきこもり状態になるきっかけは、「人間関係がうまくいかなかった」が77.1%、「不登校」が76.2%、「精神的な病気」が71.5%となっている。
- 【性 別】 「家族の看護・介護」「性格的に社会へ馴染めなかった」は、女性が男性より5.0ポイント以上高くなっている。
- 【年代別】 「受験に失敗した」「妊娠した」「事故や犯罪被害等の問題」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇ひきこもりに対する印象

問2 4 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。次のア～オのそれぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

ア 「ひきこもる」ことは、誰にでもどの家族にも起こりうることである

上記アの内容について「そう思う」が46.6%



【全 体】 ひきこもりに対する印象（ア）は、「そう思う」が46.6%、「ある程度そう思う」が33.9%で、合わせると80.5%となっている。一方で、「あまり思わない」が7.3%、「そう思わない」が3.0%、合わせると10.3%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

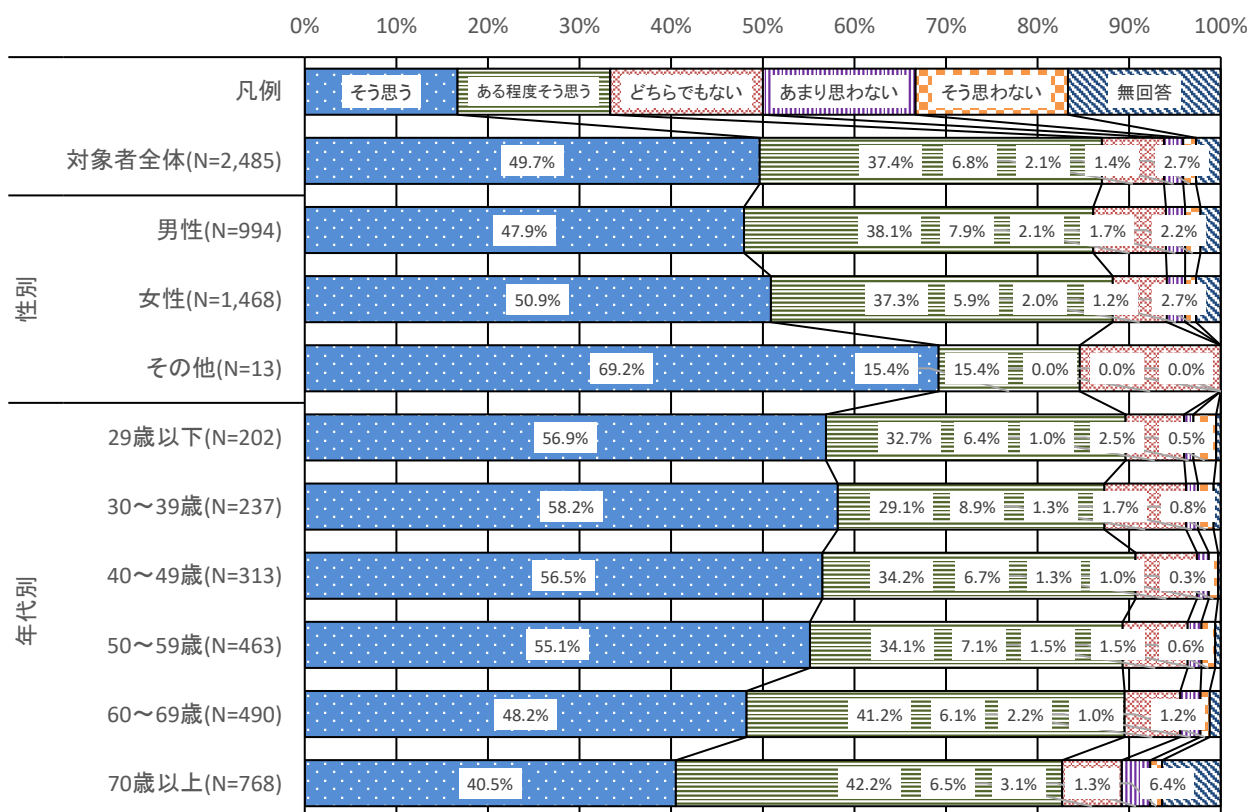
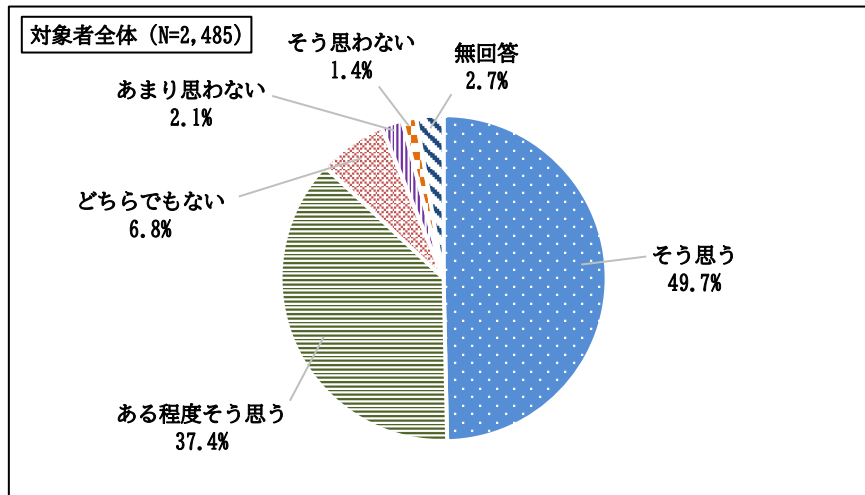
【年代別】 29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「そう思う」が最も高く、70歳以上では「ある程度そう思う」が最も高くなっている。

◇ひきこもりに対する印象

問2 4 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。次のア～オのそれぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

イ ひきこもり状態で支援の必要な人は、何らかの生きづらさを抱え生活上の困難を感じている状態にある

上記イの内容について「そう思う」が49.7%



【全 体】 ひきこもりに対する印象（イ）は、「そう思う」が49.7%、「ある程度そう思う」が37.4%で、合わせると87.1%となっている。一方で、「あまり思わない」が2.1%、「そう思わない」が1.4%で、合わせると3.5%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

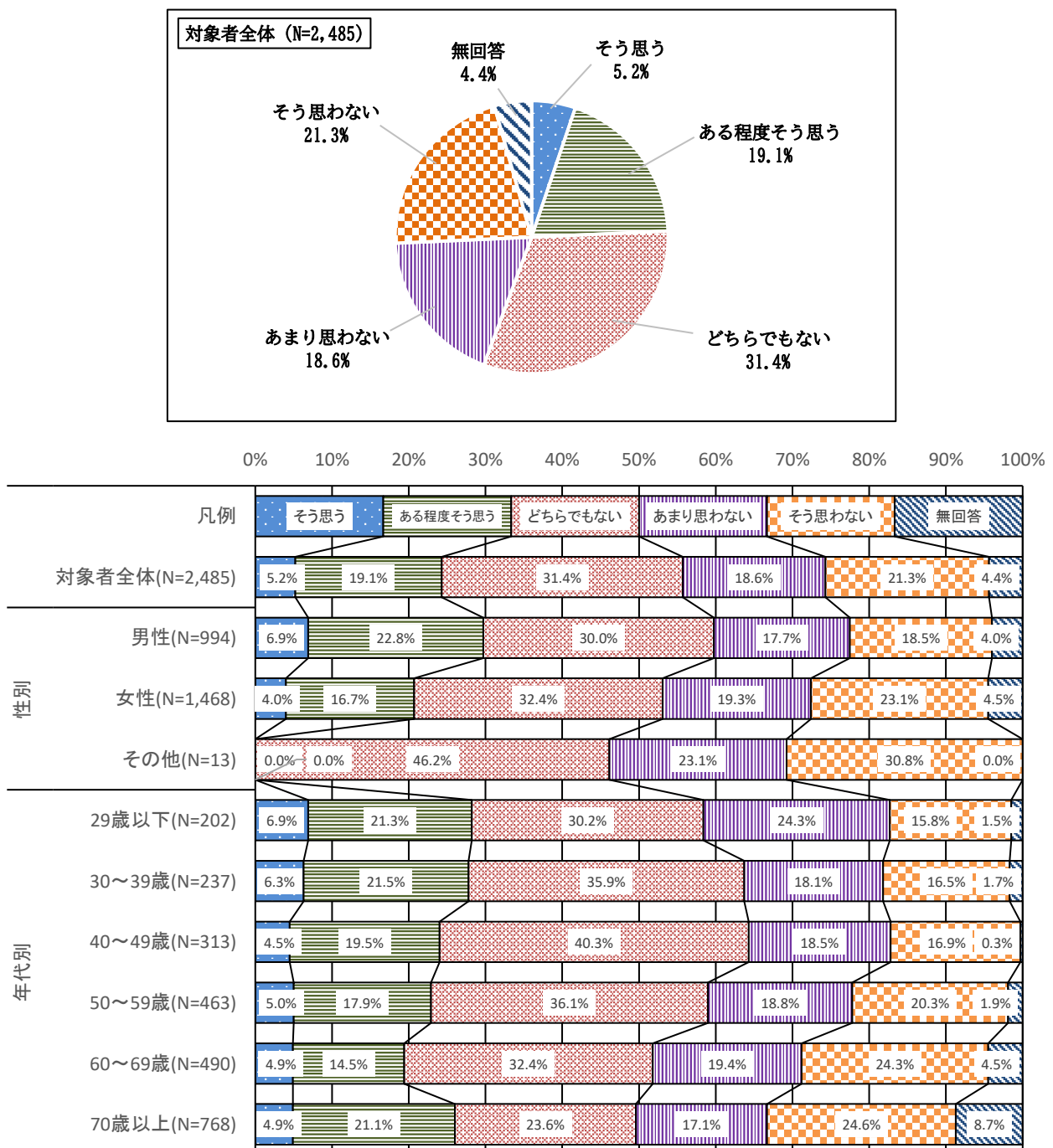
【年代別】 29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「そう思う」が最も高く、70歳以上では「ある程度そう思う」が最も高くなっている。

◇ひきこもりに対する印象

問2 4 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。次のア～オのそれぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

ウ ひきこもり状態になることは、甘えや怠けなどといった本人に問題がある

上記ウの内容について「どちらでもない」が31.4%



【全 体】 ひきこもりに対する印象（ウ）は、「どちらでもない」が31.4%となっている。また、「そう思わない」が21.3%、「あまり思わない」が18.6%で、合わせると39.9%となっている。一方で、「ある程度そう思う」が19.1%、「そう思う」が5.2%で、合わせると24.3%となっている。

【性 別】 「ある程度そう思う」は男性で22.8%と、女性の16.7%より6.1ポイント高くなっている。

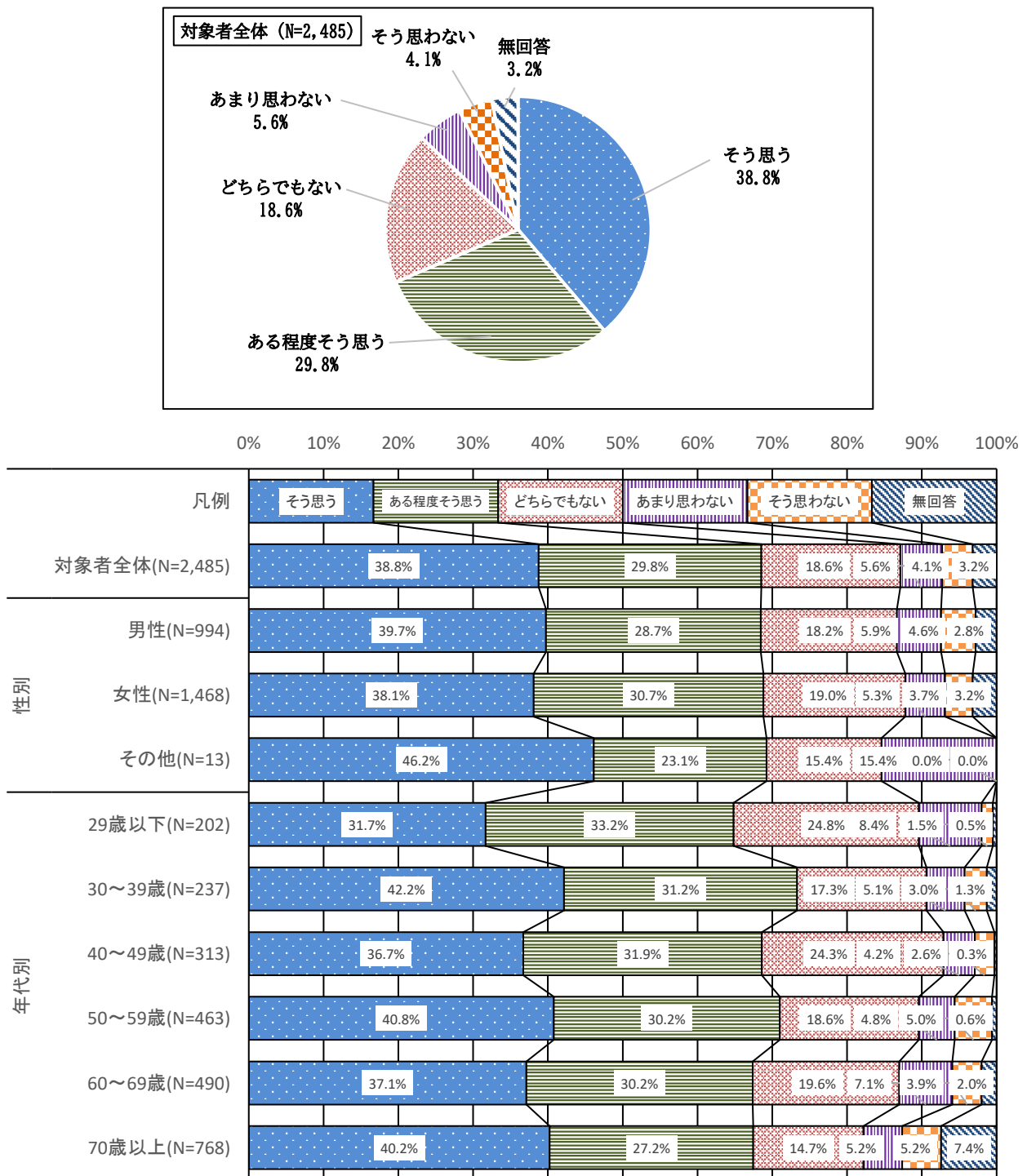
【年代別】 「そう思わない」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇ひきこもりに対する印象

問2 4 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。次のア～オのそれぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

エ ひきこもり支援では、本人の社会参加や就労のみをゴールにするべきではない

上記エの内容について「そう思う」が38.8%



【全 体】 ひきこもりに対する印象（エ）は、「そう思う」が38.8%、「ある程度そう思う」が29.8%で、合わせると68.6%となっている。一方で、「あまり思わない」が5.6%、「そう思わない」が4.1%で、合わせると9.7%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

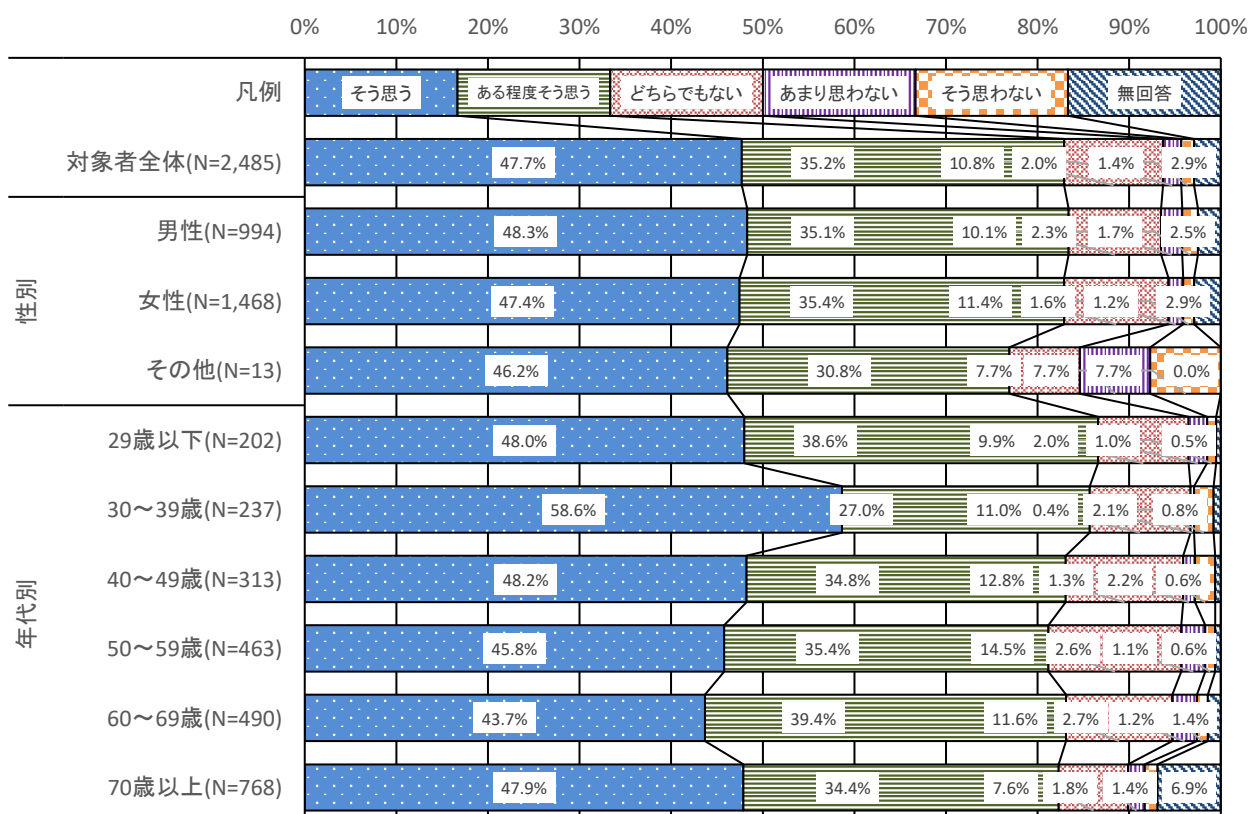
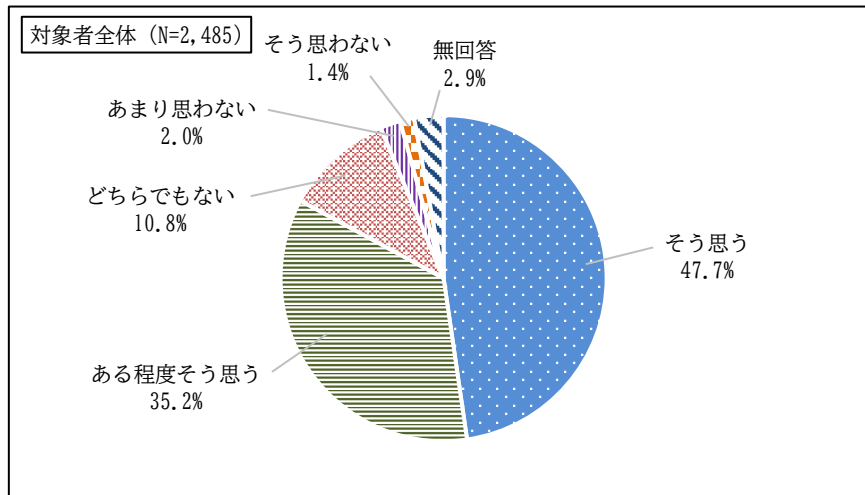
【年代別】 「そう思う」が30歳代（42.2%）で最も高く、最も低い29歳以下（31.7%）と比べると10.5ポイントの差となっている。

◇ひきこもりに対する印象

問24 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。次のア～オのそれぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

オ ひきこもり支援では、本人やその家族が自らの意志により、自身が目指す生き方や、社会との関わり方等を決めていくことができるようになること（自律）が大切である

上記オの内容について「そう思う」が47.7%



【全 体】 ひきこもりに対する印象（オ）は、「そう思う」が47.7%、「ある程度そう思う」が35.2%で、合わせると82.9%となっている。一方で、「あまり思わない」が2.0%、「そう思わない」が1.4%で、合わせると3.4%となっている。

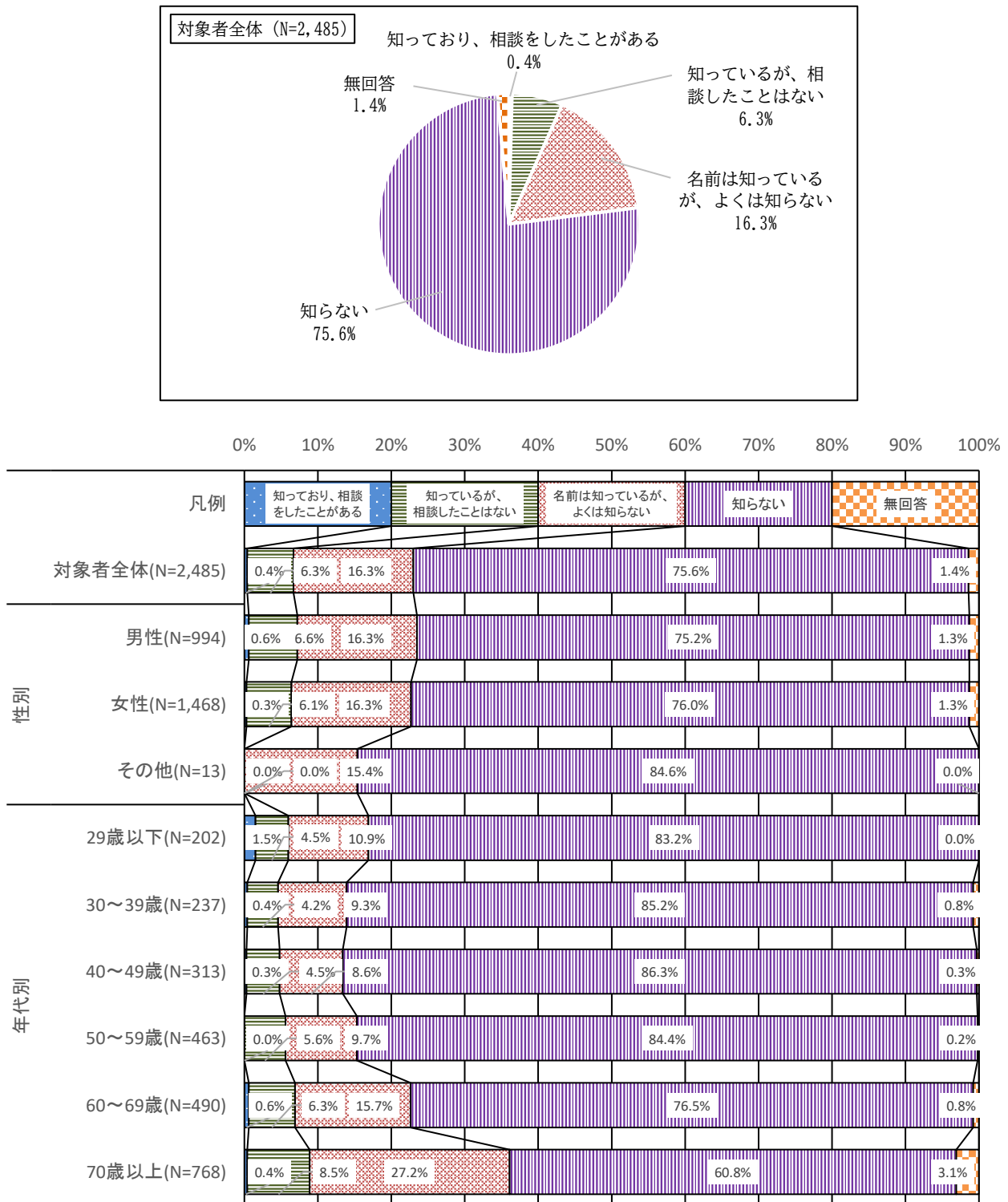
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「そう思う」が30歳代（58.6%）で最も高く、最も低い60歳代（43.7%）と比べると14.9ポイントの差となっている。

◇札幌市ひきこもり地域支援センターの認知度

問25 あなたは、「札幌市ひきこもり地域支援センター」をご存じですか。あてはまるものに1つだけをつけてください。

札幌市ひきこもり地域支援センターの認知度は「知らない」が75.6%



【全 体】札幌市ひきこもり地域支援センターの認知度は、「知らない」が 75.6%、「名前は知っているが、よくは知らない」が 16.3%、「知っているが、相談したことはない」が 6.3%となっている。

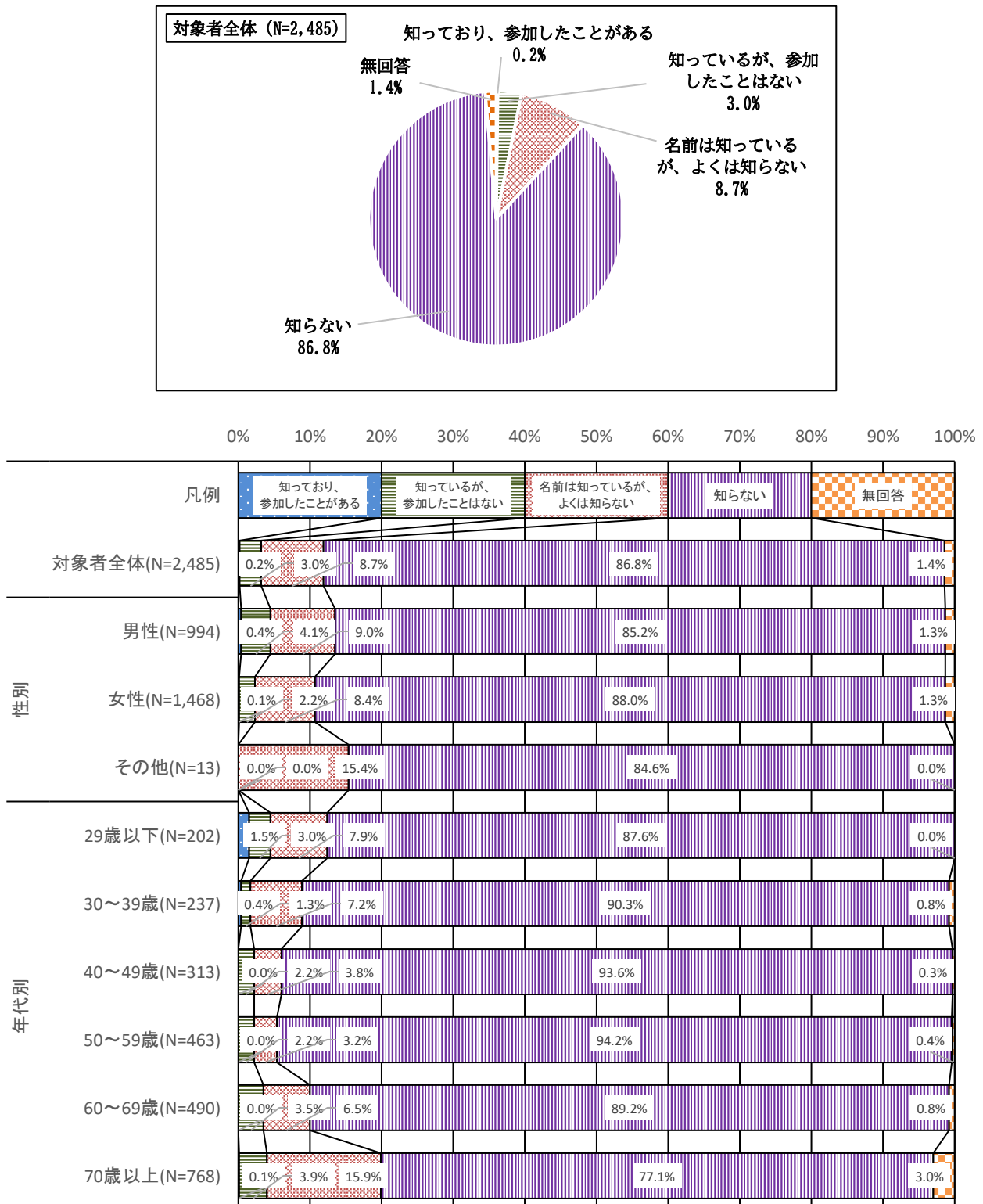
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「知らない」が 40 歳代 (86.3%) で最も高く、最も低い 70 歳以上 (60.8%) と比べると 25.5 ポイントの差となっている。

◇集団型支援拠点「よりどころ」の認知度

問26 あなたは、ひきこもりに関する集団型支援拠点「よりどころ」をご存じですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

集団型支援拠点「よりどころ」の認知度は「知らない」が86.8%



【全 体】 集団型支援拠点「よりどころ」の認知度は、「知らない」が86.8%、「名前を知っているが、よくは知らない」が8.7%、「知っているが、参加したことはない」が3.0%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「知らない」が50歳代(94.2%)で最も高く、次いで40歳代(93.6%)、30歳代(90.3%)となっている。

問27 あなたは、ひきこもり状態にある人が家族や知り合い以外に相談する場合、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

対象者全体 (N=2,485)

Response Category	Frequency
1	54.0
2	19.0
3	14.0
4	49.0
5	41.0
6	19.0
7	12.0
8	39.0
9	57.0
10	41.0
11	48.0
12	29.0
13	23.0
14	9.0
15	11.0
16	39.0
17	6.0
18	1.0
19	2.0
20	9.0
21	2.0

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【年代別】「相手が同世代である」、「相手が同性である」、「AI 相談やチャットボットなど、人を介さず相談できる」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

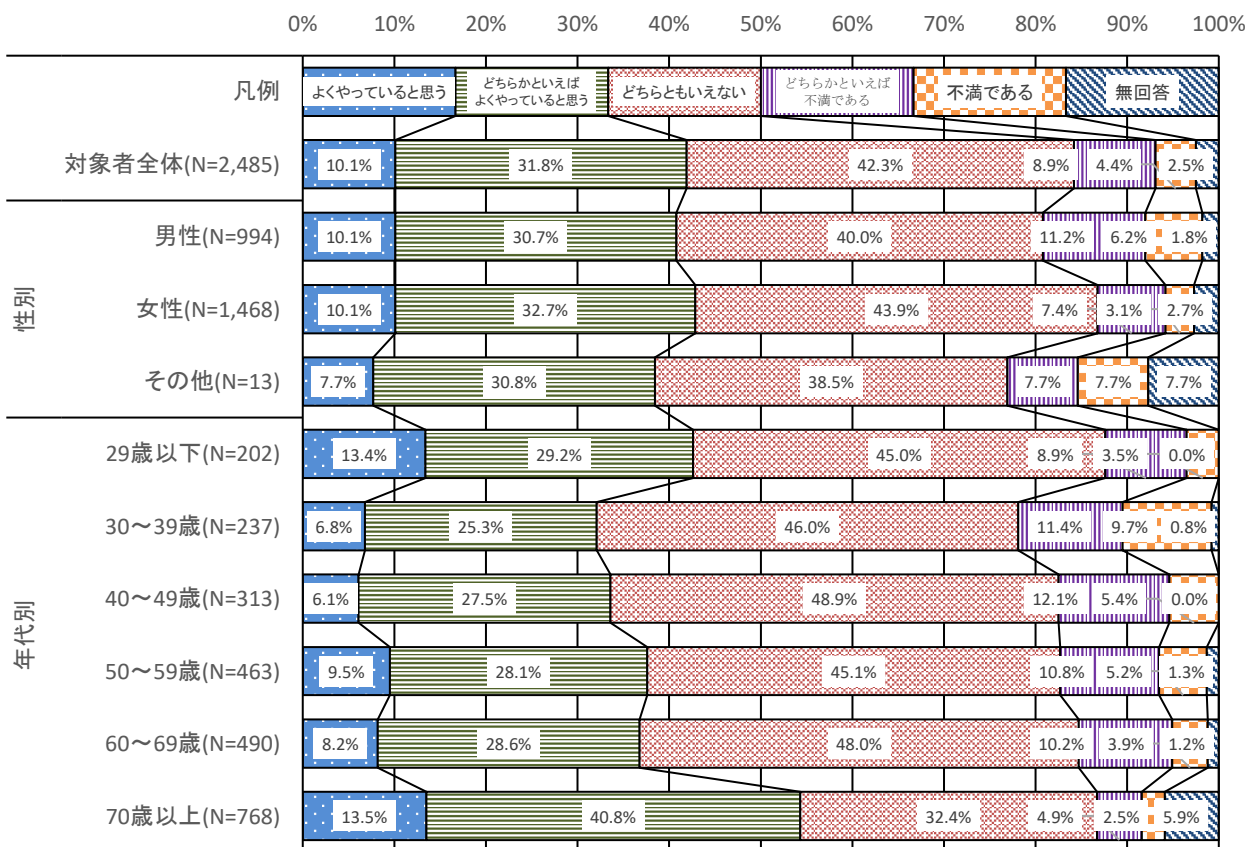
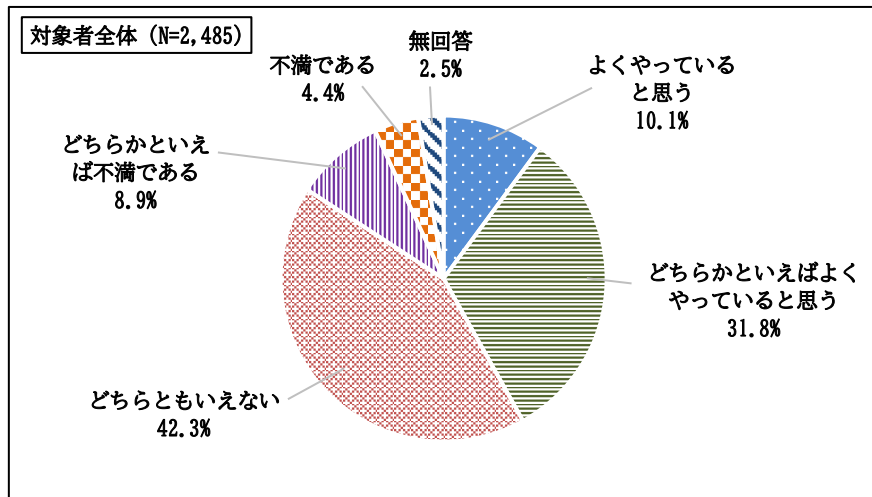
(6) 札幌市の仕事の取り組み方に対する評価について

◇市役所・区役所の取組評価

問28 あなたは、市役所や区役所の仕事の取り組み方に対して、どのように思いますか。次のア、イの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

ア 市政情報を積極的にわかりやすく発信している

上記アについて「どちらともいえない」が42.3%



【全 体】市役所・区役所の取組評価（ア）は、「どちらかといえばよくやっていると思う」が31.8%、「よくやっていると思う」が10.1%、で、合わせると41.9%となっている。一方で、「どちらかといえば不満である」が8.9%、「不満である」が4.4%で、合わせると13.3%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

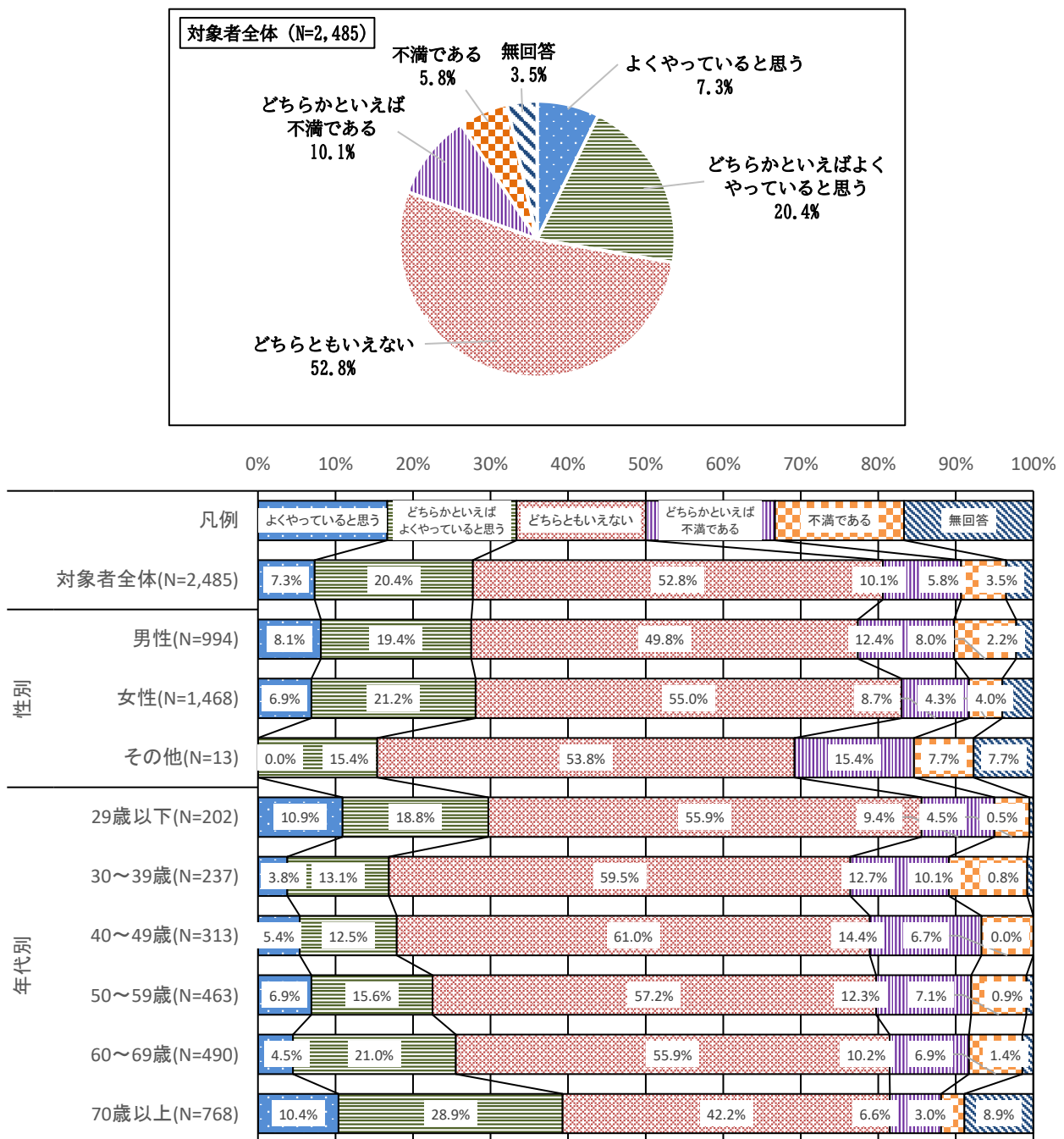
【年代別】29歳以下、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代では「どちらともいえない」が最も高く、70歳以上では「どちらかといえばよくやっていると思う」が最も高くなっている。

◇市役所・区役所の取組評価

問28 あなたは、市役所や区役所の仕事の取り組み方に対して、どのように思いますか。次のア、イの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

イ 事務や事業の効率化、見直しを進めている

上記イについて「どちらともいえない」が52.8%



【全 体】市役所・区役所の取組評価（イ）は、「どちらかといえばよくやっていると思う」が20.4%、「よくやっていると思う」が7.3%で、合わせると27.7%となっている。一方で、「どちらかといえば不満である」が10.1%、「不満である」が5.8%で、合わせると15.9%となっている。

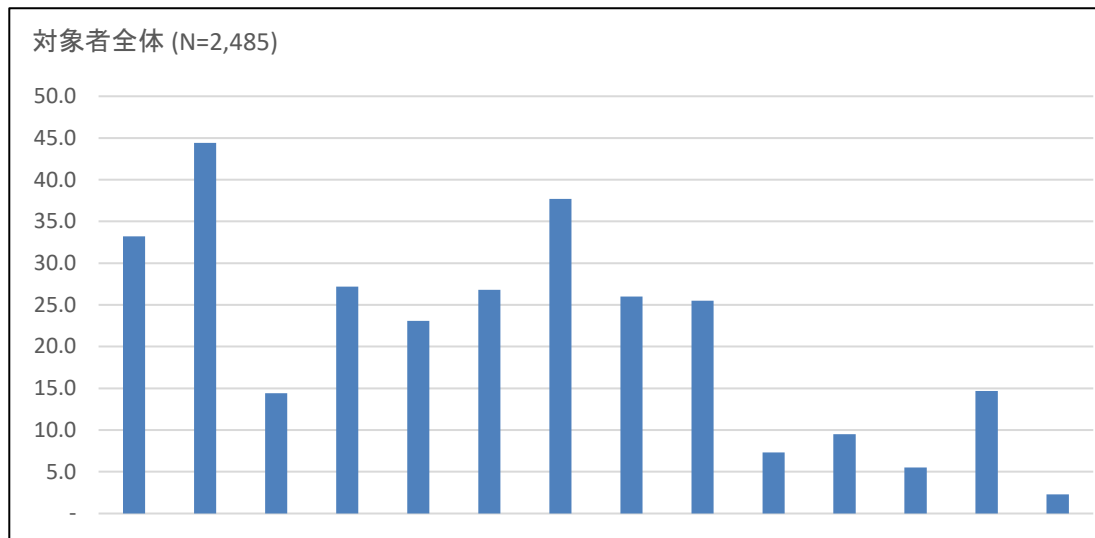
【性 別】「どちらともいえない」は、女性で55.0%と、男性の49.8%よりも5.2ポイント高くなっている。

【年代別】「どちらともいえない」が40歳代（61.0%）で最も高く、最も低い70歳以上（42.2%）と比べると18.8ポイントの差となっている。

◇行政手続きの改善点

問 2 9 あなたは、市役所や区役所の手続きにおいて、どのようなことを改善すべきと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

行政手続きの改善点について「複数の窓口で手続きをしなければならないこと」が44.4%



		(%)	対象者数	き ど の 窓 か り に で 手 続 き す る べ	複 数 の 窓 口 で 手 続 き を し	り 窓 口 の 配 置 と 表 示 が わ か	が 手 続 き に 必 要 な く 書 類 な ど	く 書 類 の 書 き 方 が わ か り に	い 書 類 に 記 入 す べ き 欄 が 多	こ を 手 続 か な け と に 申 請 ら 書 な い	い 市 役 所 で や 区 役 所 以 外 が 多 手 続 き な い	相 談 が で き な い こ と	パ ソ コ ン や ス マ ー ト フ ォ ン な ど か ら オ ン ラ イ ン で 手 続 き な い	い 職 員 の 説 明 が わ か り に く	そ の 他	わ か ら な い	特 に な い	無 回 答
対象者全体			2,485	33.2	44.4	14.4	27.2	23.1	26.8	37.7	26.0	25.5	7.3	9.5	5.5	14.7	2.3	
性別	男性		994	36.8	44.9	15.8	28.9	26.2	29.6	36.7	25.7	30.3	7.0	8.6	5.1	14.5	1.8	
	女性		1,468	30.8	44.1	13.4	26.0	20.8	24.9	38.4	26.1	22.3	7.5	10.1	5.9	14.9	2.3	
	その他		13	53.8	69.2	46.2	61.5	53.8	61.5	61.5	69.2	38.5	15.4	-	-	7.7	-	
年代別	29歳以下		202	36.1	37.1	15.3	24.3	25.7	19.8	22.3	31.2	42.6	5.0	9.9	11.9	12.4	0.5	
	30～39歳		237	36.7	47.7	17.3	40.1	30.4	33.8	42.6	43.0	51.1	11.4	9.3	3.8	5.1	0.4	
	40～49歳		313	34.8	50.2	16.6	30.7	28.1	30.0	42.2	35.5	40.6	8.9	14.7	2.9	8.9	-	
	50～59歳		463	33.0	45.6	14.0	25.7	22.7	31.1	41.0	29.2	30.7	9.7	11.7	4.5	13.2	1.3	
	60～69歳		490	33.7	51.2	15.3	25.5	24.3	28.8	40.8	25.9	21.8	6.7	8.2	6.3	13.3	0.8	
	70歳以上		768	31.1	38.4	12.4	24.9	17.8	21.9	34.9	14.2	6.5	5.1	6.8	5.6	22.4	5.1	

対象者全体と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体と比較し10ポイント以上低い

【全 体】行政手続きの改善点は、「複数の窓口で手続きをしなければならないこと」が44.4%、「手続きごとに申請書などを書かなければならないこと」が37.7%、「どの窓口で手続きをすべきかわかりにくいこと」が33.2%となっている。

【性 別】「どの窓口で手続きをすべきかわかりにくいこと」、「書類の書き方がわかりにくいこと」、「パソコンやスマートフォンなどからオンラインで手続きや相談ができないこと」は、男性が女性より5.4ポイント以上高くなっている。

【年代別】29歳以下、30歳代では「パソコンやスマートフォンなどからオンラインで手続きや相談ができないこと」が最も高くなっている。一方、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「複数の窓口で手続きをしなければならないこと」が最も高くなっている。

資料 調査票

「市民意識調査」へのご協力をお願いします！

～ あなたの貴重な声が札幌の未来をつくれます ～

日頃から、札幌市政にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

この調査は、市民の皆さまのお考えやご要望を政策に反映させるため、無作為抽出により、5千人の市民の方にお送りしている非常に重要な調査です。

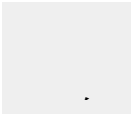
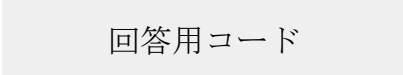
ぜひ、あなたの声をお聞かせください。ご回答よろしくお願いいたします。

ご安心ください 本調査は無記名です。個人のお名前が公表されたり、回答者が特定されることはございません。※下記の回答用コードも無作為で設定しており個人を特定するものではありません。

【回答期限】

令和7年 **12月14日（日）** までにご回答ください

◆ 回答方法をお選びください（どちらか一方でご回答ください）

WEBで回答する	この調査票で回答する
WEB回答がお手軽です！ 1. <u>スマートフォン・パソコン等</u>をご用意ください。 2.  <u>左の二次元コードまたは下のURLから回答ページにアクセス</u>してください。 <回答ページ> https://sapporo-awareness-survey.jp/no4/index.php 3. ログイン画面で下の<u>回答用コード</u>を入力してログインした後、<u>各設問にご回答</u>ください。 <回答用コード>  ※WEB回答の方は、この調査票の返送は不要です。	1. この調査票の各設問に従って <u>回答をご記入</u>ください。 2. ご記入後、折線に沿って折りたたみ、同封の「返信用封筒」に入れて、<u>上記回答期限までに 郵便ポストへご投函</u>ください。 ※<u>ご記名及び切手貼付は不要</u>です。 ※鉛筆・ボールペンなど筆記用具の種類は問いません。 ※この調査票で回答する場合の、<u>目安時間は15分程度</u>です。

◆ 調査テーマについて

番号	テーマ	掲載ページ
1	映像の力を使ったまちづくりについて	3～4
2	在宅医療・ACPについて	5～6
3	応急手当について	7～8
4	札幌の建設産業について	9～11
5	ひきこもりへの認識について	12～14
6	札幌市の仕事の取り組み方に対する評価について	15

- ・ 今回の調査は上記の6テーマです。
- ・ 各設問の案内に沿って、該当する番号を○で囲んでください。

次ページから調査開始です。最後までご回答よろしくお願いいたします。

市政広告

※この広告は、市民意識調査とは関係ありません。

札幌市地域包括支援センター

は高齢者に関する相談窓口です



札幌市地域包括支援センター
イメージキャラクター
「ほっター」

お気軽に
ご相談ください！

こんな時は、ご相談ください！

- さまざまな相談ごと
 - ・ひとり暮らしで今後が心配
 - ・もの忘れが多く認知症かもしれない
- 介護・介護予防について
 - ・介護保険の制度、介護サービスの利用について知りたい
 - ・介護予防に取り組みたい
- 権利を守ること
 - ・財産管理や契約が不安
 - ・悪質な訪問販売や高齢者虐待について相談したい
- 地域で暮らし続けるために
 - ・退院後も自宅で暮らしたい

など

お住まいの地域を担当する地域包括支援センターの連絡先は、こちらでご案内しています。



Webで確認する場合

札幌市 地域包括支援センター

検索



※三連用コード対応
機器が必要です。
※二連用コードは、撮影
角度によって読み取れ
ない場合があります。



お電話で確認する場合

フリーダイヤル

【札幌市コールセンター】011-222-4894

(年中無休、8時～21時) ※こちらでは相談はできません

札幌市保健福祉局 高齢保健福祉部 介護保険課 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

テーマ1 映像の力を使ったまちづくりについて

札幌市では、映像のもつ高い情報伝達力を活用し、経済の活性化や国内外への魅力発信などの取り組みを進めています。そこで、市民の皆さまの、映像や撮影に関する意識などをお聞きし、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。

映画、テレビドラマなどのロケーション撮影（屋外での撮影）を誘致し、撮影を円滑に進めるための支援を行う機関を「フィルムコミッション」といいます。

【札幌フィルムコミッション支援作品】



©2017「探偵はBARにいる3」製作委員会



©2018「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」製作委員会



問1 あなたは、フィルムコミッションの言葉の意味を知っていましたか。

1 知っていた

2 知らなかった

問2 あなたは、札幌市がフィルムコミッションの取り組みを支援していることを知っていましたか。

1 知っていた

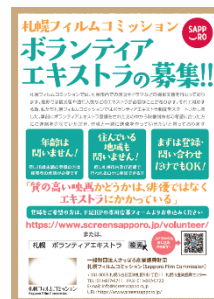
2 知らなかった

札幌フィルムコミッションでは、映画やテレビドラマなどの制作者から依頼があった場合に、参加していただけるボランティアエキストラ(※)を募集しております。

【ボランティアエキストラ募集ビジュアル】



【ボランティアエキストラ募集ポスター】



※ ボランティアエキストラとは、映画やテレビ等の撮影で、無償で群衆・通行人などを演じる出演者のことです。

問3 あなたは、札幌フィルムコミッションのボランティアエキストラ制度を知っていましたか。

1 知っていた

⇒ 問3-1 へ

2 知らなかった

⇒ 問4 へ

《次ページに続きます。》

《問3で「1 知っていた」と答えた方にお聞きします。》

問3-1 あなたが札幌フィルムコミッションのボランティアエキストラ制度を知った場所や方法について、次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 札幌市公式ホームページ | 2 札幌フィルムコミッションホームページ |
| 3 札幌フィルムコミッション公式SNS(※) | 4 映画やドラマなどのエンドクレジット |
| 5 上映会などのイベント会場 | 6 街頭に掲示されているポスター |
| 7 その他 () | 8 覚えていない |

※ Facebook、X(旧 Twitter)、Instagram、LINE などのソーシャル・ネットワーキング・サービスのこと

《皆さまにお聞きします。》

問4 あなたは、市内で行われる映画やテレビ番組などの撮影を見かけたら、どのように思いますか。それぞれの項目について、あてはまるものに一つだけ○をつけてください。

(1) 撮影に興味がありますか。

- | | | |
|---------|-------------|---------|
| 1 興味がある | 2 どちらともいえない | 3 興味がない |
|---------|-------------|---------|

(2) 撮影を迷惑だと感じますか。

- | | | |
|----------|-------------|-------|
| 1 迷惑ではない | 2 どちらともいえない | 3 迷惑だ |
|----------|-------------|-------|

(3) 撮影がスムーズに進むよう積極的に協力したいと思いますか(通行規制への協力、撮影の妨げとなる音を出さない、ボランティアエキストラとして参加するなど)。

- | | | |
|---------|-------------|-----------|
| 1 協力したい | 2 どちらともいえない | 3 協力したくない |
|---------|-------------|-----------|

問5 あなたは、商品やサービスを、映画やテレビ番組などで見たことを理由に選ぶことがありますか。あてはまるものに一つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---------|---|----------|
| 1 よくある | } | ⇒ 問5-1 へ |
| 2 たまにある | | |
| 3 あまりない | } | ⇒ テーマ2 へ |
| 4 ない | | |

《問5で「1 よくある」または「2 たまにある」と答えた方にお聞きします。》

問5-1 あなたが選んだ商品やサービスはどのような媒体で見かけましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 映画 | 2 テレビドラマ |
| 3 テレビバラエティ | 4 テレビドキュメンタリー |
| 5 テレビ報道 | 6 テレビショッピング |
| 7 テレビコマーシャル | 8 インターネット上の広告 |
| 9 動画投稿サイト (広告を除く) | 10 SNS (広告を除く) |
| 11 その他 () | |

テーマ2 在宅医療・ACPについて

「在宅医療」では、病気やけがなどにより通院が困難な人や人生の最終段階を迎えた人などが自宅や施設等の生活の場で必要な医療を受けられるよう、医師などが自宅等を訪問して看取りまでを含めた医療を提供します。

問6 あなたは、高齢や病気などが理由で通院することが困難となった場合に、人生の最期の時をどのように過ごしたいと思いますか。あてはまるものに**1つだけ**○をつけてください。

- 1 今まで通っていた（または入院している）病院等に入院したい
- 2 自宅で療養して、必要になれば病院等に入院したい
- 3 自宅で最期まで療養したい
- 4 老人ホーム等の施設に入所したい
- 5 その他（ ）
- 6 わからない

問7 あなたは、高齢や病気などが理由で通院することが困難となった際に、仮に在宅医療を利用とした場合、どのようなことに不安がありますか。あてはまるものに**いくつでも**○をつけてください。

- 1 家族等への負担
- 2 受けられる医療の内容
- 3 突然の体調変化等への対応
- 4 経済的な負担
- 5 自宅で療養できる住環境が整っていない
- 6 介助してくれる家族等がいない
- 7 その他（ ）
- 8 特になし
- 9 わからない

問8 あなたやあなたのご家族は、現在在宅医療を利用していますか。

- 1 利用している ⇒ **問8-1**へ 2 利用していない ⇒ **問9**へ

《**問8**で「1 利用している」と答えた方にお聞きします。》

問8-1 あなたやあなたのご家族は、現在利用している在宅医療に満足していますか。あてはまるものに **1つだけ**○をつけてください。

- 1 満足している
- 2 どちらかといえば満足
- 3 どちらかといえば不満
- 4 不満

《次ページに続きます。》



ACP
人生会議

《皆さまにお聞きします。》

1 知っていた ⇒ 問9-1 ∧ 2 知らなかった ⇒ 問10 ∧

- 1 札幌市が発行している冊子やパンフレット
- 2 札幌市の公式ホームページ
- 3 テレビ・ラジオ
- 4 新聞
- 5 札幌市以外が発行している冊子やパンフレット
- 6 札幌市公式以外のインターネット
- 7 研修会・講演会等
- 8 医療機関で教えてもらった
- 9 その他（ ）

1 話し合ったことがある ⇒ 問10-1 へ

2 話し合ったことはない ⇒ テーマ3 へ

1 病気やけがで入院したとき 2 体調や病状に変化があったとき

3 人間関係に変化があったとき 4 定期的に話し合っている

5 その他（ ）

テーマ3 応急手当について

命の危機にひんした方を救命・社会復帰させるために必要な一連の行動を「救命の連鎖」といいます。救命の連鎖をつなぐためには、その場に居合わせた方による応急手当が非常に重要です。

そこで、市民の皆さまの応急手当に対する意識をお聞きし、今度の応急手当の普及啓発への取り組みの参考とさせていただきます。



問11 あなたは、目の前で人が倒れたら、胸骨圧迫(心臓マッサージ)や、AEDを使った応急手当ができますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|--------------|---|-----------|
| 1 できると思う | } | ⇒ 問12 へ |
| 2 たぶんできると思う | | |
| 3 たぶんできないと思う | } | ⇒ 問11-1 へ |
| 4 できないと思う | | |
| 5 わからない | | ⇒ 問12 へ |

《問11で「3 たぶんできないと思う」または「4 できないと思う」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問11-1 あなたが、応急手当ができないと思う理由はなんですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 知識や技術が足りないから
- 2 他人に手を触れたくない・こわい
- 3 やり方を間違えて症状を悪化させないか心配
- 4 責任を問われそうで不安
- 5 接触による感染が心配
- 6 ストレスで自分の体調を崩さないか不安
- 7 面倒だから
- 8 その他 ()

《次ページに続きます。》

《皆さまにお聞きします。》

問 1 2 あなたは、普通救命講習などの応急手当講習を受けたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | | |
|---|---------------|---|----------------------|
| 1 | 1 回受けたことがある | } | ⇒ 問 1 3 へ |
| 2 | 2 回以上受けたことがある | | |
| 3 | 受けたことはない | | ⇒ 問 1 2 - 1 へ |

《**問 1 2**で「3 受けたことはない」に○をつけた方にお聞きします。》

問 1 2 - 1 応急手当講習を受けたことがない理由はなんですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 講習があることを知らなかった
- 2 申込方法や講習に関する情報がわからない
- 3 講習に興味がない
- 4 応急手当の方法を知っているので、講習を受ける必要がない
- 5 その他 ()
- 6 特に理由はない

《皆さまにお聞きします。》

問 1 3 これから応急手当講習を受けるとしたら、どの講習を受けてみたいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 救命入門コース（4 5 分間で胸骨圧迫・AED の使い方を学ぶ短時間講習）
- 2 普通救命講習Ⅰ（成人に対する応急手当を学ぶ3時間の講習）
- 3 普通救命講習Ⅲ（小児・乳幼児に対する応急手当を学ぶ3時間の講習）
- 4 応急手当 WEB 講習（パソコンやスマートフォンなどで動画を見ながら学べるコンテンツ）
- 5 その他 ()
- 6 特に受けたたい講習はない

テーマ4 札幌の建設産業について

建設産業は、社会インフラの整備や維持、災害対応や道路の除排雪など、市民生活や経済活動を支える重要な役割を担っています。この建設産業は、就業者の高齢化が進行しており、近い将来には、社会インフラの維持管理などに必要な体制が確保できなくなることが懸念されています。そこで、建設産業に関する皆さまの認識などをお聞きし、今後の施策の参考とさせていただきます。

問14 下記の項目は、建設産業が行っている主な仕事の種類です。あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

- 1 道路工事
- 2 上下水道工事
- 3 建築工事
- 4 公園工事
- 5 設備工事
- 6 建物の解体
- 7 道路の除排雪
- 8 土地の測量
- 9 地盤の調査
- 10 土木関連の設計
- 11 建物の設計
- 12 電気設備や機械設備の設計
- 13 その他（
- 14 知っているものはない

）

問15 下記の項目は、建設産業の主な職種です。あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1 大工 | 2 とび工 |
| 3 配管工 | 4 塗装工 |
| 5 建具工 | 6 電気工 |
| 7 造園工 | 8 舗装工 |
| 9 機械運転手 | 10 施工管理 |
| 11 建設ディレクター | 12 測量士 |
| 13 地質調査士 | 14 建築士 |
| 15 建設コンサルタント（技術士） | 16 IT技術者 |
| 17 事務職 | 18 営業職 |
| 19 その他（ | 20 知っているものはない |

《次ページに続きます。》

問 1 6 あなたは建設産業に対してどのようなイメージをもっていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 まちをつくる仕事 | 2 災害時に活躍している |
| 3 除雪作業を行っている | 4 社会に必要な仕事 |
| 5 専門的な職業 | 6 やりがいがある職業 |
| 7 あこがれる職業 | 8 働いてみたい職業 |
| 9 体力が必要な仕事 | 10 給料が低い仕事 |
| 11 危険な仕事 | 12 休みがない仕事 |
| 13 労働時間が長い仕事 | 14 屋外で作業する仕事 |
| 15 厳しい（こわい）人が多い | 16 やさしい人が多い |
| 17 男性が多く体育会系の職場 | 18 女性が増えてきている |
| 19 あてはまるものはない | |

問 1 7 あなたが、建設産業に対して**問 1 6**のイメージを持ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 新聞の記事
- 2 チラシ広告
- 3 テレビ（CM）
- 4 テレビ（ニュース）
- 5 Youtube
- 6 Facebook
- 7 X（旧 Twitter）
- 8 Instagram
- 9 現場見学会に参加
- 10 街で行っているイベント
- 11 地下鉄やバスの広告
- 12 家族や知り合いからの話を聞く
- 13 工事の現場や囲いを見た時
- 14 仕事を依頼する時（家などの新築や修理時）
- 15 学校の授業で学ぶ
- 16 その他（）
- 17 特にきっかけはない

問 1 8 下記の項目は、建設会社が目指す主な会社像です。あなたが良いと思うものにいくつでも○をつけてください。

- 1 長く続いている会社
- 2 大きな仕事をしている会社
- 3 地域に密着した会社
- 4 積極的にボランティアを行う会社
- 5 発信力のある会社
- 6 スポーツなどを応援している会社
- 7 先進技術を活用している会社
- 8 SDG s に取り組む企業
- 9 災害時に活躍する会社
- 10 脱炭素（カーボンニュートラル）に取り組む会社
- 11 女性が活躍する会社
- 12 若者が活躍する会社
- 13 親切的な従業員がいる会社
- 14 従業員が楽しそうに仕事をしている会社
- 15 その他（）
- 16 わからない

問 1 9 あなたが、働く会社を選ぶ場合に特に重要な条件は何ですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

《以下から最大3つまで○をつけてください。》

- 1 業務内容
- 2 給料（収入）
- 3 休日・休暇
- 4 勤務時間（労働時間）
- 5 福利厚生の内容
- 6 勤務地
- 7 転勤の有無
- 8 経営状況
- 9 従業員数
- 10 入社後の育成環境
- 11 企業理念
- 12 職場の雰囲気
- 13 その他（）
- 14 特にない・わからない

《次ページへお進みください》

テーマ5 ひきこもりへの認識について

近年、ひきこもりの長期化・高齢化が問題となっており、当事者や家族にとって大きな負担であるだけでなく、大きな社会的損失ともなっています。ひきこもり状態となる理由や背景など、一人ひとりの状況は違いますが、札幌市においても、社会的に孤立し孤独を感じていたり、何らかの生きづらさを抱え生活上の困難を感じている、ひきこもり状態の人がたくさんいます。

そこで、今後の「ひきこもり支援」施策の参考とするために、皆さまの「ひきこもり」に関する意識などについてお聞きいたします。

問20 あなたは「ひきこもり」という言葉から、特にどのような年齢層を思い浮かべますか。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

- 1 児童層（15歳未満）
- 2 若年層（15～39歳）
- 3 中年層（40～64歳）
- 4 高齢層（65歳以上）
- 5 年齢は関係ない
- 6 わからない

問21 あなたは「ひきこもり」という言葉から、どの性別を思い浮かべますか。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

- 1 男性
- 2 女性
- 3 性別は関係ない
- 4 わからない

問22 あなたは、家や自室にどのくらいの期間ひきこもっていた場合、「ひきこもり」の状態にあると思いますか。あてまるものに 1つだけ○をつけてください。

- 1 2週間以上
- 2 1か月以上
- 3 3か月以上
- 4 6か月以上
- 5 1年以上
- 6 期間は関係ない
- 7 わからない

問23 あなたは「ひきこもり」の状態になるきっかけとして、何が多いと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1	不登校（小学校・中学校・高校等）
2	受験に失敗した（高校・大学等）
3	就職できなかった
4	失業または離職した
5	家族や家庭環境の問題
6	身体的な病気・ケガ
7	精神的な病気
8	人間関係がうまくいかなかった（家族・友人・先生・職場の人など）
9	いじめ、ハラスメントを受けた
10	妊娠した
11	家族の看護、介護
12	事故や犯罪被害等の問題
13	性格的に社会へ馴染めなかった
14	その他（ ）
15	特に理由はない
16	わからない

問24 あなたは「ひきこもり」という状態について、どのような印象・考えを持っていますか。次のア～オのそれぞれの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

	そう 思う	ある 程度 そう 思う	ど ち ら で も な い	あ ま り 思 わ な い	そ う 思 わ な い
「ひきこもり」という状態についての印象・考え					
ア 「ひきこもる」ことは、誰にでもどの家族にも起こりうることである	1	2	3	4	5
イ ひきこもり状態で支援の必要な人は、何らかの生きづらさを抱え生活上の困難を感じている状態にある	1	2	3	4	5
ウ ひきこもり状態になることは、甘えや怠けなどといった本人に問題がある	1	2	3	4	5
エ ひきこもり支援では、本人の社会参加や就労のみをゴールにするべきではない	1	2	3	4	5
オ ひきこもり支援では、本人やその家族が自らの意志により、自身が目指す生き方や、社会との関わり方等を決めていくことができるようになること（自律）が大切である	1	2	3	4	5

《次ページに続きます。》

札幌市では、ひきこもり状態にある人や、そのご家族を支援するための第一相談窓口として「**札幌市ひきこもり地域支援センター**」を設置しております。

問25 あなたは、「札幌市ひきこもり地域支援センター」をご存じですか。あてはまるものに 1つだけ ○をつけてください。

- 1 知っており、相談をしたことがある 2 知っているが、相談したことはない
3 名前は知っているが、よくは知らない 4 知らない

札幌市では、ひきこもり状態にある本人やそのご家族が安心して集まり交流する場として、ひきこもり経験のある当事者スタッフが運営している居場所である、ひきこもりに関する集団型支援拠点「よりどころ」を開設しています。

問26 あなたは、ひきこもりに関する**集団型支援拠点「よりどころ」**をご存じですか。あてはまるものに**1つだけ**○をつけてください。

- 1 知っており、参加したことがある 2 知っているが、参加したことはない
3 名前は知っているが、よくは知らない 4 知らない

問27 あなたは、ひきこもり状態にある人が家族や知り合い以外に相談する場合、どのような人や場所なら相談したいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 相手が同じ悩みを持っている、持っていたことがある
- 2 相手が同世代である
- 3 相手が同性である
- 4 匿名で（自分が誰かを知られずに）相談できる
- 5 電話・メール・SNS などを用いて、窓口に行かず相談できる
- 6 相談できる場所が自宅から近い
- 7 相手が相談に来てくれる
- 8 曜日・時間帯など気にせず相談できる
- 9 無料で相談できる
- 10 何度でも同じ内容であっても相談できる
- 11 本人の意向、ペースに合わせて支援の相談ができる
- 12 いろいろな相談が1か所でできる
- 13 相手先が公的な支援機関である
- 14 相手先が民間の支援機関（NPO など）である
- 15 相手が医師である
- 16 相手がカウンセラーなど心理学の専門家である
- 17 AI 相談やチャットボットなど、人を介さず相談できる
- 18 その他（ ）
- 19 条件に関わらず相談しようと思わない
- 20 わからない

テーマ6 札幌市の仕事の取り組み方に対する評価について

札幌市では、「市民目線」を大切にした行政運営を心掛けています。そこで、市民の皆さまが、市役所の仕事の取り組み方に対してどのような意識をお持ちなのかをお聞きし、行政運営を改善するための参考とさせていただきます。

問28 あなたは、市役所や区役所の仕事の取り組み方に対して、どのように思いますか。次のア、イの項目について、あてはまる数字に1つずつ○をつけてください。

項 目 (市役所の仕事の取り組み方)	よく やっ てい る と 思 う	ど ち ら か と い え ば よ く や っ て い る と 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば 不 満 で あ る	不 満 で あ る
ア 市政情報を積極的にわかりやすく発信している	1	2	3	4	5
イ 事務や事業の効率化、見直しを進めている	1	2	3	4	5

問29 あなたは、市役所や区役所の手続きにおいて、どのようなことを改善すべきと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 どの窓口で手続きするべきかわかりにくいこと
- 2 複数の窓口で手続きをしなければならないこと
- 3 窓口の配置や表示がわかりにくいこと
- 4 手続きに必要な書類などが事前に調べにくいこと
- 5 書類の書き方がわかりにくいこと
- 6 書類に記入すべき欄が多いこと
- 7 手続きごとに申請書などを書かなければならないこと
- 8 市役所や区役所以外で手続きができないものが多いこと
- 9 パソコンやスマートフォンなどからオンラインで手続きや相談ができないこと
- 10 職員の説明がわかりにくいこと
- 11 その他 ()
- 12 わからない
- 13 特になし

《次ページ 最後あなた自身のこと(属性)についてご回答願います。》

≪最後にあなたご自身のことについておたずねします。あてはまるものに○をつけてください。≫

F 1 あなたの性別は

- 1 男性 2 女性 3 その他

F 2 あなたの年齢は（令和7年8月1日現在）

- 1 18～19 歳 2 20～29 歳 3 30～39 歳 4 40～49 歳
5 50～59 歳 6 60～69 歳 7 70～74 歳 8 75 歳以上

F 3 あなたは現在何区にお住まいですか

- 1 中央区 2 北区 3 東区 4 白石区 5 厚別区
6 豊平区 7 清田区 8 南区 9 西区 10 手稲区

F 4 あなたのご職業は（もっとも近いもの1つに○をつけてください。）

- 1 会社員 2 公務員 3 自営業 4 パート・アルバイト
5 主婦・主夫 6 学生 7 無職 8 その他

F 5 あなたの同居しているご家族は（あてはまるものにいくつでも○をつけてください。）

- 1 配偶者 2 乳幼児（0～2 歳程度）
3 就学前児童（3～5 歳程度） 4 小学生（6～12 歳程度）
5 中学生（13～15 歳程度） 6 高校生（16～18 歳程度）
7 大学（院）・専門学校生 8 65 歳以上の高齢者
9 上記「1」～「8」以外の方 10 いない

以上で調査は終了です。お疲れ様でした。

このたびは、お忙しいところ調査にご協力いただき、誠にありがとうございました。

< 郵送でお送りいただく場合 >

- ① 調査票を1ページ目の折線に沿って、三つ折りにしてください。
② 同封の返信用封筒に入れてください。
③ 無記名で切手を貼らずに、ポストにご投函ください。

投函期限

令和7年12月14日（日）

※期限までにご投函いただいた分を集計対象とさせていただきます。

【よくある質問(FAQ)】

https://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnoe/citi_enq/faq.html

【市民意識調査に関するお問い合わせ先】

札幌市総務局広聴部市民の声を聞く課
電話：011-211-2045 担当：浅川

SAPPORO